保管用　屋内専用

ＲＸ１４００　ＧＲ型受信機／分散処理盤

取扱説明書

Ni-Cd
ニカド電池は
リサイクルへ

●お買い上げありがとうございます。
●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
　ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。
●この取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては
　責任を負いかねることがあります。

＜　品　　番　＞　ＧＲ型受信機／分散処理盤：ＮＢＳ５２７ＢＥ□□／ＮＣＨ５７２ＢＥ□□
（□□は感知器伝送系統数）
●２系統：６３６アドレス　●４系統：１２７２アドレス

＜国家検定型式番号＞　ＧＲ型受信機／分散処理盤：受第３０～５号／中第３０～１２号

ご使用前に

●この設備は、火災感知器などからの信号を受けて火災の発生を報知したり、防火戸などを自動的に作動させたり、ガス漏れ検知器などの信号を受けてガス漏れの発生を報知する働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災・ガス漏れなどによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
●この設備は皆様の生命・財産を火災・ガス漏れから守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
●この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検と日常の点検を行ってください。
（定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。）

取り扱いについてのご注意

●平常時には次のことを守ってください。
受信機の取り扱いを誤ると火災時・ガス漏れ時に正しく動作せず、避難・消火・換気・爆発防止活動が大幅に遅れるおそれがあります。

●ベル（地区音響）一時停止を押さない。
●点検時音響停止、地区音響強制停止状態にしない。
●交流電源スイッチを切らない。予備電源の接続コネクタをはずさない。

●警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

火災の場合
●１１９番などに通報する。
●避難誘導および、可能であれば初期消火をする。

火災でない場合
●発生原因がわかれば取り除く。
●発生原因不明のときは点検契約店に連絡する。

ガス漏れの場合
●火気は使用しない。
●電気製品のスイッチはさわらない。
●ドアや窓をあけ、部屋の空気をいれかえる。
●避難誘導をする。

ガス漏れでない場合
●発生原因がわかれば取り除く。
●発生原因不明のときは点検契約店に連絡する。

使用上の注意
機器を分解したり、改造しないでください。
また落下させたり、衝撃を与えるような取り扱いはしないでください。
故障の原因となります。

NDC 日本ドライケミカル株式会社

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を区分して、説明しています。

⚠危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です。）

⃠	してはいけない内容です。	❗	実行しなければならない内容です。

⚠危険

接触禁止

取り扱い管理される方へ

●ガス漏れ警報時、換気扇、扇風機および照明器具などの電気製品のスイッチはさわらない。
火花などによる爆発のおそれがあります。

安全上のご注意

⚠警告

禁止	**取り扱い管理される方へ** **●保守・点検以外で、ベル（地区音響）一時停止スイッチを押さない。** 火災時にすぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。 （ベル（地区音響）一時停止スイッチを押すと、スイッチ内のランプ、スイッチ注意灯が点滅します。） **●防火管理者および電気工事士・消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れない。** 感電・故障の原因となります。 **●ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。** 感電・故障の原因となります。 **●感知器は絶対に取りはずさない。** 出火時に火災発見ができません。 **●ガス漏れ検知器は絶対に取りはずさない。** ガス漏れの発見ができません。 **●防火戸・シャッター・防煙垂れ壁などの近くに、物を置かない。** 火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。
分解禁止	**●機器を分解したり、修理・改造はしない。** 感電・故障の原因となります。
禁止	**点検・施工される方へ** **●工事・保守・点検以外で、点検時音響停止状態および、地区音響強制停止状態にしない。** 火災・ガス漏れ時に警報音が出ないため避難・消火・換気・爆発防止活動が大幅に遅れる危険があります。（停止状態にすると、スイッチ注意灯が点滅し、液晶表示部に状態表示を行います。又、地区音響強制停止状態時には地区音響強制停止灯も点滅します。） **●ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。** 感電・故障の原因となります。 **●工事・保守・点検以外で、感知器は絶対に取りはずさない。** 出火時に火災発見ができません。 **●工事・保守・点検以外で、ガス漏れ検知器は絶対に取りはずさない。** ガス漏れの発見ができません。 **●予備電源に使用しているニッケルカドミウム蓄電池は火に投入したり、ショートさせない。** 爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。 **●防火戸・防火シャッター・防煙垂れ壁などの近くに、物を置かない。** 火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。
必ず守る	**●点検などで作動させる場合は、連動している設備（防火シャッター・防火戸・ガス系消火設備など）の内容を十分確認して操作する。** 不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害を及ぼすおそれがあります。 **●予備電源は必ず接続する。** 予備電源を接続していないと停電時に機能しません。
分解禁止	**●機器を分解したり、修理・改造はしない。** 感電・故障の原因となります。

【予備電源に使用しているニッケルカドミウム蓄電池の取り扱い上のご注意】

⚠注意

禁止	**●ニッケルカドミウム蓄電池は絶対に分解しない。** 電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類をいためたりします。 **●交換したニッケルカドミウム蓄電池は、火中に投入したり、ショートさせない。** ニッケルカドミウム蓄電池が破裂する場合があり、危険です。蓄電池はリサイクルにご協力ください。
必ず守る	**●コネクタは極性を守って正しく接続する。** 逆に接続するとニッケルカドミウム蓄電池のふくれや破裂の危険性があります。

定期点検について

防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなって、はじめて正常な機能を発揮する商品です。
施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

点検は法律で義務づけられています・・・・・・・・・・

消防関係法令では、防火対象物の関係者（建物の所有者、管理者または占有者）は、定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

■消防法施行規則第31条の6

●点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内で、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
●点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければならない。

■点　検

対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
●自動火災報知設備 ●ガス漏れ火災警報設備	機器点検	6ヶ月に1回
	総合点検	1年に1回
配線	総合点検	1年に1回

自動試験適用範囲については、機器点検、総合点検の一部が免除されます。消防機関とお打合せください。

■報　告

特定防火対象物の場合	1年に1回
特定防火対象物以外の場合	3年に1回

点検には資格が必要です・・・・・・

定期点検は、国が定めた資格者（消防設備点検資格者または消防設備士）が行うよう、法令で決められています。

■消防法第17条の3の3

●消防用設備の点検は、消防設備士または総務省令で定める資格者に行わせなければならない。

「専門知識を有する会社」と点検契約をおすすめします

日本ドライケミカル製品取扱店と「点検契約」を結びますと、専門の知識・技術を持つ有資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。
防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。

MEMO

もくじ

1. 各部の名称とはたらき（受信機）		・・・・・	**1～5**
1－1.	受信機概略姿図	・・・・・	1
1－2.	地区表示部	・・・・・	2～3
1－3.	表示操作部	・・・・・	4
1－4.	点検スイッチ	・・・・・	5
2. 受信機の状態表示について		・・・・・	**6～7**
2－1.	平常時の受信機状態	・・・・・	6
2－2.	受信機起動時の状態について	・・・・・	6
2－3.	スイッチ注意灯の点滅要因	・・・・・	7
2－4.	その他の状態表示について	・・・・・	7
3. 受信機の動作について		・・・・・	**8～17**
3－1.	火災発報時の動作	・・・・・	8
3－2.	注意表示発報時の動作（アナログ式感知器の場合のみ）	・・・・・	9～10
3－3.	非火災要因の入力方法について	・・・・・	11
3－4.	ガス漏れ発生時の動作	・・・・・	12
3－5.	防排煙機器作動時・諸警報機器作動時の動作	・・・・・	13
3－6.	トラブル発生時の動作	・・・・・	14
3－7.	自火報電話機の使い方	・・・・・	15
3－8.	付属設備の連動について	・・・・・	15
3－9.	警報音（音声警報）	・・・・・	16
3－10.	拡大警報について	・・・・・	17
4. 日常点検について		・・・・・	**18**
5. お手入れ方法		・・・・・	**19**
6. 異常時の点検・処置		・・・・・	**20～26**
7. 画面説明		・・・・・	**28～38**
7－1.	液晶表示部の画面表示	・・・・・	28～31
7－2.	液晶表示部の画面操作	・・・・・	32～34
7－3.	液晶表示部の画面一覧と構成	・・・・・	35～38
8. 操作方法　取り扱い管理者様向		・・・・・	**40～60**
8－1.	管理者用画面	・・・・・	40～44
8－2.	火災画面	・・・・・	45～46
8－3.	ガス画面	・・・・・	47
8－4.	警報画面	・・・・・	48～50
8－5.	トラブル画面	・・・・・	51～52
8－6.	経過画面	・・・・・	53
8－7.	操作画面　基本操作	・・・・・	54～60

もくじ

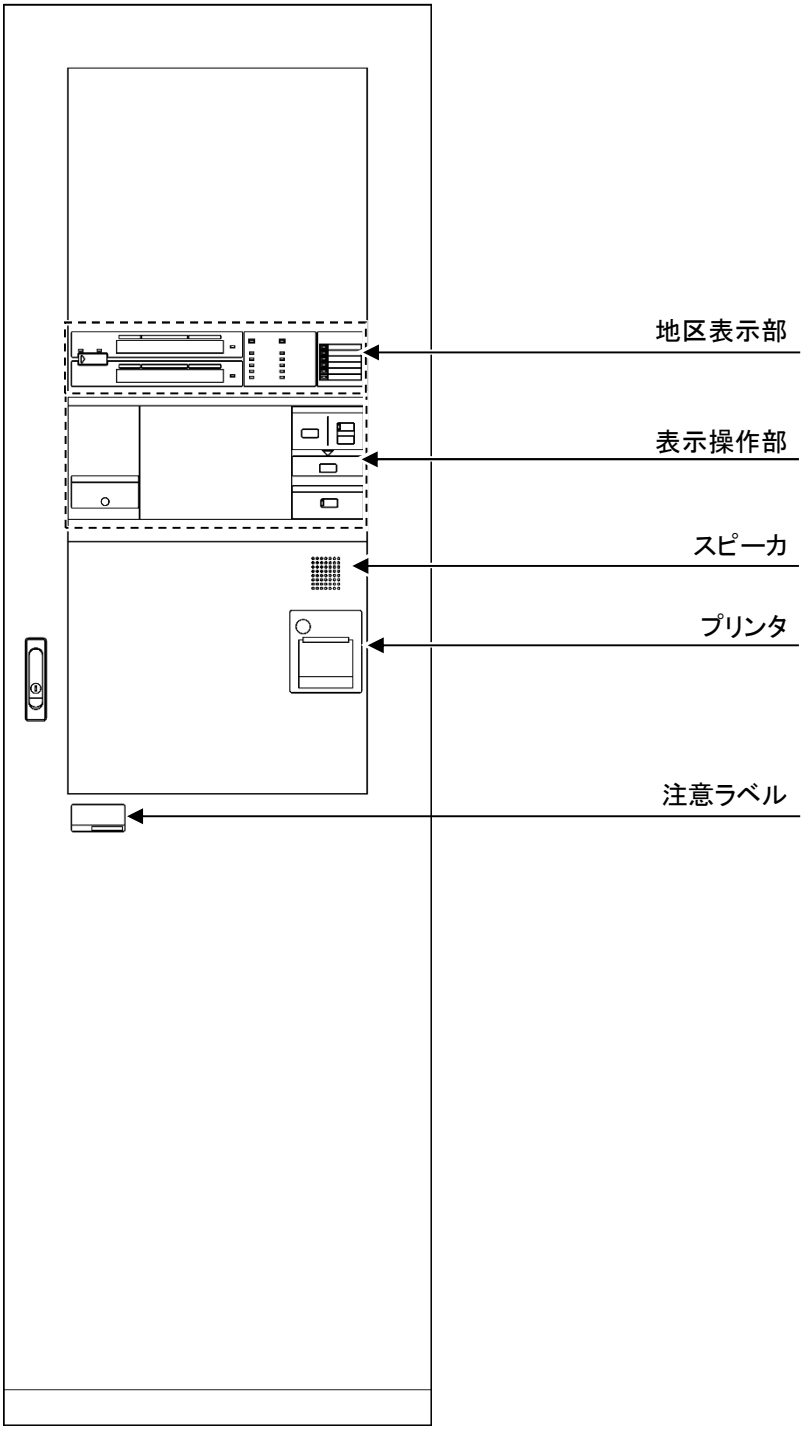
9. 操作方法　点検・施工業者様向	・・・・・	**61～85**
9－1.　管理者用画面	・・・・・	61
9－2.　操作画面　試験・制御	・・・・・	62～70
9－3.　操作画面　点検・設定	・・・・・	71～85
10. 各部の名称とはたらき（分散処理盤）	・・・・・	**87～88**
10－1.　分散処理盤概略姿図（内器）	・・・・・	87
10－2.　分散処理盤操作部	・・・・・	88
11. 分散処理盤の状態表示について	・・・・・	**89**
11－1.　平常時の分散処理盤状態	・・・・・	89
12. 各種試験・機能	・・・・・	**91～99**
12－1.　一斉試験について	・・・・・	91
12－2.　予備電源試験について	・・・・・	91
12－3.　火災試験について	・・・・・	92
12－4.　ガス漏れ試験について	・・・・・	92
12－5.　模擬試験について	・・・・・	93
12－6.　自動試験について	・・・・・	94
12－7.　試験開始不可要因について	・・・・・	95
12－8.　試験中断要因について	・・・・・	95
12－9.　主幹線の切替動作について	・・・・・	96～97
12－10.　分散動作について	・・・・・	98
12－11.　その他	・・・・・	99
13. 部品などの交換方法	・・・・・	**100～103**
13－1.　予備電源の交換方法	・・・・・	100
13－2.　プリンタ用紙の交換方法	・・・・・	101
13－3.　ヒューズの交換方法	・・・・・	102
13－4.　感知器・表示灯について	・・・・・	102
13－5.　諸警報表示部について	・・・・・	103
14. 更新（交換）時期の目安	・・・・・	**104**
15. 定格・仕様	・・・・・	**105～114**

付録. 簡易取扱説明書

MEMO

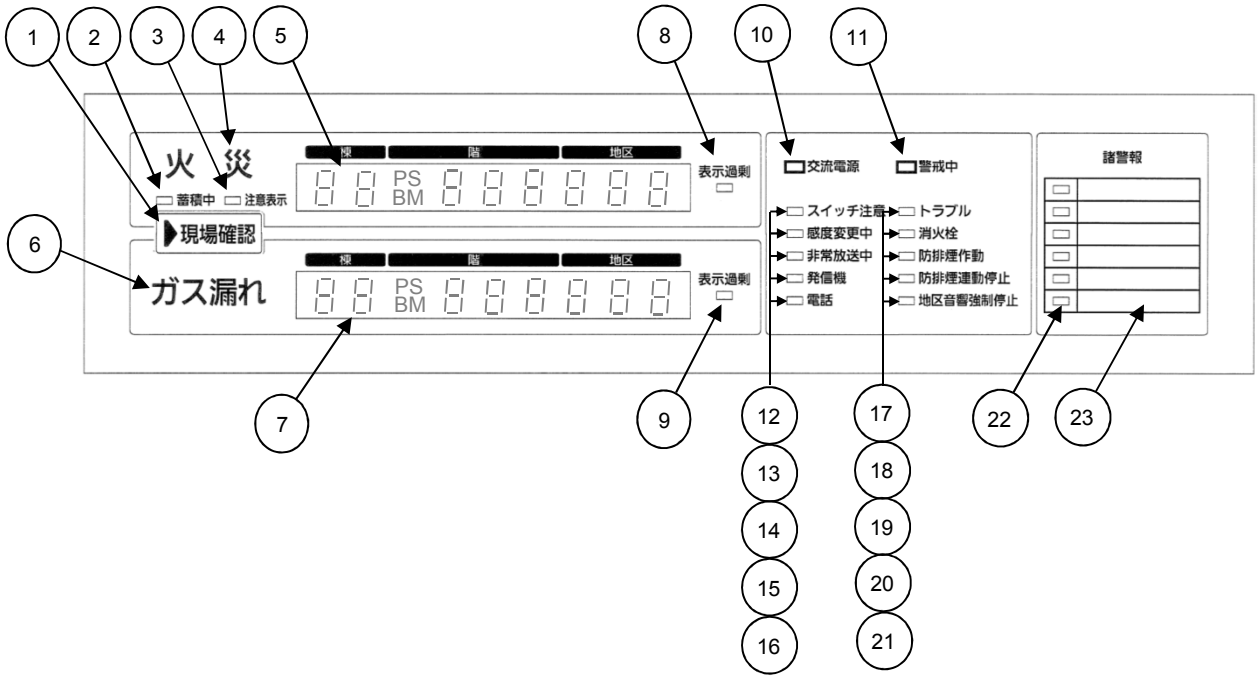
1. 各部の名称とはたらき（受信機）

1-1. 受信機概略姿図



1. 各部の名称とはたらき（受信機）

1-2. 地区表示部



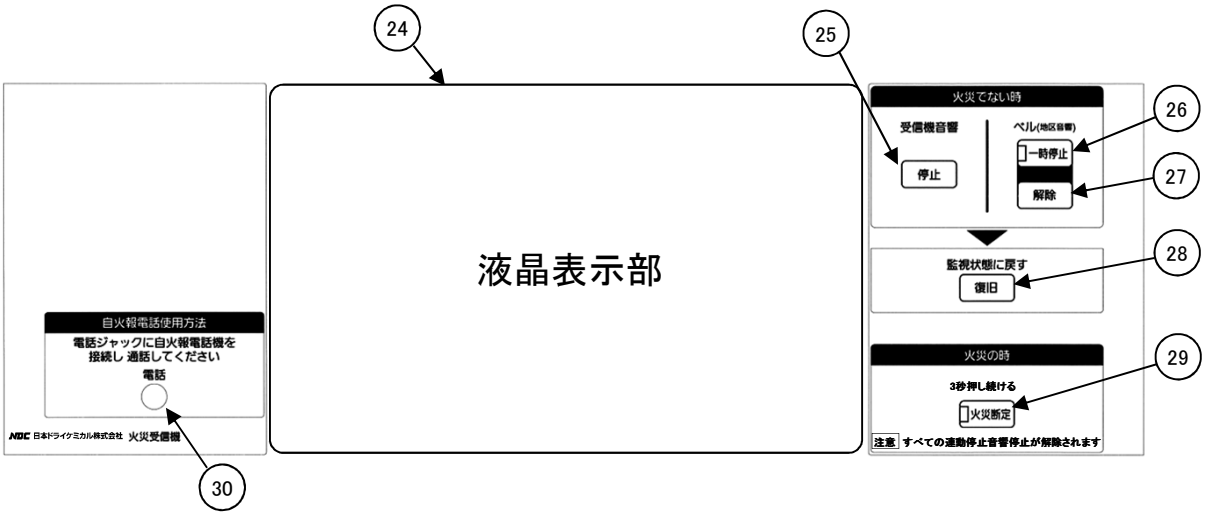
番号	名　称	発光色	備　考
1	現場確認灯	赤色　点滅	火災（注意表示含む）・ガス漏れが発生すると点滅します。
2	蓄積中灯	緑色　点灯 橙色　点灯	火災蓄積中に緑色で点灯します。 火災試験熱蓄積中に橙色で点灯します。 （アドレスアダプタ，一般R型中継器、P型自動試験中継器、PX端末）
3	注意表示代表灯	赤色　点滅	注意表示が発生すると点滅します。
4	火災代表灯	赤色　点滅	火災が発生すると点滅します。
5	火災第1報地区表示部	赤色　点滅 赤色　点灯	第1報火災発生地区を棟2桁、階3桁、地区3桁で表示します。 注意表示：点滅表示します。　火災発生：点灯表示します。
6	ガス漏れ代表灯	黄色　点滅	ガス漏れが発生すると点滅します。
7	ガス第1報地区表示部	赤色　点滅 赤色　点灯	第1報ガス発生地区を棟2桁、階3桁、地区3桁で表示します。 ガス漏れ警報：点滅表示します。 ガス漏れ発生：点灯表示します。
8	火災表示過剰灯	赤色　点灯	注意表示及び火災発生が2報以上で、点灯します。
9	ガス表示過剰灯	赤色　点灯	ガス漏れ警報及びガス漏れ発生が2報以上で、点灯します。

1．各部の名称とはたらき（受信機）

番号	名　称	発光色	備　考
10	交流電源灯	緑色　点灯	交流電源通電中に点灯します。
11	警戒中灯	緑色　点灯	警報信号を受信可能な時に点灯します。
12	スイッチ注意灯	赤色　点滅	スイッチ状態が定位でない時に点滅します。
13	感度変更中灯	赤色　点滅	感度が変更されている時に点滅します。
14	非常放送中灯	赤色　点滅	非常放送が放送されている時に点滅します。
15	発信機灯	赤色　点滅	発信機の押しボタンが押された時に点滅します。
16	電話灯	赤色　点滅	自火報電話機からの呼出があると点滅します。
17	トラブル灯	赤色　点滅	故障（トラブル）が発生した時に点滅します。
18	消火栓灯	赤色　点滅	消火栓が起動した時に点滅します。
19	防排煙作動灯	赤色　点滅	防排煙機器が作動した時に点滅します。
20	防排煙連動停止灯	赤色　点滅 赤色　点灯	防排煙連動停止中かつ連動要因が発生した時に点滅します。 防排煙連動停止中は点灯します。
21	地区音響強制停止灯	赤色　点滅	地区音響強制停止スイッチが設定されていると点滅します。
22	諸警報表示灯	赤色　点灯	連動テーブルに設定された条件により点灯します。
23	諸警報表示部	―――――	諸警報の名称を明記してください。 （「13－5．諸警報表示部について」を参照ください。）

1. 各部の名称とはたらき（受信機）

1-3. 表示操作部

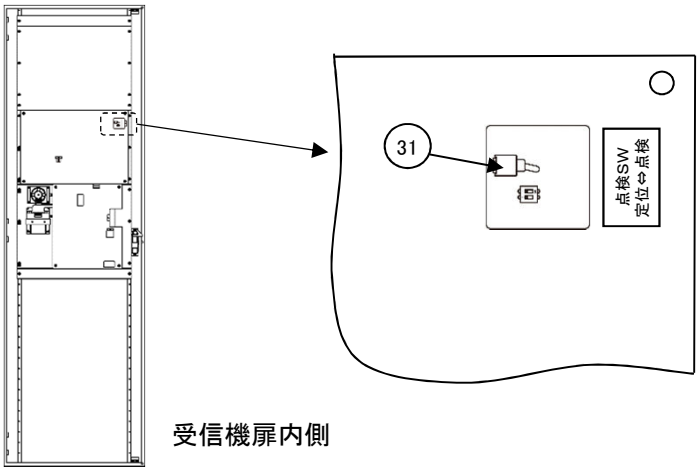


番号	名称	備考
24	液晶表示部 （液晶画面）	火災発報・ガス漏れ発生等の情報や操作スイッチなどの表示、操作を行います。 注 液晶表示部の破損や故障の原因となりますので、強い衝撃や振動をあたえないでください。
25	受信機音響停止スイッチ	押すと主音響（火災主音響・注意表示音響・ガス漏れ音響・トラブル音響・機器作動音響）が停止します。 （受信機音響を一度止めても、新規警報が発生した場合には、新規警報を優先して再鳴動します。）
26	ベル（地区音響）一時停止スイッチ	押すと地区音響が一時的に停止し、スイッチ内のランプが点滅します。 ・鳴動停止時間（自動解除時間：TA）は設定変更することができます。施工店にご相談ください。
27	ベル（地区音響）一時停止解除スイッチ	押すと地区音響一時停止状態を解除します。
28	復旧スイッチ	押すと受信機を監視状態に戻します。
29	火災断定スイッチ	火災発生時に3秒以上押し続けると、スイッチ内のランプが点灯し、地区音響鳴動停止、防排煙連動停止、移信停止、消火栓連動停止、周辺機器移報停止、プリンタ停止、点検時音響停止を解除します。
30	電話ジャック	地区表示部の電話灯点滅時に自火報電話機を接続すると通話できます。

1. 各部の名称とはたらき（受信機）

1-4. 点検スイッチ

点検スイッチは、受信機函体の扉内側にあり、点検時に操作するスイッチです。



番号	名称	備考
31	点検スイッチ （点検SW）	・スイッチの状態（定位側：監視モード、点検側：点検モード） ・スイッチが点検側のときは液晶表示部上部に「点検」を表示します。 （スイッチ注意灯も点滅します。） 操作画面で「点検・設定」を表示します。 注 点検スイッチ（点検SW）が「点検」側では、火災発生時・ガス漏れ発生時の液晶表示部の自動表示切替は行なわれません。

2. 受信機の状態表示について

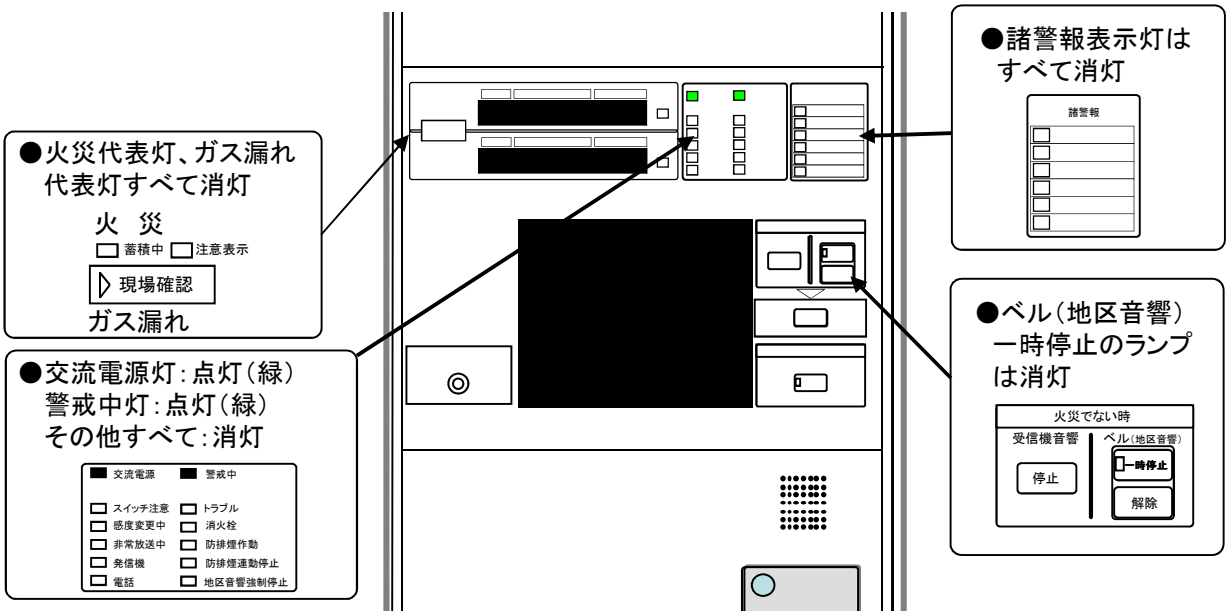
2-1. 平常時の受信機状態

●受信機を起動させるときは、交流電源スイッチを“入”に し、予備電源の接続コネクタを全て接続してください。
（受信機の電源を切るには予備電源の接続コネクタを全て外し、交流電源スイッチを“切”にしてください。）

⚠注意

受信機のスイッチなどが定位の状態であることを確認してください。
工事・保守・点検以外で、交流電源スイッチを切ったり、予備電源の接続コネクタをはずしたりしないでください。
平常時の状態でないと火災時やガス漏れ時に正しく動作しません。

●火災が発生したとき受信機が正しく動作するよう、平常時は下図の状態であることをお確かめください。
平常時において下図のような状態とならない場合は、「6. 異常時の点検・処置」の内容をご確認のうえ、点検契約店にご連絡ください。



2-2. 受信機起動時の状態について

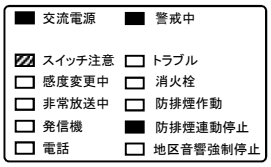
●受信機の起動時は、各種連動停止状態で受信機が起動します。

（表示状態）
- ・交流電源灯　：点灯（緑）
- ・警戒中灯　：点灯（緑）
- ・防排煙連動停止灯　：点灯（赤）
- ・スイッチ注意灯　：点滅（赤）

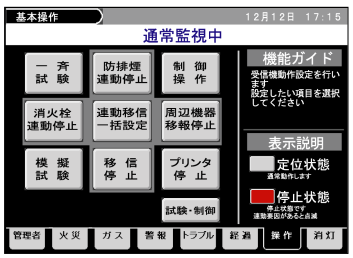
（スイッチ状態）
- ・防排煙連動停止　：連動停止状態
- ・移信停止　：連動停止状態
- ・周辺機器移報停止　：移報停止状態
- ・消火栓連動停止　：連動停止状態

※連動停止の機器は連動テーブルでスイッチ設定に登録されているものに限ります。
※警戒中灯が点灯するまで模擬試験、火災試験、ガス漏れ試験は実行できません。

起動時表示例



●上記スイッチの停止を解除し、定位状態にして、受信機を平常時の状態にしてください。



基本操作画面の連動移信一括設定にて一括解除操作を行うと防排煙連動停止、移信停止、周辺機器移報停止、消火栓連動停止が一斉に解除されます。（58ページ参照）

（注）「防排煙連動停止」「移信停止」「周辺機器移報停止」「消火栓連動停止」が点滅している状態で、一括解除操作を行うと該当の連動出力、移信、移報が出力しますので、ご注意ください。

2. 受信機の状態表示について

2-3. スイッチ注意灯の点滅要因

・以下のスイッチが定位状態でない場合にスイッチ注意灯が点滅します。
（スイッチ注意灯の点滅要因は、管理者用画面－スイッチ注意灯の点滅要因確認（41ページ）にて確認できます。）

スイッチ名称、状態	設定方法参照ページ	備考
移信停止	56	受信機起動時は停止状態です。
消火栓連動停止	57	
防排煙連動停止	55	
周辺機器移報停止	58	
プリンタ停止	59	
蓄積解除	62	
遅延解除	62	
試験復旧	85	液晶表示部上部に「復旧」を表示します。
地区音響強制停止	71	地区音響強制停止灯が点滅します。 液晶表示部上部に「ベル停」を表示します。 ※模擬試験、画面消灯はできません。
点検時音響停止	71	警戒中灯が消灯します。 液晶表示部上部に「音停」を表示します。 ※模擬試験、画面消灯はできません。
点検スイッチ（点検SW）	5	液晶表示部上部に「点検」を表示します。
マスク設定中	76～77	
故障送信停止中	75	
分散時連動停止	88	分散処理盤内の分散時連動停止スイッチが対象です。

2-4. その他の状態表示について

試験状態	備考
定時試験中	液晶表示部上部に「試験」を表示します。（背景　灰色）
模擬試験中	液晶表示部上部に「試験」を表示します。（背景　緑色）
火災試験中	液晶表示部上部に「試験」を表示します。（背景　赤色）
ガス漏れ試験中	液晶表示部上部に「試験」を表示します。（背景　黄色）

3. 受信機の動作について

3-1. 火災発報時の動作

・感知器が作動し、蓄積時間を経過すると火災発報を行います。
・蓄積時間中に感知器が復旧すると蓄積中灯は消灯し平常時の状態に戻ります。
（発信機の場合には蓄積動作は行わず即時発報します。）

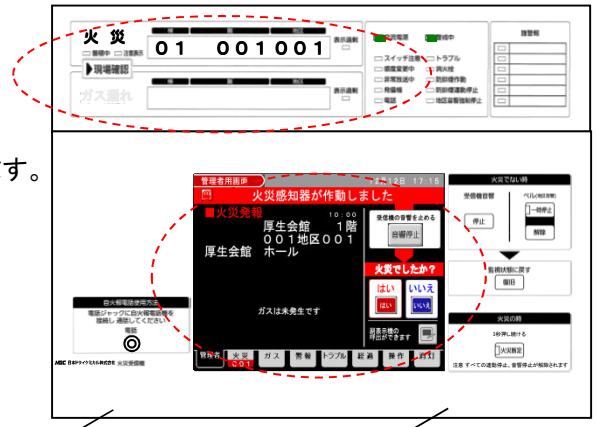
－火災発報動作－

＜主音響＞
・火災主音響が鳴動します。
（1報目と2報目以降で音声内容は変化します。）

＜表示＞
・地区表示部の「現場確認灯」と「火災代表灯」が点滅します。
・火災第1報地区表示部に発生場所の「棟・階・地区」が点灯します。
・液晶表示部に火災が発生した感知器の「棟・階・地区・番」「登録メッセージ」を表示します。
（発信機発報の場合は「発信機灯」が点滅します。）

＜プリンタ＞
・警報内容を印字します。

＜連動制御＞
・連動登録の内容に従って、地区音響・防排煙機器等が作動します。



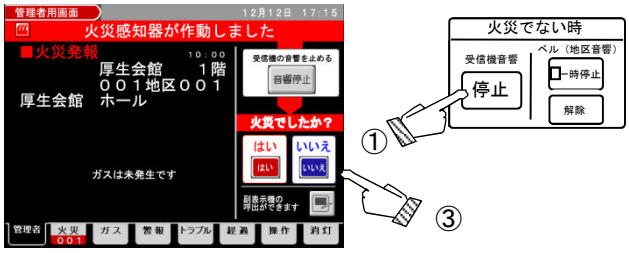
ピーピー
火災感知器が作動しました。
現場を確認してください。
（1報目）

ピーピー
火事です。火事です。
現場を確認してください。
（2報目以降）

次の手順で操作してください

① 音響を停止してください。
受信機音響停止スイッチを押してください。
ベル（地区音響）一時停止スイッチで地区音響は一定時間鳴動を停止します。ただしあらかじめ設定された時間経過後に再鳴動します。

② 状況を確認してください。
発生場所へ行き状況を確認してください。
（あらかじめ連動テーブルに登録しておくことにより副表示機への呼出通話もできます。）
（※連動テーブルについては、点検契約店にお問い合わせください。）



火災のとき

③「はい」を押してください。

・119番への通報、避難誘導など適切な処置をしてください。

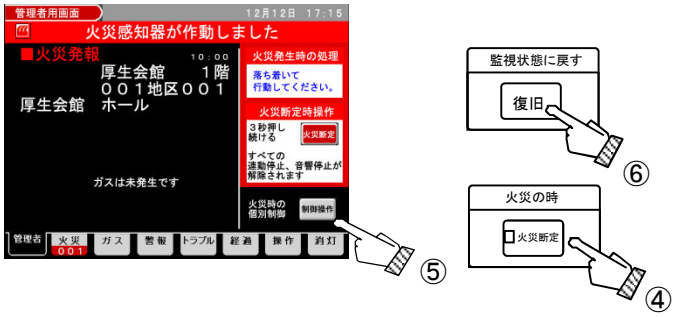
④ 火災断定スイッチを3秒以上押し続けると地区音響鳴動停止、防排煙連動停止、移信停止消火栓連動停止、周辺機器移報停止、プリンタ停止、点検時音響停止が解除されます。

⑤ 必要があれば排煙機器等を制御してください。
「制御操作」で、登録された端末への個別制御ができます。

火災でないとき

③「いいえ」を押してください。

10ページ参照



⑥ 復旧操作を行ってください。
火災鎮火後、復旧スイッチを押して平常時の状態に戻してください。
（発信機灯が点滅している場合は現場にて発信機の押ボタンの復旧を行ってから、復旧スイッチを押してください。）
※表示や連動による動作が残る場合は現場復旧後、再度復旧スイッチを押してください。

3. 受信機の動作について

3-2. 注意表示発報時の動作（アナログ式感知器の場合のみ）

・アナログ式の感知器では注意表示レベルで蓄積時間を経過すると注意表示発報を行います。
・蓄積時間中に感知器が復旧すると蓄積中灯は消灯し、平常時の状態に戻ります。
（注意表示は、復旧スイッチを押す。または、注意表示レベルを下回ると自動的に復旧します。）

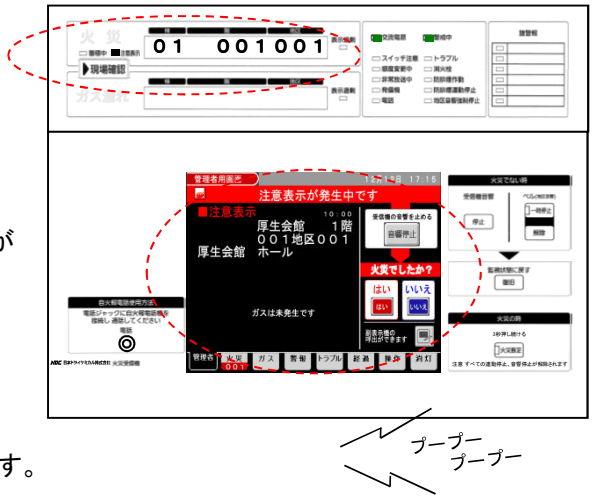
－注意表示発報－

＜主音響＞
・注意表示音響が鳴動します。
（この時、地区音響は鳴動していません。）

＜表示＞
・地区表示部の「現場確認灯」と「注意表示代表灯」が点滅します。
・火災第1報地区表示部に発生場所の「棟・階・地区」が点滅します。
・液晶表示部に注意表示が発生した感知器の「棟・階・地区・番」「登録メッセージ」を表示します。

＜プリンタ＞
・警報内容を印字します。

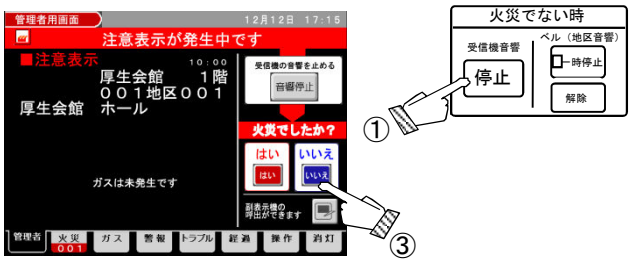
＜連動制御＞
・連動登録の内容に従って、防排煙機器等が作動します。



次の手順で操作してください

① 音響を停止してください。
受信機音響停止スイッチを押してください。

② 状況を確認してください。
発生場所へ行き状況を確認してください。
（あらかじめ連動テーブルに登録しておくことにより副表示機への呼出通話もできます。）
（※連動テーブルについては、点検契約店にお問い合わせください。）



火災のとき

③「はい」を押してください。

・119番への通報、避難誘導など適切な処置をしてください。

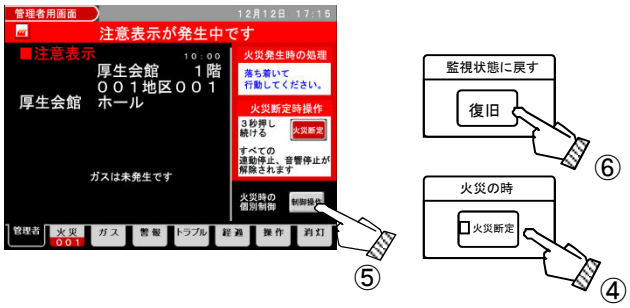
火災でないとき

③「いいえ」を押してください。

10ページ参照

④ 火災断定スイッチを3秒以上押し続けると地区音響鳴動停止、防排煙連動停止、移信停止消火栓連動停止、周辺機器移報停止、プリンタ停止、点検時音響停止が解除されます。

⑤ 必要があれば排煙機器等を制御してください。
「制御操作」で、登録された端末への個別制御ができます。

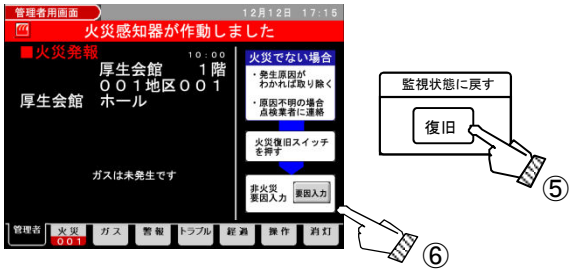


⑥ 復旧操作を行ってください。
火災鎮火後、復旧スイッチを押して平常時の状態に戻してください。
（発信機灯が点滅している場合は現場にて発信機の押ボタンの復旧を行ってから、復旧スイッチを押してください。）
※表示や連動による動作が残る場合は現場復旧後、再度復旧スイッチを押してください。

3. 受信機の動作について

火災でないとき

③「いいえ」を押してください。



・発生原因がわかれば取り除くなど適切な処理をしてください。

感知器は火災でない時でも作動することがあります。

（煙感知器・・・水蒸気・ホコリ・調理の煙などでも作動することがあります。
熱感知器・・・暖房器具等の熱が直接当たったり、感熱部が変形すると作動することがあります。）

④ 発生場所で、次の状況を確認してください。

状況確認	処置
感知器が作動していないか？ （確認灯付感知器の場合、作動した感知器の確認灯が点灯します。）	作動した感知器から煙または熱を取り去ってください。
発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？ （発信機灯が点滅しています。）	発信機の押ボタンを元に戻してください。

⑤ 復旧スイッチを押し、火災を復旧してください。
※現場確認灯、火災代表灯等が消えない場合は、もう一度④・⑤の手順を繰り返してください。

⑥「要因入力」で、非火災要因の入力ができます。
※11ページ参照

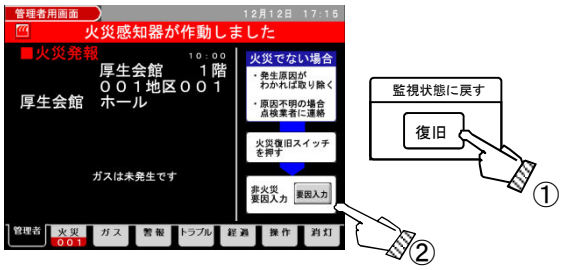
3. 受信機の動作について

3-3. 非火災要因の入力方法について

本受信機は、運用中に発報した履歴を非火災要因とともに、最新600報記録することができます。
下記の操作に従い非火災の要因を入力することで非火災感知器の要因管理などができます。

次の手順で操作してください

●火災発報状態からの入力の場合



① 復旧スイッチを押して火災を復旧してください。

注 発信機灯が点滅している場合は、発信機の押ボタンを元に戻してください。

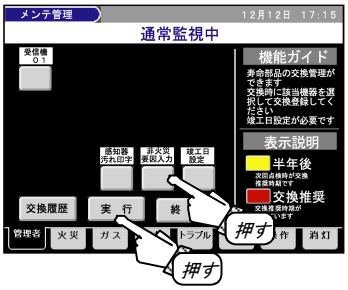
② 「要因入力」を押してください。

※復旧スイッチを押しても、「要因入力」は残りますが、一旦画面を変更すると、「要因入力」が消えてしまうのでご注意ください。

※管理者用画面からの入力もできます。(右記)

●管理者用画面からの入力の場合

① 管理者用画面から「メンテ管理」を押してください。



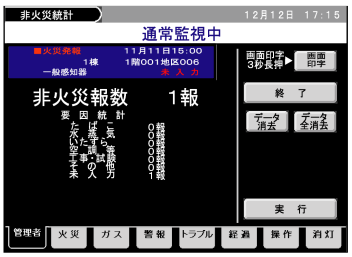
② 「非火災要因入力」を押し、「実行」を押してください。

③ 入力したい火災情報を選択してください。

注 「履歴消去」(43ページ参照)は全ての非火災要因情報を消去しますのでご注意ください。

④ 要因を選択し、「実行」を押してください。

⑤ 復旧スイッチを押してください。
復旧スイッチを押した時点で受信機メモリ内に非火災要因情報が記憶されます。
復旧スイッチを必ず押してください。



[統計分析]
感知器単位でこれまでの非火災の要因内容が統計情報として確認できます。

・データ消去　:該当の1報のデータを消去します。
・データ全消去:感知器単位のデータを消去します。

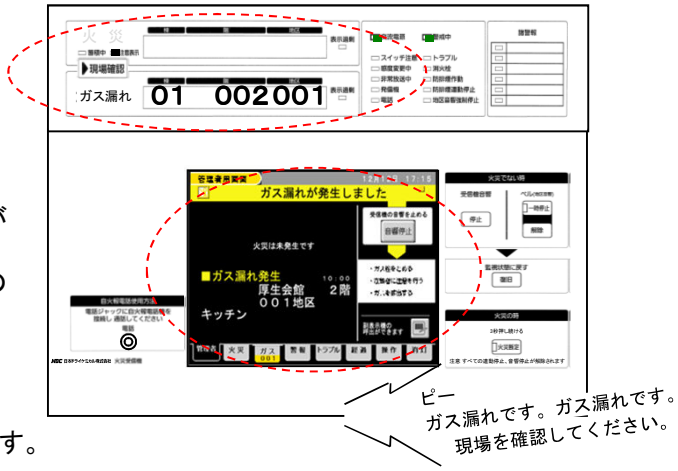
3. 受信機の動作について

3-4. ガス漏れ発生時の動作

・ガス漏れ検知器が作動すると、受信機はガス漏れ警報動作を行い、ガス第1報地区表示部に発生場所の「棟・階・地区」が点滅し、液晶表示部に「棟・階・地区」「登録メッセージ」を表示します。
・遅延時間経過後にガス漏れ検知器の作動状態が継続していると、ガス漏れ発生動作を行います。
（ガス漏れ警報・ガス漏れ発生はガス漏れ検知器が復旧すると、自動的に復旧します。）

ーガス漏れ警報時の動作ー
＜表示＞
・地区表示部のガス第1報地区表示部に発生場所の「棟・階・地区」が点滅します。
・液晶表示部にガス漏れが発生したガス漏れ検知器の「棟・階・地区」「登録メッセージ」が表示します。

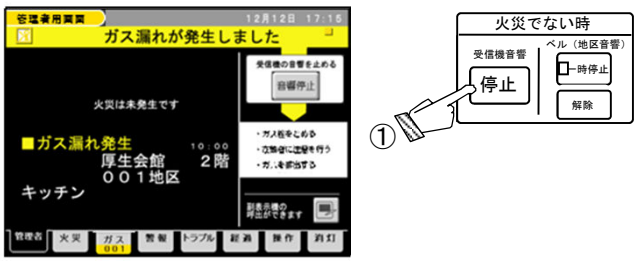
ーガス漏れ発生時の動作ー
（ガス漏れ警報から遅延時間経過後）
＜主音響＞
・ガス漏れ音響が鳴動します。
＜表示＞
・地区表示部の「現場確認灯」と「ガス漏れ代表灯」が点滅します。
・ガス第1報地区表示部に発生場所の「棟・階・地区」が点灯します。
・液晶表示部にガス漏れが発生したガス漏れ検知器の「棟・階・地区」「登録メッセージ」を表示します。
＜プリンタ＞
・警報内容を印字します。
＜連動制御＞
・連動登録の内容に従って、防排煙機器等が作動します。



次の手順で操作してください

① 音響を停止してください。
受信機音響停止スイッチを押してください。

② 状況を確認してください。
発生場所へ行き状況を確認してください。
（あらかじめ連動テーブルに登録しておくことにより副表示機への呼出通話もできます。）



ガス漏れのとき

・ガス栓をとめる
・在館者に注意を行う
・ガスを排出する

・ガス漏れ動作はその濃度を下回ると自動的に復旧します。

ガス漏れ発生による防排煙機器等の連動動作を復旧させる場合はガス漏れ復旧後、復旧スイッチを押してください。

⚠ 危険
取り扱い管理される方へ
●ガス漏れ警報時、換気扇、扇風機および照明器具などの電気製品のスイッチはさわらないでください。
火花などによる爆発のおそれがあります。

ガス漏れでないとき

次の条件を確かめて処理をしてください。
・みりん、醤油、ワイン、酒のカンの蒸気などでガス漏れ検知器が作動していないか？
・殺虫剤（くん煙殺虫剤、加熱蒸散殺虫剤も含む）、化粧品などのスプレーでガス漏れ検知器が作動していないか？
・シンナー、ペンキなど可燃性の溶剤や塗料等でガス漏れ検知器が作動していないか？
・濃厚なタバコの煙で、ガス漏れ検知器が作動していないか？
ガス漏れ動作はその濃度を下回ると自動的に復旧します。

ガス漏れ発生による防排煙機器等の連動動作を復旧させる場合はガス漏れ復旧後、復旧スイッチを押してください。

3. 受信機の動作について

3-5. 防排煙機器作動時・諸警報機器作動時の動作

火災発報等に連動して防排煙機器が作動した場合や、手動操作や防排煙作動による信号受信時に警報動作を行います。

－防排煙機器作動時・諸警報機器作動時の動作－

＜主音響＞

・機器作動音響が鳴動します。
（連動テーブルの設定により、鳴動無し設定もできます。
設定内容については、施工店へご確認ください。）

＜表示＞

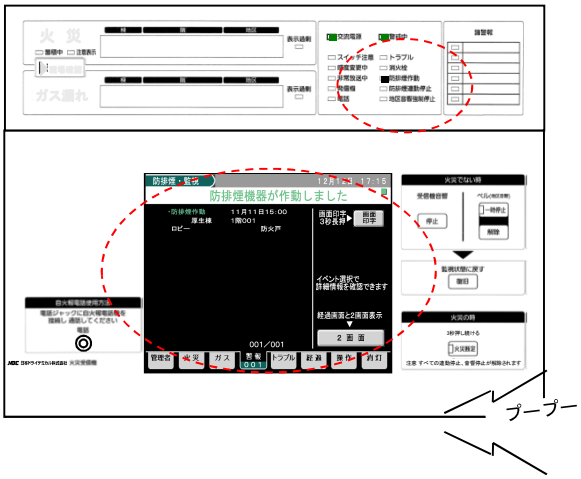
・地区表示部の「防排煙作動灯」が点滅します。
（諸警報機器作動の場合では点滅しません。）
・液晶表示部に作動した防排煙機器の
「棟・階・地区」「登録メッセージ」を表示します。

＜プリンタ＞

・警報内容を印字します。

＜連動制御＞

・連動登録の内容に従って、防排煙機器等が作動します。

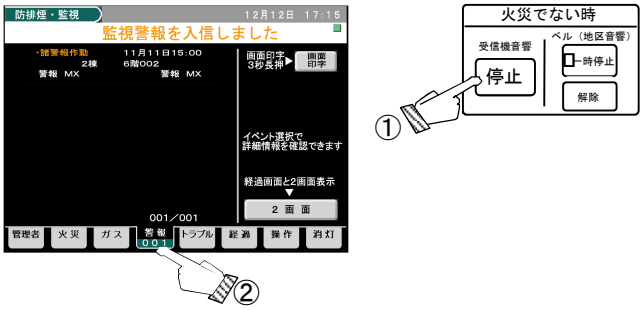


次の手順で操作してください

① 音響を停止してください。
受信機音響停止スイッチを押してください。

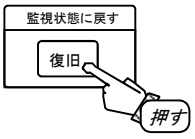
② 液晶表示部の「警報」を押し、
画面を切替えてください。

③ 状況を確認してください。
作動場所へ行き状況を確認してください。



④ 端末の復旧を行ってください。

端末機器の作動確認、現場復旧等の
適切な処置が終了しましたら、
復旧スイッチを押して復旧してください。



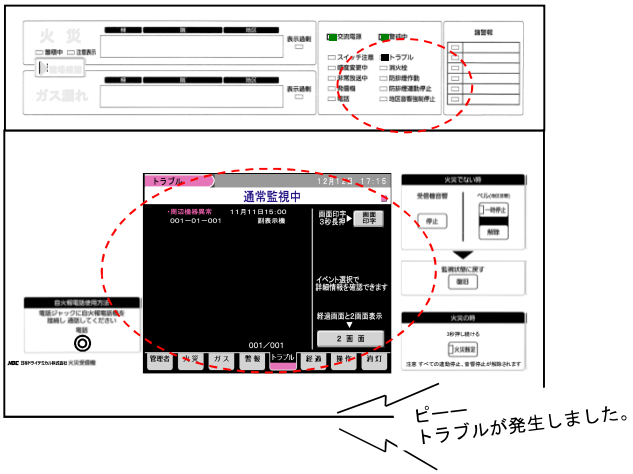
一部の作動信号は、現場復旧にて信号復旧しない場合がありますので、必ず処置後は復旧スイッチを押して復旧してください。
※表示や連動による動作が残る場合は、
現場復旧後、再度復旧スイッチを押してください。

3. 受信機の動作について

3-6. トラブル発生時の動作

システム上で故障（トラブル）や障害が発生した場合に警報動作を行います。

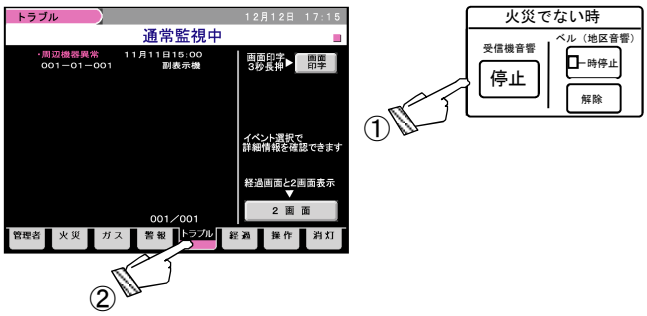
ートラブル発生時の動作ー
＜主音響＞
・トラブル音響が鳴動します。
＜表示＞
・地区表示部の「トラブル灯」が点滅します。
・液晶表示部にトラブル発生場所の
「トラブル内容」「ハード番号」「機器名称」を表示します。
＜プリンタ＞
・トラブル内容を印字します。



次の手順で操作してください

① 音響を停止してください。
受信機音響停止スイッチを押してください。

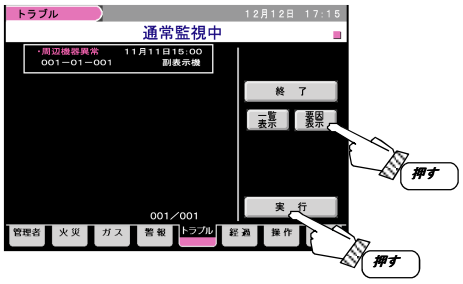
② 液晶表示部の「トラブル」を押し、
画面を切り替えてください。



トラブル内容の確認方法

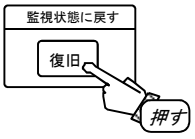
液晶表示部の確認したいトラブル表示を選択し、
「要因表示」を押し、「実行」を押していただくと
トラブル要因が確認できます。

③ 状況を確認してください。
発生場所へ行き状況を確認してください。



トラブル内容を確認後、施工店または点検契約店等に連絡してください。

④ 平常時の状態に復旧させる時
発生トラブルの適切な処置が終了
しましたら復旧スイッチを押して
復旧してください。



一部のトラブルは、現場復旧にて信号復旧しない場合がありますので、必ず処置後は復旧スイッチを押して復旧してください。
※表示や連動による動作が残る場合は、現場復旧後、再度復旧スイッチを押してください。

3. 受信機の動作について

3-7. 自火報電話機の使い方

受信機と発信機間、受信機と副表示機間または受信機と分散処理盤間で、火災状況の確認など、電話連絡ができます。

> 注 ・この自火報電話機では消防署への通報はできません。
> ・受信機の電話ジャックに自火報電話機を接続したままで放置しないでください。
> （呼出の際に電話音響が継続鳴動しません。）

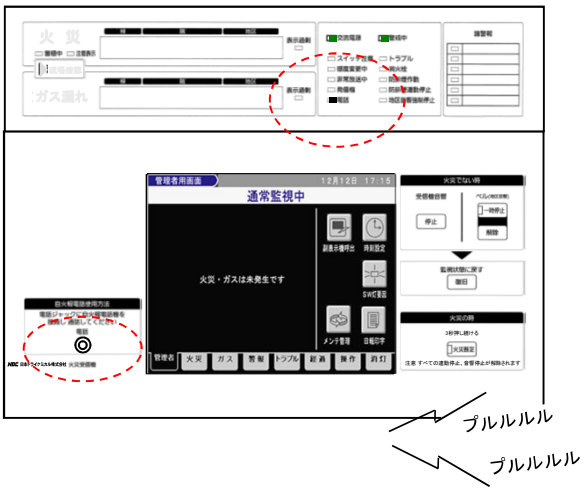
－自火報電話呼出時の動作－

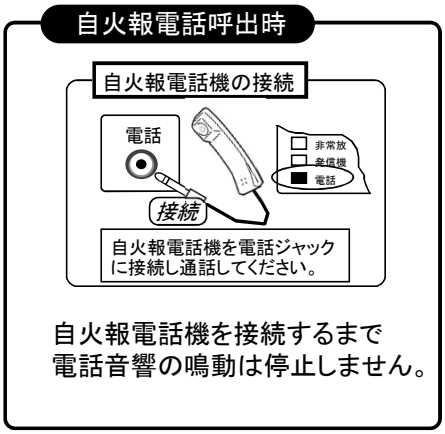
＜主音響＞

・電話音響が鳴動します。
（自火報電話機を接続するまで電話音響の鳴動は停止しません。）

＜表示＞

・地区表示部の「電話灯」が点滅します。





・受信機の電話ジャックに自火報電話機を接続しているとき、発信機、副表示機または分散処理盤の電話ジャックに自火報電話機を接続すると、受信機の電話音響が1フレーズだけ鳴動します。

・受信機と発信機、副表示機または分散処理盤間で自火報電話機の通話状態のとき、さらに別の発信機、副表示機、または分散処理盤に自火報電話機を接続しても受信機の電話音響は鳴動しません。

3-8. 付属設備の連動について

◎付属設備がある場合の火災警報時の動作は、次のようになります。
あらかじめ、どのような付属設備が設置されているか確認してください。

【消火栓】

●発信機の押ボタンまたは消火栓始動操作により消火栓が起動した場合、「消火栓灯」が点滅します。

【非常放送設備】

●火災によりベル（地区音響）が鳴動しているときに非常放送のマイクスイッチを操作すると、非常放送が明瞭に聞こえるよう、ベル（地区音響）は操作の間、自動的に鳴動を停止します。

3. 受信機の動作について

3-9. 警報音（音声警報）

受信機に装備された音声警報により、火災・ガス漏れ・故障（トラブル）などの発生時には音声で知らせます。
警報発生時には、音声警報により以下のような音声メッセージが鳴動します。

受信機音響停止にて音響を一時停止後、新規警報が発生した場合には新規警報を優先して鳴動します。

優先順位		警報状態	警報音・音声メッセージ	備　考
高	1	火災（火災確定） （第2報目以降の感知器） （発信機発報） （火災断定スイッチON）	ピーピー　火事です。火事です。 現場を確認してください。	男性の声
		火災（感知器作動） （第1報目の感知器）	ピーピー　火災感知器が作動しました。 現場を確認してください。	女性の声
		ガス漏れ発生	ピー　ガス漏れです。ガス漏れです。 現場を確認してください。	男性の声
		注意表示	プープー　プープー	
	2	火災蓄積	プープー	設定時のみ 鳴動
	3	電話音響	プルルルル　プルルルル	
	4	トラブル	ピーー トラブルが発生しました。	女性の声
低	5	機器作動 （防排煙作動） （監視入力）	プープー	
同時鳴動 可能		地区音響強制停止	プッ	1分に1回鳴動
		スイッチ操作音	ピ	
		入力エラー音	ブブ	

警報音響は、「後続再鳴動方式」になっており、複数の警報発生時には優先順位の高い警報音響に切り替わります。
優先順位が同じ火災（注意表示含む）・ガス漏れが発生した場合には交互に鳴動します。
（火災（注意表示含む）・ガス漏れ発生中に、優先順位の低い防排煙等が作動しても機器作動音響は鳴動しません。）

以下の音響については、受信機音響停止スイッチでは停止しません。
・電話音響　　：自火報電話機を受信機の電話ジャックに接続すれば停止します。
・地区音響強制停止中の警報音　　：地区音響強制停止を解除することで停止します。

3. 受信機の動作について

3-10. 拡大警報について

本受信機は、地区音響の鳴動方式を拡大警報規格に準じて行っています。
以下に、拡大警報による地区音響の鳴動状態および停止操作について説明します。

逐次鳴動機能

ベル（地区音響）一時停止操作により一時停止した地区音響は、あらかじめ設定した逐次鳴動時間を経過すると再鳴動します。
（設定時間内であっても火災確定信号が入ると、一時停止は解除され、全ての階に地区音響鳴動を行います。）

拡大警報機能

１報目の火災信号受信時に、出火階直上階に地区音響鳴動を行い（区分鳴動）、拡大警報時間を経過後、または火災確定信号受信時に、全ての階に地区音響鳴動を行います。（全館鳴動）

火災確定信号とは

感知器からの火災第２報目、発信機による火災信号、火災断定スイッチの操作を示します。

逐次鳴動時間とは

ベル（地区音響）一時停止が自動解除されるまでの時間です。
（設定時間・設定時間変更方法については施工店へご確認ください。）

拡大警報時間とは

区分鳴動から全館鳴動に切り替わるまでの時間です。
（設定時間・設定時間変更方法については施工店へご確認ください。）

以下に関連するスイッチの動作を明記します。

スイッチ名称	地区音響動作	備　考
ベル（地区音響） 一時停止スイッチ	地区音響の鳴動を一時停止します。 ＊一時停止しても新規火災信号、逐次鳴動時間の経過により地区音響が再鳴動します。	ベル（地区音響）一時停止スイッチ内のランプが点滅します。
地区音響強制停止	地区音響の鳴動停止を継続して行います。 ＊停止中は、警報音が1分周期で鳴動します。	地区表示部の地区音響強制停止灯が点滅します。
火災断定スイッチ	ベル（地区音響）一時停止および地区音響強制停止状態を強制的に解除し、拡大警報に移行します。	火災断定スイッチ内のランプが点灯します。
復旧スイッチ	ベル（地区音響）一時停止、火災断定スイッチを解除状態にし、地区音響の鳴動も復旧させます。	

（注）拡大警報時間経過後、または火災確定信号受信時に地区音響強制停止状態の場合は、地区音響は鳴動しません。（プリンターは「拡大警報鳴動開始」と印字します）

4. 日常点検について

⚠注意

●日常、次の点検を行ってください。

緊急時の操作に支障をきたしたり、不動作・作動遅れ・誤動作の原因となります。

受信機

1.「平常時の受信機状態」に保たれているか？ （6ページ参照）
2.近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？

感知器

1.変形、割れなどがないか？
2.ペンキなどで塗装されていないか？
3.ビニールテープなどが貼り付けられていないか？
4.煙感知器の場合、クモの巣などがついていないか？
5.近くに暖房器具等の熱源が置かれていないか？
6.火災の感知を妨げる障害物がないか？
7.下に多量の煙を発するものを使用していないか？
8.空気管が切れたり、つぶれたりしていないか？

発信機

1.変形、損傷などがないか？
2.近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？

表示灯

1.ランプは消えていないか？
2.カバーの割れ、亀裂はないか？

地区音響

1.変形、損傷などがないか？

ガス漏れ検知器

1.変形、割れ、著しい汚れなどがないか？
2.有効期限を過ぎていないか？

ガス漏れ表示灯

1.ランプが切れていないか？
2.カバーの割れ、亀裂はないか？

機器に異常が見つかった場合は、点検契約店へご連絡ください。

5. お手入れ方法

⚠注意

●清掃時にスイッチを操作しないよう十分に注意してください。
誤って操作すると正常な火災監視ができなくなる恐れがあります。
（「平常時の受信機状態」を確認してください。）（6ページ参照）

■受信機表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。

●普段のお掃除は・・・

やわらかい布でふき取ってください。

●汚れが目立つときは

中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、
固く絞ってふき取ってください。
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。）

注

●シンナーやベンジンなどは引火性があり、
危険ですので使用しないでください。

6. 異常時の点検・処置

⚠警告

この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。
異常を放置すると火災時に警報がでないため避難・消火活動が大幅に遅れる原因となります。

●以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置してください。

状　　態	点　　検	処　　置
交流電源灯が消灯している場合	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入」側にしてください。
火災でないのに警報動作する場合	煙感知器の近くに水蒸気・ホコリ・調理の煙などが滞留していないか？	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押してください。
	熱感知器の近くに暖房器具等の熱が直接あたっていないか？	熱源などを取り除き、復旧スイッチを押してください。
	発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？	発信機の押ボタンを元に戻し、復旧スイッチを押してください。
スイッチ注意灯が点滅している場合	液晶表示部の「管理者」を押した後「SW灯要因」を押して、スイッチ注意灯の点滅要因を確認してください。	スイッチを全て定位状態に戻してください。

6. 異常時の点検・処置

●以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

状　　態	点　　検	処　　置
交流電源灯が消灯している場合	受信機、分散処理盤内の交流電源ｽｲｯﾁが“切”側になっていないか？	受信機、分散処理盤内の交流電源ｽｲｯﾁを“入”側にしてください。
	交流一次側ﾋｭｰｽﾞ（AF1、AF2）が切れていないか？	交流一次側ﾋｭｰｽﾞ（AF1、AF2）を交換してください。
	交流電源ｽｲｯﾁは“入”側、交流一次側ﾋｭｰｽﾞ（AF1、AF2）は切れていないが、電源出力遮断状態になっていないか？	予備電源を外し、交流電源ｽｲｯﾁを“切”側にした後、約5秒待ち再度交流電源ｽｲｯﾁを“入”側にしてください。（受信機の過電圧保護回路がはたらいている可能性があります。）
火災でないのに警報動作する場合	ｱﾄﾞﾚｽｱﾀﾞﾌﾟﾀ二次側等の感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか？	配線を直してください。感知器を確認してください。
	感知器伝送線が絶縁劣化していないか？	配線を直してください。感知器を確認してください。
	火災以外の原因はないか？	日常点検項目に従って確認してください。（「４．日常点検について」参照）
火災発報状態で復旧ｽｲｯﾁを押しても復旧しない場合	ｱﾄﾞﾚｽｱﾀﾞﾌﾟﾀ二次側等の感知器配線が短絡していないか？	ｱﾄﾞﾚｽｱﾀﾞﾌﾟﾀ二次側の感知器配線の短絡を復旧させてください。
	感知器または発信機が作動状態になっていないか？	感知器から熱または煙を取り除いてください。発信機の押ﾎﾞﾀﾝを元に戻してください。
	発信機灯が点灯していないか？	発信機の押ﾎﾞﾀﾝを元に戻してください。
警戒中灯が消灯している場合	受信機設定の点検時音響停止、試験復旧がONとなってないか？	ｽｲｯﾁを全て定位に戻してください。
	液晶表示部上部に「音停」や「復旧」の表示がないか？	受信機設定で点検時音響停止、試験復旧を定位に戻してください。
受信機が起動したときﾗﾝﾌﾟが全点灯して停止する場合	連動ﾃｰﾌﾞﾙを登録し忘れていないか？	連動ﾃｰﾌﾞﾙを転送してください。
ﾄﾗﾌﾞﾙ灯の点滅およびﾄﾗﾌﾞﾙ音響が鳴動する場合	音響を停止し、液晶表示部のﾄﾗﾌﾞﾙ画面にてﾄﾗﾌﾞﾙ内容を確認してください。	ﾄﾗﾌﾞﾙ発生時の操作手順に従って処置してください。

6. 異常時の点検・処置

・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
（トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。）

ﾄﾗﾌﾞﾙの種類	ﾄﾗﾌﾞﾙの内容	確認・処置方法
交流電源断	●交流電源が供給されていません。 1.交流電源ｽｲｯﾁが“切”側である。 2.停電が発生している。 3.交流電源ｽｲｯﾁ部のﾋｭｰｽﾞ（AF1、AF2）が切れている。	1.交流電源ｽｲｯﾁを“入”側にしてください。 2.交流電源の入力を確認してください。 3.ﾋｭｰｽﾞ（AF1、AF2）を交換してください。
主回路電圧異常	●電源の主回路電圧が異常です。 1.予備電源動作で予備電源の電圧が低下している。 2.電源の出力が低下している。	1.交流電源を供給し、予備電源を充電してください。 2.電源ﾕﾆｯﾄを交換してください。
受信機動作不能 (LED全点灯状態)	●受信機の主回路電圧が約17V以下になっている。 （交流電源断時に予備電源が長時間放電した際、発生することがあります。）	交流電源を供給し、予備電源を充電してください。 ※主回路電圧異常が復旧（予備電源電圧が約20.4V以上になる）するまでﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。
予備電源異常	●予備電源の異常が発生している。 1.予備電源の接続ｺﾈｸﾀが外れている。 2.電源ﾕﾆｯﾄのﾋｭｰｽﾞ（AF3～AF7）が切れている。	1.予備電源の接続ｺﾈｸﾀを確認してください。 2.電源ﾕﾆｯﾄのﾋｭｰｽﾞ（AF3～AF7）を交換してください。
電源FAN異常	●電源ﾕﾆｯﾄ内の電源FANに異常が発生している。 1.電源FANが障害物により回転を妨げられている。 2.電源FANが故障している。	1.障害物を取り除き一斉試験を実施してください。 2.電源ﾕﾆｯﾄを交換してください。 ※一斉試験、自動試験時の電池試験で試験良となるまでﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。
予備電源試験不良	●予備電源試験で試験不良になった。 1.予備電源の接続ｺﾈｸﾀが外れている。 2.予備電源の電圧が低下している。	1.予備電源の接続ｺﾈｸﾀを確認してください。 2.十分に充電したのち再度不良の場合は、予備電源を交換してください。 ※一斉試験、予備電源試験、自動試験時に試験良となるまでﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。
ﾋｭｰｽﾞ断線	●受信機、分散処理盤のﾋｭｰｽﾞ（F1～F7）が切れている。	・制御線ﾕﾆｯﾄのﾋｭｰｽﾞ（F1～F6）を確認してください。 ・伝送線ﾕﾆｯﾄのﾋｭｰｽﾞ（F7）を確認してください。 ・切れたﾋｭｰｽﾞを交換してください。
非常放送配線断	●非常放送～受信機間の配線が異常です。 1.非常放送配線が断線している。 2.非常放送設備配線の終端抵抗が外れている。	1.EB+、EB-の配線を確認してください。 2.非常放送設備配線の終端抵抗を確認してください。
ﾌﾟﾘﾝﾀ異常	●ﾌﾟﾘﾝﾀの異常が発生しています。 1.ﾌﾟﾘﾝﾀ用紙が紙切れしている。 2.ﾌﾟﾘﾝﾀとの交信が不能である。 3.ﾌﾟﾘﾝﾀが故障している。	1.ﾌﾟﾘﾝﾀ用紙を交換してください。 2.受信機～ﾌﾟﾘﾝﾀ間ｹｰﾌﾞﾙを確認してください。 3.ﾌﾟﾘﾝﾀを交換してください。

6. 異常時の点検・処置

・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
（トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。）

ﾄﾗﾌﾞﾙの種類	ﾄﾗﾌﾞﾙの内容	確認・処置方法
受信機UT異常	●受信機内部UT（※1）との交信が不能となっている。 1.受信機内部UT間の配線に異常が発生している。 2.受信機内部UTに異常が発生している。	1.受信機内部UT間のｹｰﾌﾞﾙの接続を確認してください。 2.電源を再投入しても、動作しない場合、受信機内部UTを交換してください。
受信機UT余分	●登録外の受信機内部UT（※1）が接続されている。 1.ｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っている。 2.連動ﾃｰﾌﾞﾙの登録が間違っている。 3.受信機内部UTが余分に接続されている。	1.ｱﾄﾞﾚｽを確認してください。 2.連動ﾃｰﾌﾞﾙを確認してください。 3.余分な受信機内部UTを取り外してください。 ※ﾄﾗﾌﾞﾙ状態は電源の再投入まで保持します。
外部電源異常	●外部電源(※2)の異常が発生している。	・外部電源の交流電源の電圧を確認してください。 ・外部電源の交流電源ｽｲｯﾁを入れてください。 ・上記以外の場合は、外部電源を交換してください。
外部ﾋｭｰｽﾞ断	●外部電源(※2)のﾋｭｰｽﾞが切れています。	・外部電源内のﾋｭｰｽﾞを確認してください。 ・切れたﾋｭｰｽﾞを交換してください。
外部電源試験不良	●外部電源(※2)の試験が不良になった。 1.外部電源の予備電源が外れています。 2.外部電源の予備電源電圧が低下しています。	1.予備電源の接続ｺﾈｸﾀを確認してください。 2.十分に充電しのち再度不良の場合は、予備電源を交換してください。 ※ 一斉試験、予備電源試験、自動試験の試験良までﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。
ﾒﾓﾘ異常	●受信機、分散処理盤の内部ﾒﾓﾘに異常が発生している。	ﾌﾟﾘﾝﾀで印字された該当ﾕﾆｯﾄを交換してください。 ※ﾄﾗﾌﾞﾙ状態は電源の再投入まで保持します。
伝送CPU異常	●端末ﾒｲﾝﾕﾆｯﾄ又は端末ｻﾌﾞﾕﾆｯﾄの伝送CPUとの交信が不能となっている。	ﾌﾟﾘﾝﾀで印字された該当ﾕﾆｯﾄを交換してください。 ※ﾄﾗﾌﾞﾙ状態は電源の再投入まで保持します。
伝送線短絡	●受信機、分散処理盤とRX感知器、RX中継器（※3）間の伝送部が短絡している。 1.伝送線が短絡している。 2.ｱｲｿﾚｰﾀとRX感知器間が短絡している。 3.RX感知器が短絡ﾓｰﾄﾞで故障している。	1.受信機、分散処理盤とRX感知器、RX中継器間の配線を確認してください。 2.ｱｲｿﾚｰﾀとRX感知器間の配線を確認してください。 3.RX感知器を交換してください。 ※ｱｲｿﾚｰﾀの伝送線短絡は、配線の短絡復旧後、ｱｲｿﾚｰﾀ2次側接続操作を行うまで保持します。
伝送不良	●RX感知器、RX発信機、RX中継器（※3）との交信が不能となっている。 1.ｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っている。 2.RX感知器、RX発信機、RX中継器間の配線が断線している。 3.伝送線が短絡している。	1.ｱﾄﾞﾚｽ設定を確認してください。 2.配線を確認してください。 （RX感知器、RX発信機、RX中継器が接続されているかを確認してください。） 3.受信機とRX感知器、RX発信機、RX中継器間の配線を確認してください。
伝送不良（余分）	●登録外のRX感知器、RX発信機、RX中継器（※3）が接続されている。 1.ｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っている。 2.連動ﾃｰﾌﾞﾙの登録が間違っている。 3.RX感知器、RX発信機、RX中継器が余分に接続されている。	1.ｱﾄﾞﾚｽ設定を確認してください。 2.連動ﾃｰﾌﾞﾙを確認してください。 3.余分なRX感知器、RX発信機、RX中継器を取り外してください。 ※中継器伝送線の129ｱﾄﾞﾚｽ以降のRX中継器の余分接続は電源を再投入するまでﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。

※1：受信機内部UTとは、共通ﾕﾆｯﾄ・移信ﾕﾆｯﾄ・その他ｵﾌﾟｼｮﾝﾕﾆｯﾄになります。
※2：外部電源とはｵﾌﾟｼｮﾝの防災用直流電源装置等になります。
※3：RX中継器にはP型自動試験中継器を含みます。

6. 異常時の点検・処置

・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
（トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。）

ﾄﾗﾌﾞﾙの種類	ﾄﾗﾌﾞﾙの内容	確認・処置方法
伝送不良（予約） （※4）	●PX端末またはPX感知器(予約登録種別) との交信が不能である。 1.意図した動作の場合: 不要なPX端末またはRX感知器の取り外しができた。 2.意図しない動作の場合: 感知器配線が断線している等が考えられます。	1.意図した動作の場合: 受信機で予約登録削除操作をしてください。 （取扱説明書の82、83ﾍﾟｰｼﾞ参照） 2.意図しない動作の場合: 感知器の配線、ｱﾄﾞﾚｽ等を確認してください。
余分接続（予約）	●PX端末またはRX感知器(予約登録種別) を接続した。 1.意図した動作の場合： 必要なPX端末またはRX感知器が接続できた。 2.意図しない動作の場合: PX端末またはRX感知器のｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っている等が考えられます。 ●P型自動試験中継器が接続されている。 3.ｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っている等が考えられます。	1.意図した動作の場合： 受信機で予約登録操作をしてください。 （取扱説明書の82、83ﾍﾟｰｼﾞ参照） 2.意図しない動作の場合： PX端末またはRX感知器のｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っていないか、確認してください。 3.P型自動試験中継器は予約登録種別にはできません。ｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っていないか、確認してください。
感知器誤設定	●AD1～AD30以外のPX端末が誤接続されている。	該当の感知器回線のPX端末ｱﾄﾞﾚｽを確認してください。
感知器異常 （※5）	●RX感知器、PX感知器の異常が発生している。	感知器を交換してください。
種別異常 （※5）（※6）（※7）	●TG登録と異なる種別のRX感知器、 RX発信機、ｱﾄﾞﾚｽｱﾀﾞﾌﾟﾀ、P型自動試験中継器が接続されている。 1.ｱﾄﾞﾚｽ設定が間違っている。 2.連動ﾃｰﾌﾞﾙの登録が間違っている。 3.異なる種別の感知器が接続されている。	1.ｱﾄﾞﾚｽを確認してください。 2.連動ﾃｰﾌﾞﾙを確認してください。 3.正しい感知器を取りつけてください。 ※ﾄﾗﾌﾞﾙ状態復旧後、復旧ｽｲｯﾁを押すまでﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。
感知器汚れ3 （※5）	●RX感知器、PX感知器がﾎｺﾘ等で汚れ、非火災報が発生しやすい状態になっている。	感知器を清掃または交換してください。
2次側配線断 （※5）	●一般感知器回線が断線している。 1.ｱﾄﾞﾚｽｱﾀﾞﾌﾟﾀ、P型自動試験中継器または一般R型中継器2次側の一般感知器回線が断線している。 2.終端器、終端抵抗が外れている。	1.一般感知器回線の配線を確認してください。 2.終端器、終端抵抗を確認してください。
火災試験不良 （※5）	●火災試験の結果が不良になっている。 1.感知器が伝送不良状態になっている。 2.感知器が故障している。 3.感知器が汚れ3の状態になっている。 4.光電式分離型感知器が分離ﾄﾗﾌﾞﾙ状態になっている。	1.感知器を確認してください。 2.感知器を交換してください。 3.感知器を清掃または交換してください。 4.光軸調整等をしてください。 ※交換後に再度火災試験を行ってください。

※4：PX端末との通信が行えない状態（L-C間短絡等）でP型自動試験中継器を起動させた場合、伝送不良（予約)ﾄﾗﾌﾞﾙを検出する事が有ります。
※5：伝送不良発生時には、その端末からの個別のﾄﾗﾌﾞﾙ信号も途絶えるため伝送不良以外の個別のﾄﾗﾌﾞﾙは表示しなくなります。
※6：種別異常のﾄﾗﾌﾞﾙが復旧した後に正しい感知器を接続してください。
（誤って接続した感知器を外して伝送不良を発生させた後、復旧ｽｲｯﾁを押すと種別異常のﾄﾗﾌﾞﾙが復旧します。）
尚、PX端末については種別情報を検出しません。
※7：連動ﾃｰﾌﾞﾙにｱﾅﾛｸﾞ感知器が登録されているｱﾄﾞﾚｽに、誤って、ｱﾄﾞﾚｽｱﾀﾞﾌﾟﾀ、P型自動試験中継器、ｱﾄﾞﾚｽ発信機、ｱｲｿﾚｰﾀ等を誤接続した場合、受信機が火災を誤検出する場合があります。

6. 異常時の点検・処置

・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
（トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。）

ﾄﾗﾌﾞﾙの種類	ﾄﾗﾌﾞﾙの内容	確認・処置方法
制御線異常 (※5)	●RX中継器（※3）への監視電源（F+､DA+）が供給されていない。 1.受信機～RX中継器間、分散処理盤～RX中継器間の配線が断線している。 2.制御線ﾕﾆｯﾄのﾋｭｰｽﾞ（F2､F3）が切れている。	1.制御線の配線を確認してください。 2.制御線ﾕﾆｯﾄのﾋｭｰｽﾞ（F2､F3）を確認してください。
ガス漏れ検知器故障 (※5)	●ガス漏れ検知器の異常が発生している。 1.ガス漏れ検知器電源が供給されていない。 2.ガス漏れ検知器が接続されていない。 3.ガス漏れ検知器が故障している。	1.ガス漏れ検知器電源および配線を確認してください。 2.ガス漏れ検知器の接続を確認してください。 3.ガス漏れ検知器を交換してください。
ｶﾞｽ漏れ試験不良 (※5)	●ｶﾞｽ漏れ試験が不良になっている。 1.ガス漏れ検知器が故障している。 2.ｶﾞｽ漏れ中継器が不良状態になっている。	1.ガス漏れ検知器を交換してください。 2.ｶﾞｽ漏れ中継器を確認してください。 ※交換後に再度ｶﾞｽ漏れ試験を行ってください。
地区音響線断線 (※5)	●地区音響線が断線している。 1.地区音響中継器～地区ベル間が断線している。 2.音響装置用終端器が外れている。 3.地区音響制御出力電圧が低下している。	1.地区音響中継器～地区ベル間の配線を確認してください。 2.終端器を確認してください。 3.地区音響出力電圧（Ｂ＋）を確認してください。
地区音響線短絡 (※5)	●地区音響線が短絡している。 1.地区音響中継器～地区ベル間が短絡している。 2.地区音響中継器が故障している。	1.地区音響中継器～地区ベル間の配線を確認してください。 2.地区音響中継器を交換してください。
伝送不良（返信）	●RX感知器、RX発信器、RX中継器（※3）の返信信号が異常状態になっている。 1.ｱﾄﾞﾚｽが重複している。 2.配線が地絡している。	1.ｱﾄﾞﾚｽを確認してください。 2.感知器伝送線を確認してください。 ※ﾄﾗﾌﾞﾙ状態復旧後、復旧ｽｲｯﾁを押すまでﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。
伝送不良（割込） (※5)	●RX感知器、RX発信機、RX中継器（※3）の異常が発生している。	RX感知器、RX発信機、RX中継器を交換してください。 作動が検知できない恐れがあります。
周辺機器異常	●周辺機器との交信が不能である。 1.副表示機、防災CRT等と交信が不能である。 2.受信機～IFﾕﾆｯﾄ間またはRXｺﾝﾄﾛｰﾗ間の配線が断線している。	1.副表示機、防災CRT等を確認してください。 2.受信機～IFﾕﾆｯﾄ間または、RXｺﾝﾄﾛｰﾗ間の配線を確認してください。
ﾃｰﾌﾞﾙ不一致	●伝送ﾕﾆｯﾄ（火災、端末）のﾃｰﾌﾞﾙ内容が受信機ﾃｰﾌﾞﾙと一致しない。	連動ﾃｰﾌﾞﾙの転送にてﾃｰﾌﾞﾙ内容を一致させてください。
分離ﾄﾗﾌﾞﾙ	●光電式分離型感知器の異常が発生している。 1.光軸がずれている。 2.光電式分離型感知器が故障している。	1.光軸調整をしてください。 2.光電式分離型感知器を交換してください。

※3：RX中継器にはP型自動試験中継器を含みます。
※5：伝送不良発生時には、その端末からの個別のﾄﾗﾌﾞﾙ信号も途絶えるため伝送不良以外の個別のﾄﾗﾌﾞﾙは表示しなくなります。

6. 異常時の点検・処置

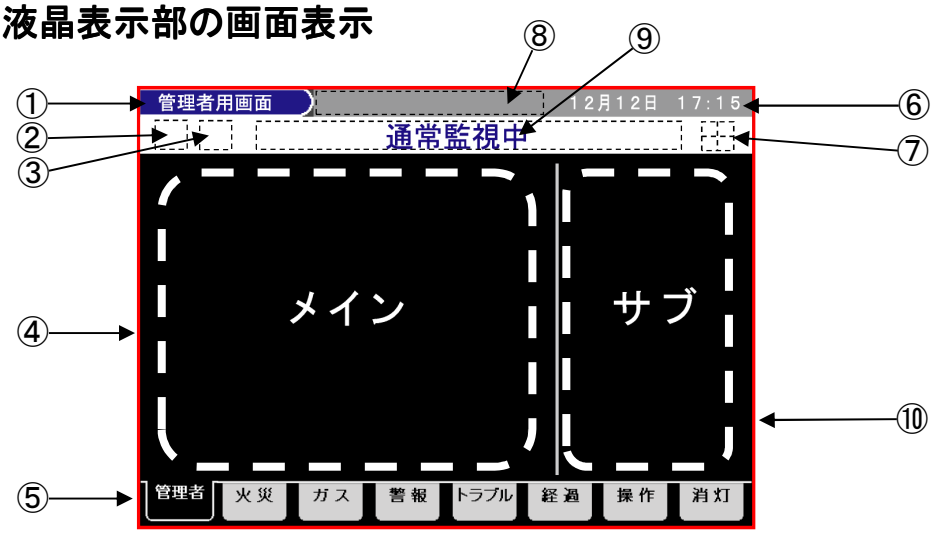
・トラブルが発生した場合、施工店または点検契約店に連絡してください。
（トラブルの内容は受信機のトラブル画面にて確認してください。「要因表示」でも確認できます。）

ﾄﾗﾌﾞﾙの種類	ﾄﾗﾌﾞﾙの内容	確認・処置方法
ﾕﾆｯﾄ異常	●伝送ﾕﾆｯﾄ（火災、端末）との交信が不能である。 1.受信機～分散処理盤間の配線が断線している。 2.分散処理盤が動作していない。 3.該当ﾕﾆｯﾄが故障している。	1.受信機～分散処理盤間の配線を確認してください。 2.分散処理盤の電源投入状態を確認してください。 3.故障したﾕﾆｯﾄを交換してください。
分散処理盤異常	●分散処理盤との間の交信が不能である。 1.受信機～分散処理盤間の配線が断線している。 2.分散処理盤が動作していない。	1.受信機～分散処理盤間の配線を確認してください。 2.分散処理盤の電源投入状態を確認してください。
処理盤動作不能	●分散処理盤の主回路電圧が約17V以下になっています。 （交流電源断時に予備電源が長時間放電した際、発生することがあります。）	分散処理盤に交流電源を供給し、予備電源を充電してください。 ※主回路電圧異常が復旧（予備電源電圧が20.4V以上になる）するまでﾄﾗﾌﾞﾙ状態を保持します。
伝送路A異常	●受信機～分散処理盤間の伝送路A側配線（通常幹線）が断線・短絡している。	伝送路A側配線（通常幹線）を確認してください。 ※改善後に幹線確認を行なってください。
伝送路B異常	●受信機～分散処理盤間の伝送路B側配線（ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ幹線）が断線・短絡している。	伝送路B側配線（ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ幹線）を確認してください。 ※改善後に幹線確認を行なってください。
諸警報作動	●設定ﾃﾞｰﾀで登録した外部機器が故障信号を送信しています。	該当機器の確認をお願いします。
LON CPU異常	●受信機～分散処理盤間の交信が異常になっている。 1.受信機～分散処理盤間の配線にﾉｲｽﾞがのっている。 2.LON CPUが異常状態になっている。	1.受信機～分散処理盤間の配線を確認してください。 2.該当のLON CPUが搭載されたﾕﾆｯﾄを交換してください。

MEMO

7. 画面説明

7-1. 液晶表示部の画面表示



	項目	表示	表示内容	備　考
①	画面名称	―	画面名称を表示します。	
②	火災・ガスピクト		注意表示・火災蓄積（設定時のみ）時に表示します。	優先順位 1：火災 2：ガス 3：注意（火災蓄積）
			火災発生時に表示します。	
			ガス漏れ警報・ガス漏れ発生時に表示します。	
③	地区音響ピクト		区分鳴動時に表示します。	一斉鳴動操作、個別制御操作、多棟管理登録の場合は表示しません。
			拡大鳴動時に表示します。	
			地区音響停止（鳴動要因有）時に表示します。	
④	メイン表示部	―	警報表示、ボタンを表示します。	
⑤	画面選択	―	液晶表示する画面を選択します。 （火災・ガス・警報は発生数を表示します。）	トラブルは発生数を表示しません。
⑥	時刻表示	―	月・日・時・分を表示します。	

㊟ 拡大警報時間経過後、または火災確定信号受信時に地区音響強制停止状態の場合は、地区音響ピクトは地区音響停止の表示をし、地区音響は鳴動しません。
（プリンターは「拡大警報鳴動開始」と印字します）

7. 画面説明

	項目	表示	表示内容	備　考
⑦	イベントピクト		ガス漏れ警報・ガス漏れ発生時に表示します。	表示色：黄色表示です。
			防排煙・諸警報作動時に表示します。	表示色：緑色表示です。
			トラブル発生時に表示します。	表示色：紫色表示です。
			以下の設定変更中に表示します。 ・マスク有 ・RX感知器のメッセージ変更／予約登録 （※PX端末は対象外）	表示色：灰色表示です。
⑧	状態表示	点検	点検スイッチが『点検』時に表示します。	
		音停	点検時音響停止（警報音完全停止）時に表示します。	
		ベル停	地区音響強制停止時に表示します。	
		復旧	試験復旧時に表示します。	
		試験	自動試験中、一斉試験中、模擬試験中 火災試験中、ガス漏れ試験中、予備電源試験中に表示します。	
⑨	ヘッドライン	―	緊急度の高い見出し内容を表示します。	以下 ヘッドライン詳細参照
			火災2報　ガス2報の信号状態を表示します。	
⑩	サブ表示部	―	ガイド表示やボタンを表示します。	

ヘッドライン詳細

優先順位		管理者用画面	その他画面	動作状態
高	1	火災断定処理が完了しました	火災　2棟　2階　002地区 火災　1棟　1階　001地区	火災断定操作完了
	2	火災が発生しました 現場を確認してください	火災　2棟　2階　002地区 火災　1棟　1階　001地区	感知器2報火災発報 又は発信機発報
	3	火災感知器が作動しました 現場を確認してください	火災　2棟　2階　002地区 注意　1棟　1階　001地区	感知器1報火災発報
	4	ガス漏れが発生しました 現場を確認してください	ガス　1棟　1階　001地区 ガス　2棟　2階　002地区	ガス漏れ発生状態
	5	火災蓄積を開始しました		火災蓄積中状態
	6	注意表示が発生中です 現場を確認してください	注意　1棟　1階　001地区	感知器注意表示発生状態
	7	ガス漏れ検知器が作動しました	警報　1棟　1階　001地区 警報　2棟　2階　002地区	ガス漏れ警報状態
	8	防排煙機器が作動しました		防排煙作動状態
	9	監視警報を入信しました		監視入信状態
低	10	通常監視中		

7. 画面説明

（1）警報表示について

警報が発生した場合には、以下の情報を液晶表示部に表示およびプリンタに印字します。

項目	例	表示文字数	備考
警報名称	■火災発報	9文字（固定）	変更できません。
発生日時	11月19日　03:09	日付・時間（24時間表示）	火災、ガス、警報、トラブル、経過画面では、月・日・時・分を表示します。 管理者画面では、時･分のみ表示します
発生場所 （RX端末）	厚生棟　1階　001地区001	「棟」名称：6文字（任意） 「階」名称：4文字（任意） 「地区」番：3桁 「番」番号：3桁	連動テーブルにより設定できます。
メッセージ （RX端末）	厚生棟ホール	12文字（任意）	連動テーブルにより設定できます。
発生場所 （PX端末）	厚生棟　1階　001地区－01	「棟」名称：6文字（任意） 「階」名称：4文字（任意） 「地区」番：3桁 PX端末アドレス：－01～－30	棟名称、階名称、地区番： 連動テーブルにより設定します。 PX端末アドレス： 連動テーブルには設定しません。 受信機で予約登録したPX端末のアドレスを表示します。
メッセージ （PX端末）	1601号室　和室	12文字（任意）	受信機盤面（メッセージ変更画面）または SDカードからのメッセージデータ転送 （SDツール『F4SD』で作成したデータ） にて設定できます。
機器名称	防火戸	6文字（任意）	連動テーブルにより設定できます。 （火災・ガスの機器名称は変更できません。）
ハード番号	001－11－008－1	機器に割り当てられた番号 AAA－BC－DDD（－E）	変更できません。（防排煙不作動・ 防排煙不復帰・トラブル時に表示します。） （参考） A：BOX番号 （受信機：001、分散処理盤：002～012） B：ユニット番号（1～2） C：系統番号（1～4） D：アドレス番号（001～256） E：回線番号（1～8）

7. 画面説明

表示例

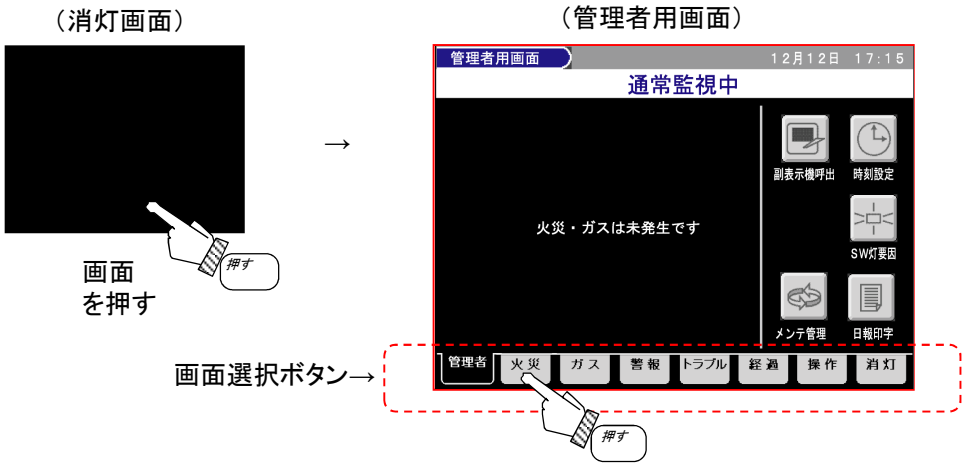
項目（例）	表示画面（色）	表示例	印字例
火災発報（RX端末） ■注意表示 ■火災発報 ■火災発報（連動） ■発信機発報	管理者用画面（赤）	■火災発報 10:13 厚生棟 1階 001地区001 厚生棟ホール	■火災発報 1月19日10:13 厚生棟 1階001地区001 厚生棟ホール 光電AN
	火災画面（赤）	■火災発報 1月19日10:13 厚生棟 1階001地区001 厚生棟ホール 光電AN	
火災発報（PX端末） 火災発報（回線）検出時、回線メッセージを表示。 ↓ PX端末アドレス検出時、発報アドレスを表示し、回線メッセージをPX端末メッセージに上書き表示。	管理者用画面（赤）	■火災発報 10:13 住宅棟 16階 001地区 16階フロア	■火災発報 1月19日10:13 住宅棟 16階001地区 16階フロア AP中継器
	火災画面（赤）	■火災発報 1月19日10:13 住宅棟 16階001地区001 16階フロア AP中継器	
	↓		
	管理者用画面（赤）	■火災発報 10:13 住宅棟 16階 001地区-01 1601号室 和室	■火災発報 1月19日10:13 住宅棟 16階001地区-01 1601号室 和室 AP端末
	火災画面（赤）	■火災発報 1月19日10:13 住宅棟 16階001地区-01 1601号室 和室 AP端末	
ガス漏れ発生 ■ガス漏れ警報 ■ガス漏れ発生	管理者用画面（黄）	■ガス漏れ発生 10:13 厚生棟 1階 001地区 厚生棟湯桶室	■ガス漏れ発生 1月19日10:13 厚生棟 1階001地区 厚生棟湯桶室 ガス中継器
	ガス画面（黄）	■ガス漏れ発生 1月19日10:13 厚生棟 1階001地区 厚生棟湯桶室 ガス中継器	
・防排煙作動	警報画面（緑）	・防排煙作動 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区 厚生棟防火戸1番 防火戸	・防排煙作動 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区 厚生棟防火戸1番 防火戸
・諸警報作動	警報画面（橙）	・諸警報作動 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区 厚生棟ポンプ5番 ポンプ1	・諸警報作動 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区 厚生棟ポンプ5番 ポンプ1
・防排煙不作動 ・防排煙不復帰	警報画面（緑）	・防排煙不作動 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区001 001－11－001－1 防火戸	・防排煙不作動 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区001 001－11－001－1 防火戸
トラブル発生 ・伝送不良等	トラブル画面（紫）	・伝送不良 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区001 001－12－001 光電AN ・伝送不良 1月19日10:13 001－11－008 防排煙中継器	・伝送不良 1月19日10:13 厚生棟 5階001地区001 001－12－001 光電AN ・伝送不良 1月19日10:13 001－11－008 防排煙中継器

7. 画面説明

7-2. 液晶表示部の画面操作

（1）画面選択について

液晶表示部消灯状態から液晶表示部を押すと管理者用画面が表示されます。
目的に応じて、以下の画面選択すると目的画面を表示します。



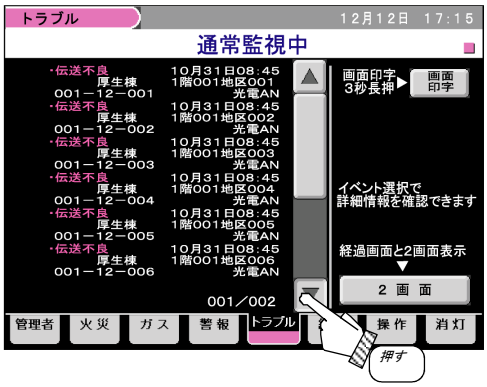
画面選択			
画面	未選択中表示	選択中表示	画面概略内容
管理者画面	管理者	管理者	火災・ガスの各2報の信号状態を優先表示します。 時刻設定や日報印字等、運用操作を行います。
火災画面	火災	火災	全ての火災状態が確認でき、アナログ履歴等（アナログ感知器のみ） 火災の詳細情報を表示します。
ガス画面	ガス	ガス	全てのガス漏れ状態が確認でき、ガスの詳細情報を表示します。
警報画面	警報	警報	全ての防排煙、諸警報の作動状態が確認でき、防排煙の詳細情報を 表示します。
トラブル画面	トラブル	トラブル	全てのトラブル状態が確認でき、トラブル発生要因等の詳細情報を 表示します。
経過画面	経過	経過	現状発生中の最新6報の信号状態を更新表示し、 画面停止により最新600報の信号履歴を表示します。
操作画面	操作	操作	防排煙・移信・消火栓の連動停止設定やプリンタ停止、模擬試験、 一斉試験が行えます。 ※「点検」スイッチが『点検』側のときは、施工・点検時の 点検・設定操作が行えます。
消灯画面	消灯		画面を消灯します。 （10分間無操作無信号状態が継続すると、自動的に消灯します。） （火災・ガス漏れ発生中、各試験中、点検時音響停止中、地区音響強制停止中は、消灯できません。）

7. 画面説明

（2）表示画面ページ切替について

・各詳細画面は、火災・ガス漏れ・トラブルなどの状態・履歴を6報／1ページで表示しているため、7報目以上の信号が受信された場合は、メイン画面右に画面スクロールバーが表示されます。「▲」「▼」を押すことにより表示ページを変更し信号内容を確認してください。

（例）トラブル画面



ボタン操作

ボタン	操作内容	表示	表示内容
▲	前ページに移行します。 先頭ページの場合は最終ページに移行します。	ページ表示 例　001／002	表示中のページ番号を表示します。 表示ページ番号／全ページ数 （復旧操作で先頭ページに移行します。）
▼	次ページに移行します。 最終ページの場合は先頭ページに移行します。		

（3）信号詳細内容の表示について

・各詳細画面にて、発生中の信号を選択すると、各信号の詳細情報がサブ表示部より選択できます。（種別により選択できる情報、操作は異なります。）

（例）トラブル画面

画面切替

該当の信号内容を選択します。

トラブルの場合
「要因表示」や「一覧表示」が選択できます。
「終了」を押すと元の画面に切替できます。

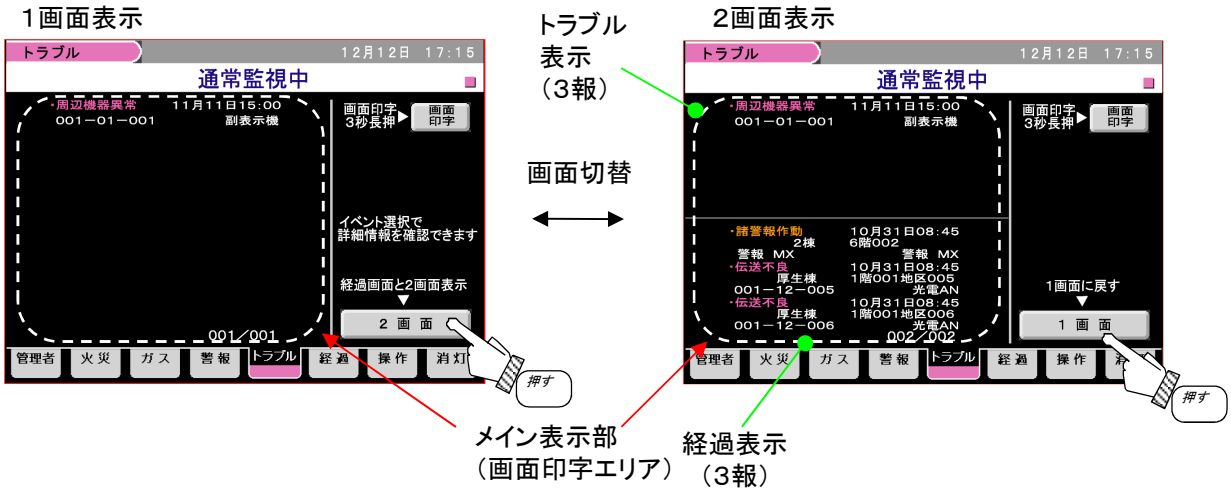
7. 画面説明

（4）2画面表示について

・火災・ガス・警報・トラブル画面において、画面を上下2分割し、
上側で該当画面の発生警報を表示し、下側で受信機全動作の経過を表示します。（下図右）

・1画面表示で「 2画面 」を押すと2画面表示（下図右）に切替わります。
・2画面表示で「 1画面 」を押すと1画面表示（下図左）に切替わります。

（例）トラブル画面



（5）画面の経過表示について

・画面の経過表示には、最新6報を更新表示する「経過画面」と最新600報を履歴表示する「経過停止画面」があり、それぞれ「画面動作」、「画面停止」により切替できます。
・経過画面表示中に再度「経過」を押すと、1つ前に表示していた画面に戻ります。
試験中の試験動作確認等に使用すると便利です。

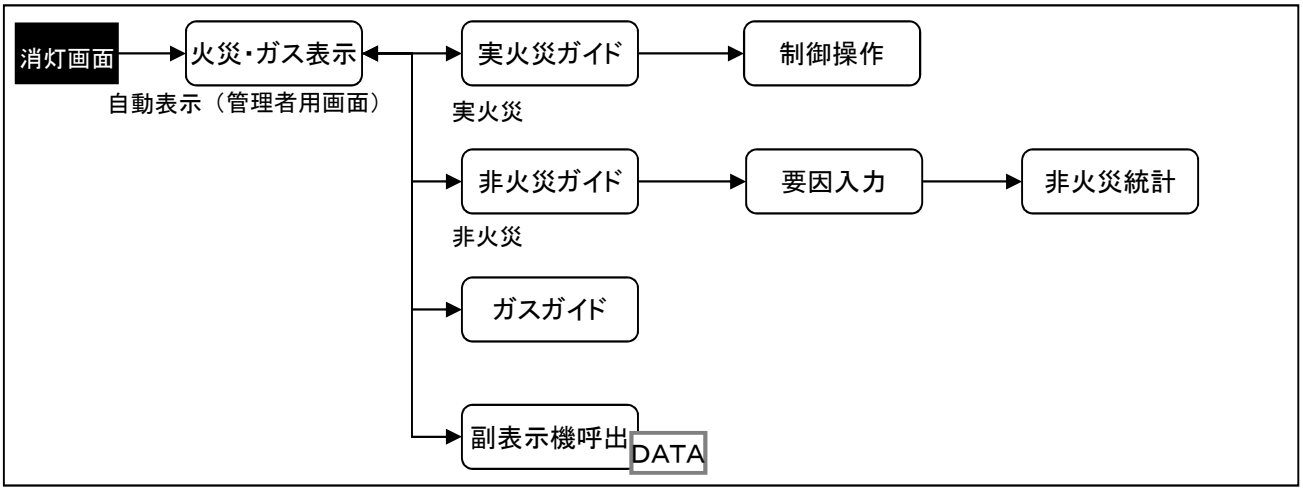
経過画面　　経過停止画面

前回表示画面

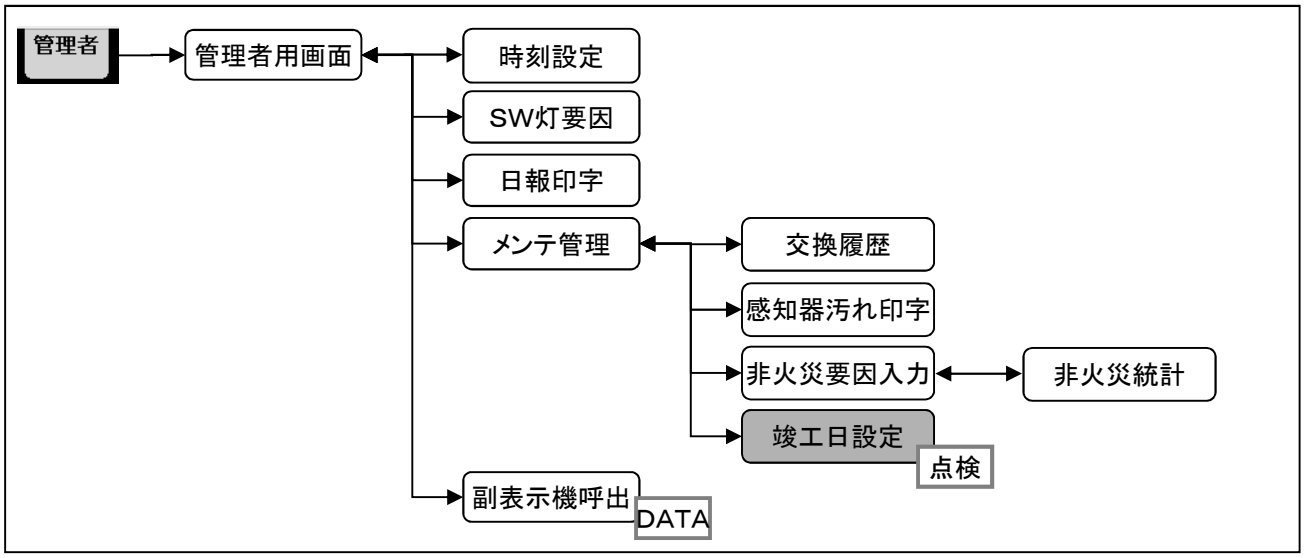
7. 画面説明

7-3. 液晶表示部の画面一覧と構成

液晶表示部が消灯状態の時、火災・ガス漏れの警報信号を受信すると、自動的に管理者用画面（火災・ガス表示）を表示します。
表示されるガイドにしたがって操作を行ってください。



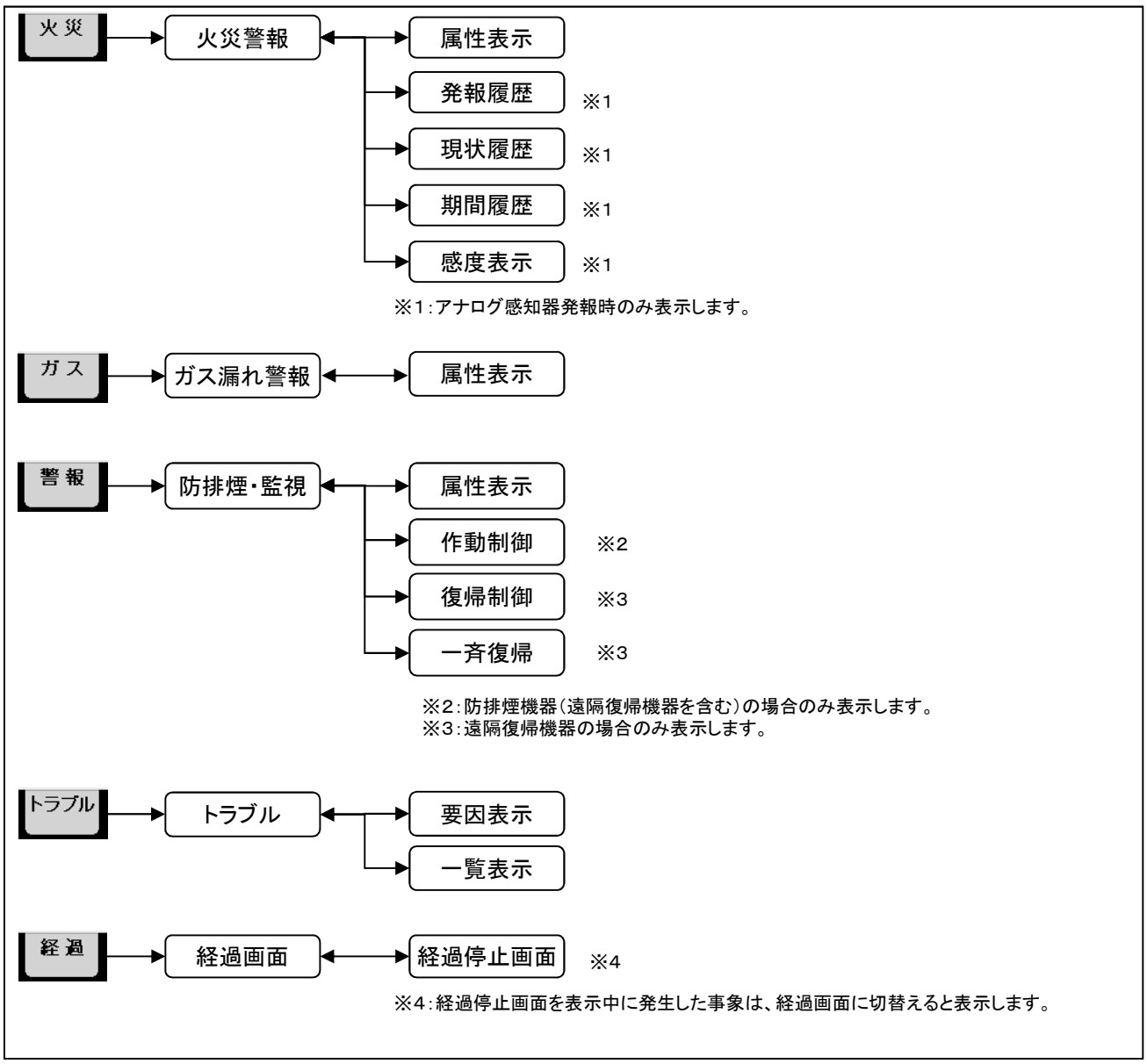
・平常時には、管理者用画面は、運用上で操作される時刻設定やスイッチ注意灯の要因確認、日報印字、メンテ管理等の機能画面です。



点検　点検スイッチが『点検』側のとき表示します。　DATA　連動テーブルに登録されている場合のみ表示します。

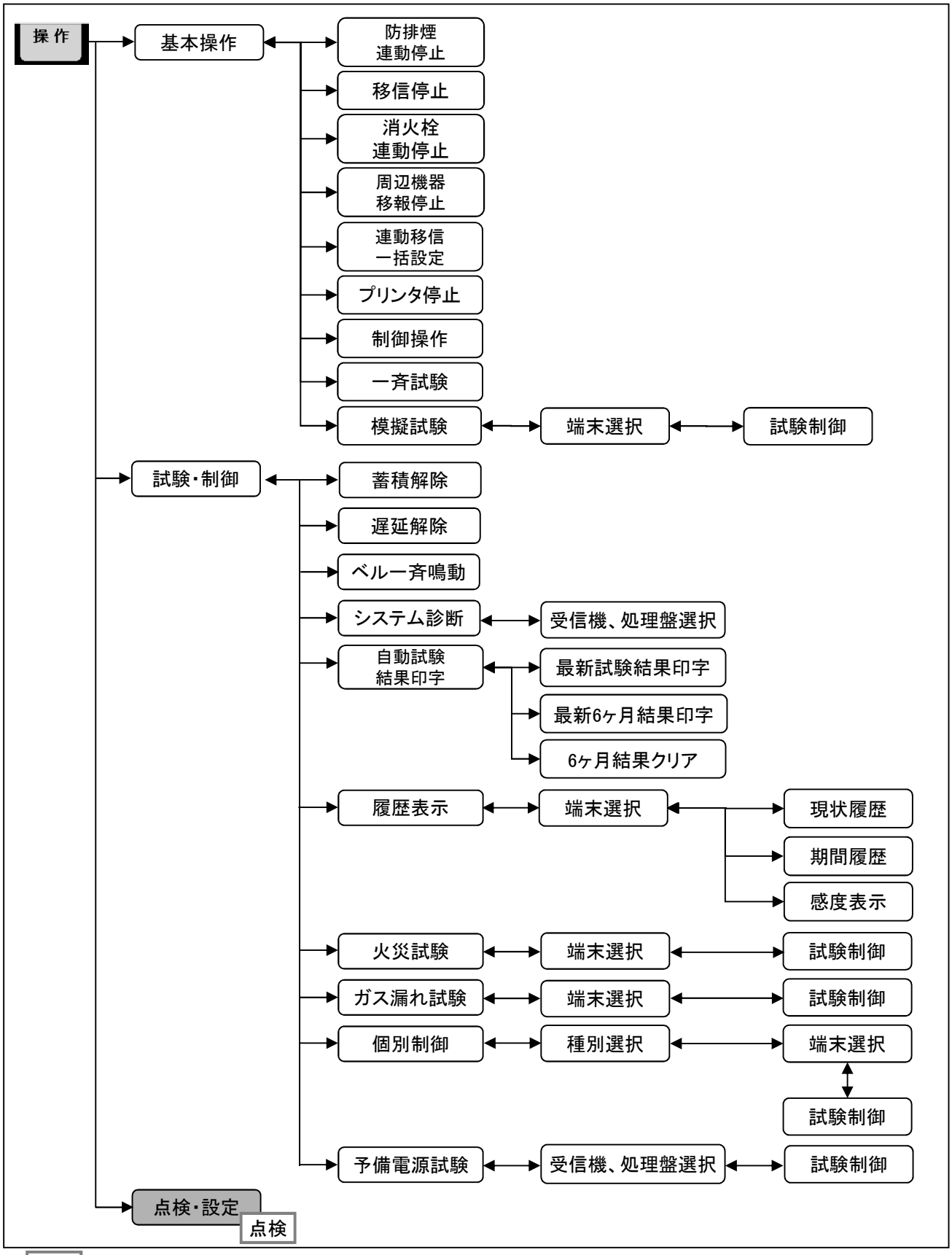
7. 画面説明

・各警報毎の画面により詳細情報の確認ができます。



7. 画面説明

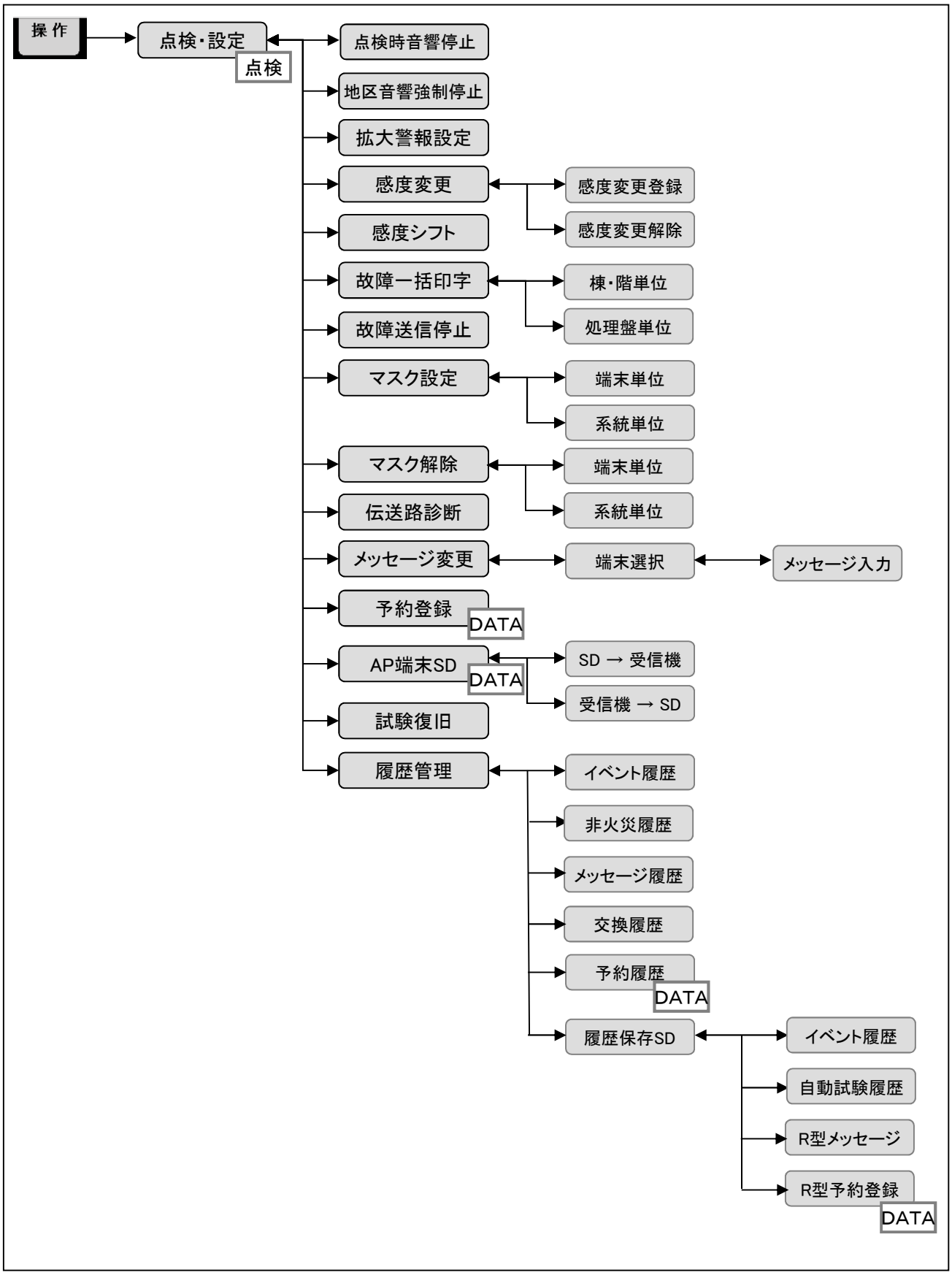
・基本操作画面では、運用上設定変更されうる防排煙・移信・消火栓等の連動設定の確認や、一斉試験、模擬試験の試験ができます。
・試験・制御画面は、予備電源試験等の試験や、情報確認ができます。



点検　点検スイッチが『点検』側のとき表示します。

7. 画面説明

・点検・設定画面は、点検時の設定、システムの一時的な設定変更、メッセージ変更、追加登録等ができます。



点検　点検スイッチが『点検』側のとき表示します。　DATA　連動テーブルに登録されている場合のみ表示します。

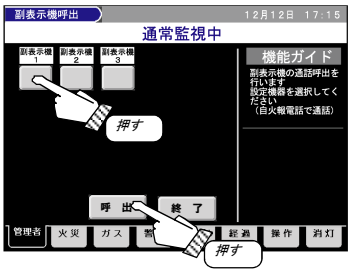
MEMO

副表示機呼出
接続されている副表示機と通話するとき
副表示機の呼出を行うとき

受信機の自火報電話機で副表示機と通話を行います。

(注) あらかじめ自火報電話機を受信機の電話ジャックに接続しておいてください。

① 「管理者」を押してください。
② 「副表示機呼出」を押してください。



③ 通話したい副表示機のボタンを選択し、「呼出」を押してください。

・副表示機を呼出中のときは、
副表示機のボタンが10秒間赤色で点滅します。
(副表示機側では呼出音が鳴動します。)

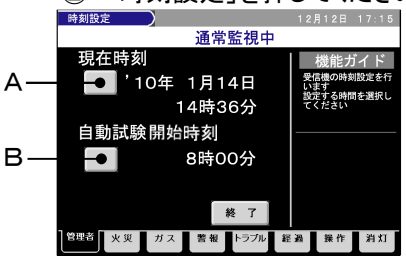
④ 終了または中断するときは「終了」を押してください。

(注) 終了時は必ず自火報電話機を電話ジャックから抜いてください。

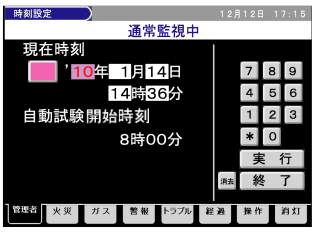
メモ
・呼出可能な副表示機は最大15台登録できます。
※事前に連動テーブルへの登録が必要です。

時刻設定
受信機の現在時刻を変更するとき
自動試験開始時刻を変更するとき

① 「管理者」を押してください。
② 「時刻設定」を押してください。



③ 現在時刻を変更するときは「A」を押してください。
自動試験開始時刻を変更するときは「B」を押してください。



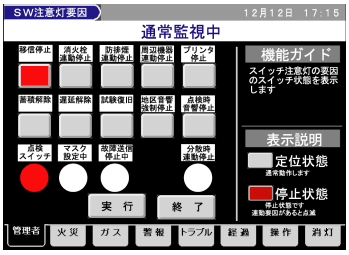
④ 紫枠・赤数字の箇所が変更できます。
サブ表示部の数字ボタンを押し、設定を変更します。「実行」を押すと変更が確定し、次へ順送りします。
・現在時刻の変更は「年→月→日→時→分」の順です。
・自動試験開始時刻の変更は「時→分」の順です。

⑤ 最後の送り箇所(分)で「実行」を押すと変更が反映されます。変更した時刻をプリンタ印字します。
・「終了」を押すと、③の画面へ戻ります。
・変更箇所を送るときは「実行」を押してください。
・「消去」を押すと変更箇所の設定を消すことができます。

メモ
・現在時刻は、2099年12月31日まで設定できます。
※防災CRT(オプション)接続時は2035年12月31日までになります。

スイッチ注意灯の点滅要因確認
スイッチ注意灯が点滅している要因を確認するとき

① 「管理者」を押してください。
② 「SW灯要因」を押してください。

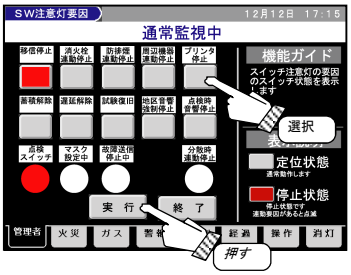


③ 各機能の状態が確認できます。

（灰色）の時：定位状態です。
（赤色）の時：停止状態または、
点検スイッチは点検状態、
マスク設定中は設定中状態です。

メモ

・点検スイッチが『点検』側のときは、
のボタンは設定変更が可能となります。



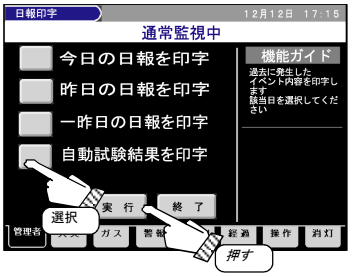
④ 各機能のボタンを選択し、「実行」を押してください。
・定位状態と停止状態が切替わります。

注 ・移信停止、消火栓連動停止、防排煙連動停止は各々1つでも停止状態があると（赤色）表示します。
・SW灯要因から操作した場合は、全て停止か全て解除のいずれかしか設定できません。詳細設定は、操作画面より実施してください。
・分散時連動停止スイッチは分散処理盤内のスイッチです。

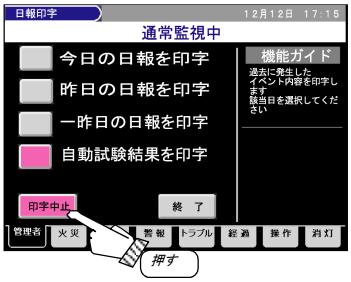
日報・自動試験結果の印字
日報（過去の発生内容）や最新自動試験結果を印字するとき

・日報印字は、今日・昨日・一昨日に発生した履歴などを印字できます。
（月曜日に土日の履歴を印字できます。）
・自動試験結果は、最新の自動試験結果を印字します。

① 「管理者」を押してください。
② 「日報印字」を押してください。



③ 印字する項目のボタンを選択し、「実行」を押してください。
・プリンタ印字が開始します。



④ プリンタ印字を中断するときは、「印字中止」を押してください。

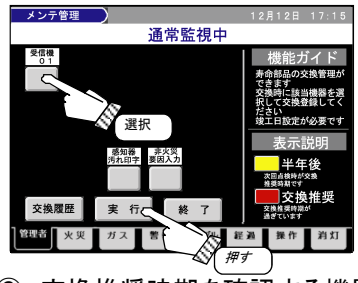
メモ

・プリンタ停止状態では、印字できません。

注 現在時刻を変更した場合、変更以後が今日の日報分となり、今日の日報は昨日の日報へずれます。昨日の日報は一昨日の日報へずれます。

受信機寿命部品の交換推奨時期の確認
受信機寿命部品の交換推奨時期の確認を行うとき

① 「管理者」を押してください。
② 「メンテ管理」を押してください。

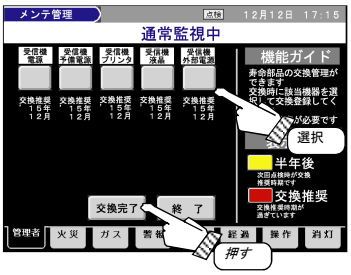


③ 交換推奨時期を確認する機器のボタンを選択し、「実行」を押してください。

が黄色の場合、次回点検時が交換推奨の部品です。
が赤色の場合、交換推奨時期を経過した部品です。
の下の年・月は交換推奨時期です。

メモ

・点検スイッチが『点検』側のときは、
交換完了（部品交換時に実施）が選択できます。



④ 各ユニットのボタンを選択し、「交換完了」を押してください。（交換日時が記録されます。）

・交換完了後、次回の交換推奨時期の表示を行います。

※交換推奨時期について

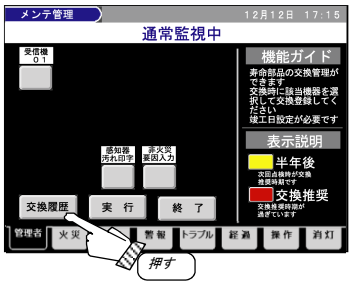
・電源	：5年	・予備電源	：5年
・プリンタ	：5年	・液晶	：5年

自動火災報知設備・総合操作盤の適正な維持管理について
（「定期交換部品のご案内」 日本火災報知機工業会より ）

交換した部品の履歴確認
交換した部品の履歴を確認するとき

過去に部品を交換した履歴を確認することができます。

① 「管理者」を押してください。
② 「メンテ管理」を押してください。



③ 「交換履歴」を押してください。

・交換した部品の履歴を確認できます。

（注）交換履歴は、最新600件まで記憶します。
（復旧スイッチを押すと記憶します。
入力後は必ず復旧スイッチを押してください。）

メモ

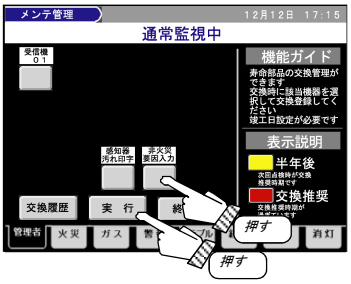
・点検スイッチが『点検』側のときは、
「履歴消去」が押せます。

（注）交換履歴を消去すると交換データが消えますのでご注意ください。

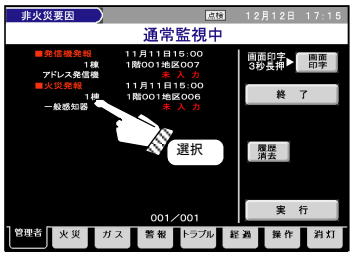
非火災報の要因入力を行うとき

非火災報が発生した際に、非火災要因を入力し、
それらの要因の統計表示により、非火災対策の
情報として利用することを目的としています。

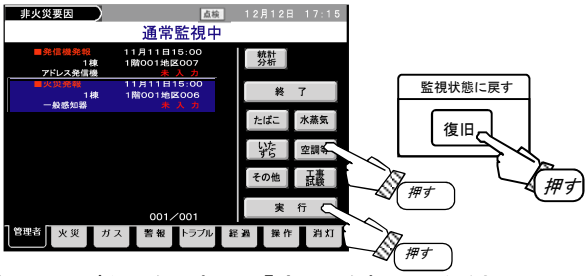
① 「管理者」を押してください。
② 「メンテ管理」を押してください。



③ 「非火災要因入力」を押し、
「実行」を押してください。



④ 入力する非火災履歴を選択してください。



⑤ 要因ボタンを選択し、「実行」を押してください。
要因表示が変わります。
・非火災要因は
「たばこ」「水蒸気」「いたずら」「空調等」
「その他」「工事試験」から押してください。
要因を入力しない場合は「未入力」となります。
⑥ 復旧スイッチを押してください。

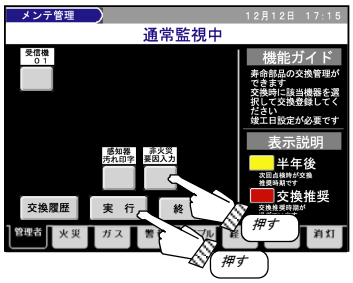
(注) ・非火災要因は、最新600件まで記憶します。
（復旧スイッチを押すと入力内容を記録します。
入力後は必ず復旧スイッチを押してください。）

メモ
・点検スイッチが『点検』側のときは、
「履歴消去」 を押し、「実行」を押すと
履歴を消去できます。

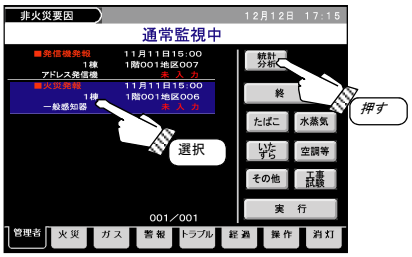
(注) 運用時は操作しないでください。
非火災データが消えてしまいます。

非火災履歴、統計情報を確認するとき

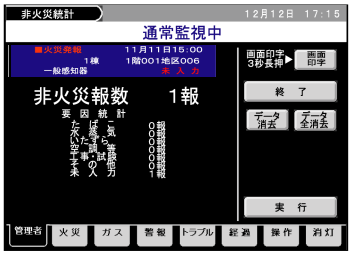
① 「管理者」を押してください。
② 「メンテ管理」を押してください。



③ 「非火災要因入力」を選択し、
「実行」を押してください。



④ 確認したい非火災履歴を選択してください。
⑤ 「統計分析」を押してください。



⑥ 選択された感知器の非火災要因の
統計情報が表示されます。

・「データ消去」は、選択した非火災情報の1報のみ消去します。
・「データ全消去」は、選択した感知器の全ての非火災情報を消去します。
（感知器交換後等に実施ください。）

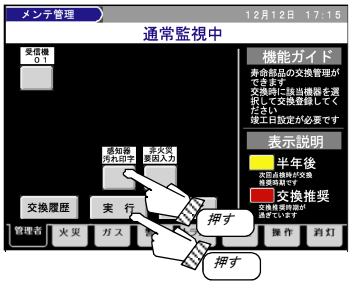
メモ

・「画面印字」を3秒以上長押しすると表示画面を印字します。
（プリンタ停止状態の場合は印字しません。）

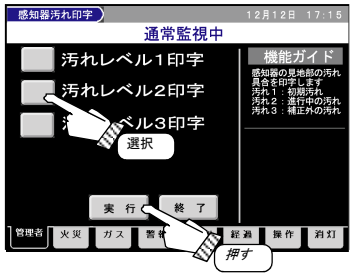
感知器の汚れの確認を行うとき

煙感知器が汚れてくると非火災報が発生しやすくなり、感度の補正限界を超えると、汚れレベル3のトラブルが発生しますので、汚れレベル2の感知器は早めの交換もしくは清掃をお勧めします。

① 「管理者」を押してください。
② 「メンテ管理」を押してください。



③ 「感知器汚れ印字」を押し、
「実行」を押してください。



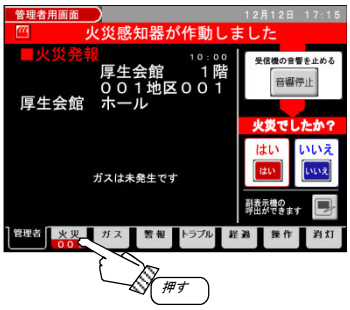
④ 印字したい項目のボタンを選択し、
「実行」を押してください。
※プリンタ印字を中断するときは、
「印字中止」を押してください。

メモ

・プリンタ停止状態の場合、印字しません。
・汚れのレベルについて
　○汚れレベル1：
　　初期汚れ　自動感度補正し正常感度に補正可能
　○汚れレベル2：
　　進行中の汚れ　自動補正可能
　　感知器の交換準備もしくは清掃をしてください。
　○汚れレベル3：
　　補正外の汚れ　自動補正不可能
　　非火災報が発生しやすくなっています。
　　交換してください。（トラブルとして通知します。）

火災詳細情報の確認(1／2)
発報した感知器の詳細情報を確認する

火災発報した感知器の属性表示やアナログ感知器の感度グラフ等が確認できます。

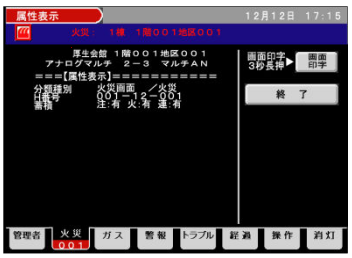


① 「火災」を押してください。

② 確認したい感知器の発報履歴を選択してください。
※「画面印字」にてプリンタ印字ができます。

③ サブ表示部に表示される情報を選択し、
「実行」を押してください。

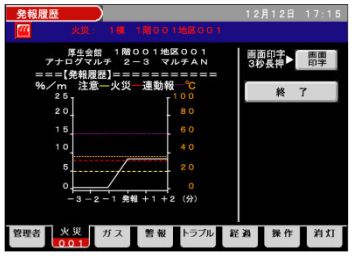
属性表示を確認する



選択した感知器の設定内容を表示します。

分類種別	:火災画面　／火災(固定)
H番号	:ハード番号を表示します。
蓄積	:蓄積の設定状態を表示します。 蓄積有:　有 蓄積無:　無 設定無:　－

発報履歴を確認する(煙アナログ感知器)



発報時より
前3分間と
後2分間の
グラフを表示します。

煙:白色　熱:橙色(熱検知機能付のみ)にて表示します。

現状履歴を確認する(煙アナログ感知器)

現在より
過去5分間
のグラフを表示します。
(約6秒で自動更新)

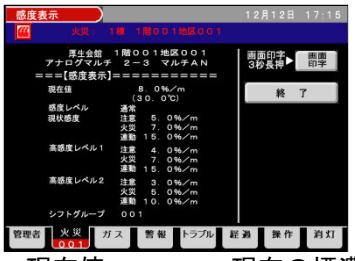
煙:白色　熱:橙色(熱検知機能付のみ)にて表示します。

期間履歴を確認する(煙アナログ感知器)

現在より
過去30日間の
最大値と最小値の
グラフを表示します。
最大値:実線
最小値:点線

煙:白色　熱:橙色(熱検知機能付のみ)にて表示します。

感度表示を確認する(煙アナログ感知器)

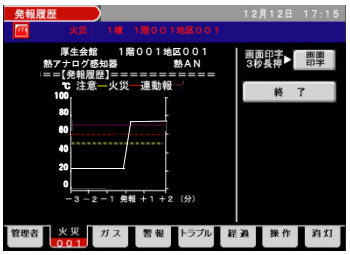


選択した感知器の
現状感度(現在値)の
感度情報を表示します。
(約6秒で自動更新)

現在値	:現在の煙濃度(温度)を表示します。
感度レベル	:感度シフトの状況を表示します。 通常／高感度1／高感度2
現状感度	:現在の動作設定感度を表示します。
高感度レベル1	:高感度1の設定感度を表示します。
高感度レベル2	:高感度2の設定感度を表示します。
シフトグループ	:感度シフトのグループ番号を表示します。

火災詳細情報の確認（２／２）
発報した感知器の詳細情報を確認する

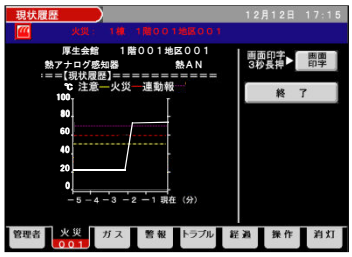
発報履歴を確認する（熱アナログ感知器）



発報時より
前3分間と
後2分間の
グラフを表示します。

熱：白色　にて表示します。

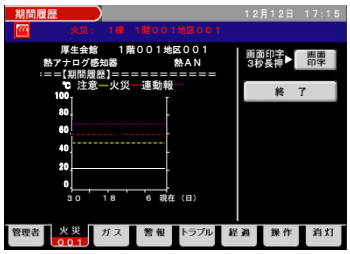
現状履歴を確認する（熱アナログ感知器）



現在より
過去5分間
のグラフを表示します。
（約6秒で自動更新）

熱：白色　にて表示します。

期間履歴を確認する（熱アナログ感知器）



現在より
過去30日間の
最大値と最小値の
グラフを表示します。
最大値：実線
最小値：点線

熱：白色　にて表示します。

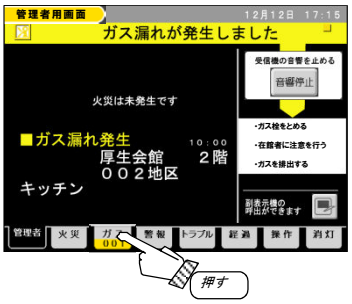
感度表示を確認する（熱アナログ感知器）

選択した感知器の
現状感度（現在値）の
感度情報を表示します。
（約6秒で自動更新）

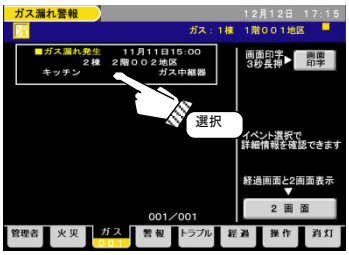
現在値	：現在の温度を表示します。
感度レベル	：感度シフトの状況を表示します。 通常／高感度1／高感度2
現状感度	：現在の動作設定感度を表示します。
高感度レベル1	：高感度1の設定感度を表示します。
高感度レベル2	：高感度2の設定感度を表示します。
シフトグループ	：感度シフトのグループ番号を 表示します。

ガス漏れ発生の詳細情報の確認
作動している中継器の詳細情報を確認する

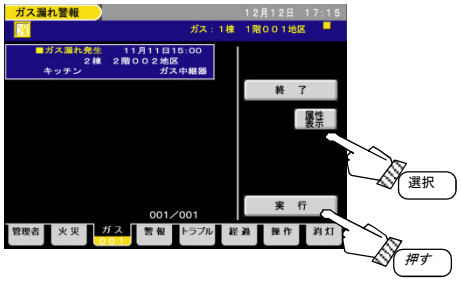
作動しているガス漏れ中継器の属性内容が確認できます。



① 「ガス」を押してください。

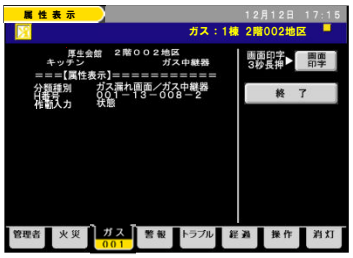


② 確認したいガス漏れ中継器の発生履歴を選択してください。
※「画面印字」にてプリンタ印字ができます。



③ サブ表示部に表示される情報を選択し、「実行」を押してください。

属性表示を確認する



選択したガス漏れ中継器の設定内容を表示します。

分類種別　：ガス漏れ画面／ガス中継器（固定）
H番号　：ハード番号を表示します。
作動入力　：状態

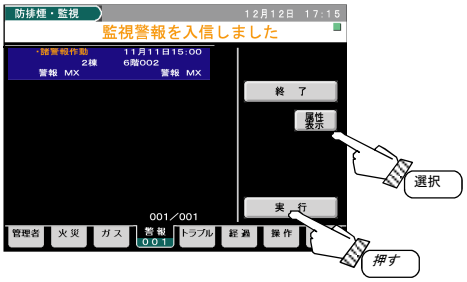
（信号が発報レベルを下回ると自動で復旧します。）

諸警報の詳細情報の確認
作動した諸警報機器の詳細情報を確認する

作動した諸警報機器の属性内容が確認できます。

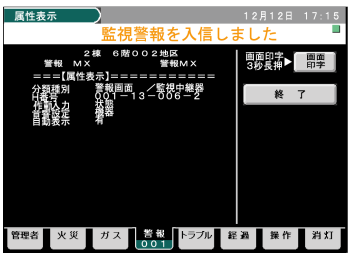
① 「警報」を押してください。

② 確認したい諸警報の履歴を選択してください。
※「画面印字」にてプリンタ印字ができます。



③ サブ表示部に表示される情報を選択し、
「実行」を押してください。

属性表示を確認する



選択した諸警報機器の設定内容を表示します。

分類種別	:警報画面　／監視中継器(固定)
H番号	:ハード番号を表示します。
作動入力	:状態／ラッチ
音響設定	:機器／無
自動表示	:有／無

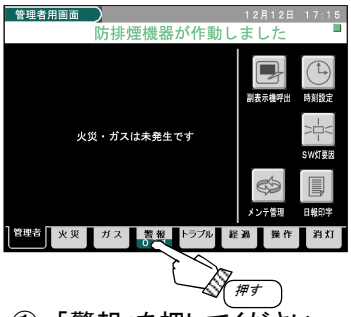
メモ

属性表示内容説明

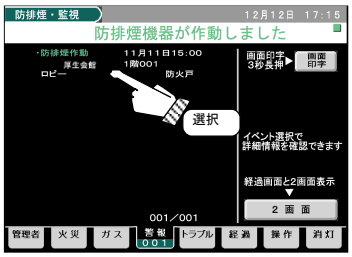
作動入力	状態	:端末が復帰すると自動復旧します。
	ラッチ	:復旧スイッチを押すまで表示を継続します。
機器音響	機器	:作動時に機器音響が鳴動します。
	無	:作動時に音響は鳴動しません。
自動表示	有	:消灯画面から自動表示します。(模擬試験の中断要因)
	無	:自動表示しません。(模擬試験は中断しない)

防排煙の詳細情報を確認
作動した防排煙機器の詳細情報を確認する

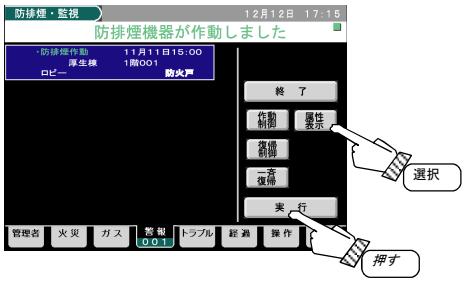
作動した防排煙機器の属性内容が確認できます。
作動した防排煙機器に再度作動制御や復帰制御（種別による）が行えます。



① 「警報」を押してください。

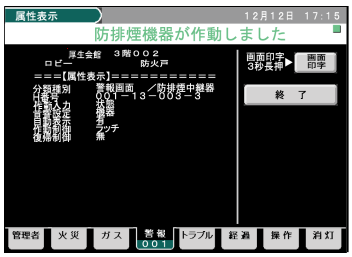


② 確認したい防排煙機器の履歴を選択してください。
※「画面印字」にてプリンタ印字ができます。



③ サブ表示部に表示される情報を選択し、「実行」を押してください。

属性表示を確認する



選択した防排煙機器の設定内容を表示します。

分類種別	：警報画面　／防排煙中継器（固定）
H番号	：ハード番号を表示します。
作動入力	：状態／ラッチ
音響設定	：機器／無
自動表示	：有／無
作動制御	：パルス／ラッチ
復帰制御	：無／パルス

作動制御を行う

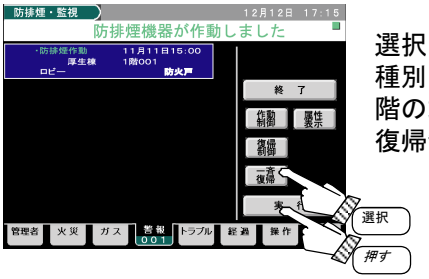
防火戸などが複数接続されている場合、再度作動制御を行います。

復帰制御を行う（遠隔復帰端末のみ）

選択した端末の遠隔復帰制御を行います。

※火災発生中かつ点検スイッチが『定位』側のときは、操作できません。

一斉復帰制御を行う（遠隔復帰端末のみ）



選択した端末と同一種別、且つ同一棟、階の端末全てに遠隔復帰制御を行います。

※火災発生中かつ点検スイッチが『定位』側のときは、操作できません。

メモ

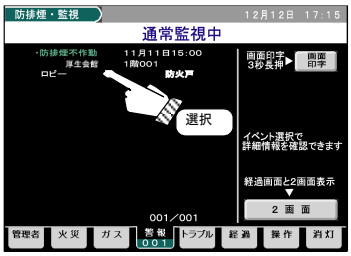
属性表示内容説明

作動入力	状態	：端末が復帰すると自動復旧します。
	ラッチ	：復旧スイッチを押すまで表示を継続します。
機器音響	機器	：作動時に機器音響が鳴動します。
	無	：作動時に音響は鳴動しません。
自動表示	有	：消灯画面から自動表示します。（模擬試験の中断要因）
	無	：自動表示しません。（模擬試験は中断しない）
制御	パルス	：一定時間で制御が復旧します。
	ラッチ	：復旧スイッチを押すまで制御を継続します。

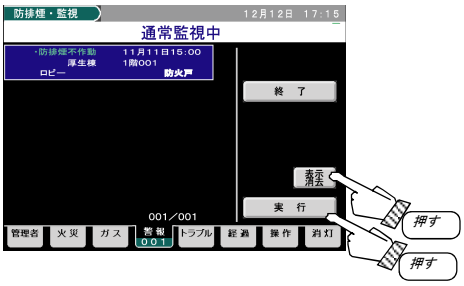
防排煙不作動・不復帰の確認
不作動・不復帰を確認後消去する

制御した防排煙機器が作動しなかった場合、
防排煙不作動を表示します。
制御した防排煙機器が復帰しなかった場合、
防排煙不復帰を表示します。
表示した防排煙不作動・防排煙不復帰は、受信機
から表示消去できます。

① 「警報」を押してください。



② 表示消去したい防排煙不作動・防排煙不復帰
の履歴を選択してください。



③ 「表示消去」を押し、「実行」を押してください。
防排煙不作動・防排煙不復帰の表示が消去
されます。

メモ

防排煙不作動・防排煙不復帰は、警報数にカウント
されますが、 防排煙作動灯の点滅対象にはなり
ません。

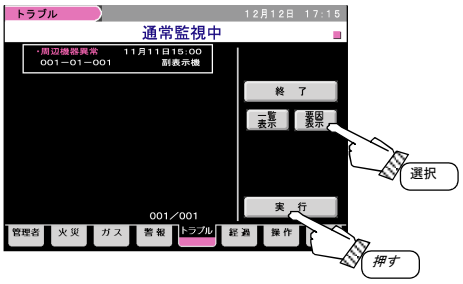
(注) RXコントローラの2次側に副表示機が接続されて
いる場合、表示消去後には副表示機との状態合
わせは行われないため、必ず復旧スイッチを押し
てください。

トラブルの詳細情報を確認
発生したトラブルの詳細情報を確認する

発生したトラブル内容の一覧表示や要因の確認ができます。

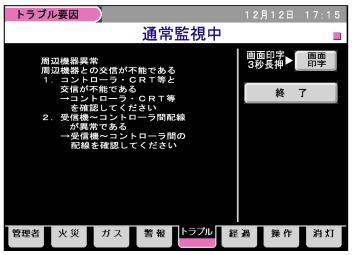
① 「トラブル」を押してください。

② 確認したいトラブルの履歴を選択してください。
※「画面印字」にてプリンタ印字ができます。



③ サブ表示部に表示される情報を選択し、
「実行」を押してください。

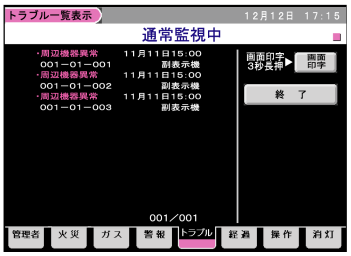
要因表示を確認する



トラブルの要因と
対策例を表示します。

※「画面印字」にて
プリンタ印字が
できます。

一覧表示

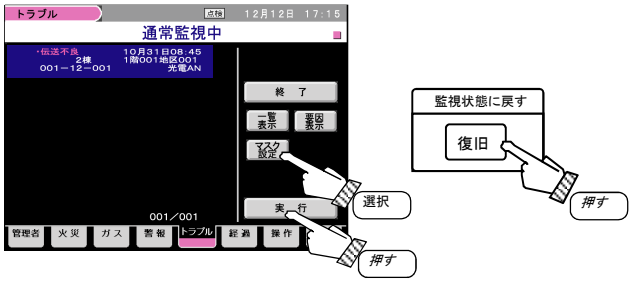


同一のトラブルを
検索し一覧で表示
します。

※「画面印字」にて
プリンタ印字が
できます。

マスク設定

点検

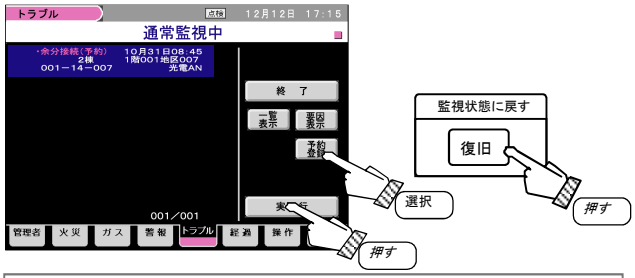


※「マスク設定」を選択し、「実行」を押してください。
　その後、復旧スイッチを押してください。
（マスク設定の記憶には復旧スイッチ操作が必要です。）
※PX端末、RX感知器（予約登録種別）はマスク設定
　できません。

予約登録

点検

PX端末、RX感知器（予約登録種別）の
受信機への予約登録が行えます。

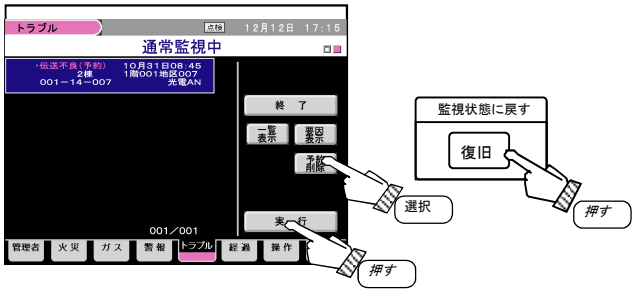


※「予約登録」を選択し、「実行」を押してください。
　その後、復旧スイッチを押してください。
（予約登録を記憶させるには復旧スイッチを必ず最後
　に押してください。）

予約削除

点検

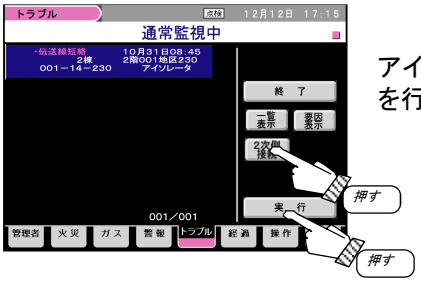
PX端末、RX感知器（予約登録種別）の
受信機からの予約削除が行えます。



※「予約削除」を選択し、「実行」を押してください。
　その後、復旧スイッチを押してください。
（予約登録を削除するには復旧スイッチを必ず最後
　に押してください。）

アイソレータ接続

点検



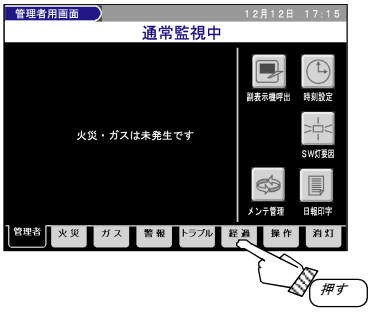
アイソレータ接続制御
を行います。

2次側の短絡復旧後に接続制御してください。

※「2次側接続」を選択し、「実行」を押してください。

履歴情報の確認
発生した履歴情報を確認する

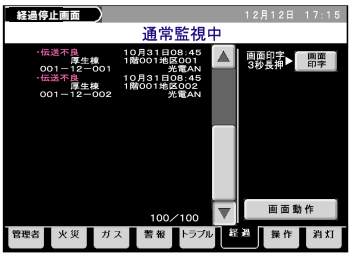
発生した履歴情報を時系列に表示します。



① 「経過」を押してください。

経過画面には
最新の6報を
表示します。
（自動更新）

② 「画面停止」を押してください。



経過停止画面には
最新の600報を
表示します。
（固定表示）

※ 「画面印字」にてプリンタ印字ができます。

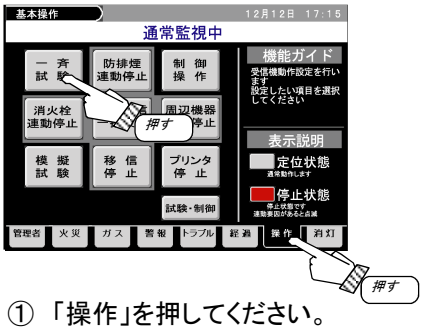
（注） 受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源をはずした状態）にした場合、経過画面情報は、消去されます。

メモ

経過画面中に再度「経過」を押すと
前回表示していた画面に戻ります。
（画面変更により中断する試験画面でのイベント確認に使用すると便利です。）

一斉試験
受信機、分散処理盤の動作確認を行うとき

一斉試験は、「予備電源試験」「LED表示試験」
「メモリチェック」を自動的に行い、
その結果を表示、プリンタ印字します。



① 「操作」を押してください。
② 「一斉試験」を押してください。

③ 一斉試験横の ボタンを選択し、
「実行」を押してください。

・試験実行中は一斉試験横のボタンが紫色点滅します。
「中断」表示します。

・「中断」を押すと試験が中断します。

・試験終了で紫色点滅が灰色点灯にもどります。
「中断」表示が消去されます。

・予備電源試験、メモリ表示試験の結果表示
（良、不良）が反映されます。

メモ

・試験開始前に以下の状態であると、試験を
実施できません。
・試験中に以下の状態になると、試験を中断します。

＜一斉試験開始不可および中断条件＞
○火災・注意表示発生（蓄積中も含む）
○ガス漏れ発生（遅延中も含む）
○試験復旧状態のとき
○復旧スイッチを押したとき
○他の試験を行っているとき
○一斉試験画面を切り替えたとき
○交流電源断状態のとき
（予備電源試験が不可）

＜一斉試験について＞

試験項目	試験内容	試験結果表示
予備電源試験	・受信機、分散処理盤の予備電源の容量を確認します。 ・交流電源から予備電源への切替試験を行います。	液晶表示部に試験結果を表示します。 良　：正常です。 不良：予備電源の容量不足です。 不可：試験が中断しました。
LED表示試験	受信機のLED表示、液晶表示を約10秒間全点灯します。	・LEDを約10秒間全点灯し、その間に液晶表示部を約3秒間隔で赤色→青色→緑色の順に全点灯します。 ・点灯していないLEDや表示していない液晶色がないかを目視で確認してください。
メモリチェック	受信機、分散処理盤のメモリ内容を確認します。	液晶表示部に試験結果を表示します。 良　：正常です。 不良：メモリが故障しています。 不可：試験が中断しました。

＜不良時の対応について＞

予備電源やユニットの交換が必要な場合があります。
施工店または点検契約店に連絡してください。

・予備電源試験
「6. 異常時の点検・処理」の予備電源試験不良を
参照ください。

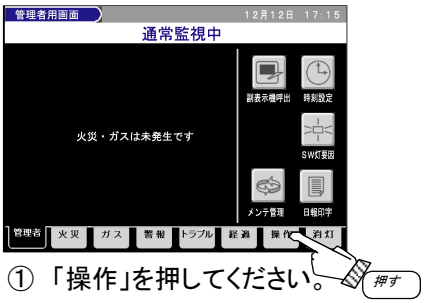
・LED表示試験
LED表示、液晶表示の交換が必要な場合があります。

・メモリチェック
「6. 異常時の点検・処理」のメモリ異常を
参照ください。

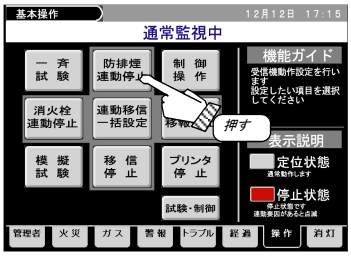
（一斉試験については、「12-1. 一斉試験について」を
参照ください。）

防排煙連動停止
防排煙の連動を停止、解除設定するとき

・防排煙の種別を最大10グループまで設定し、
　グループ（種別）単位での連動設定が行えます。
※受信機の起動時は、すべて停止状態で起動します。



① 「操作」を押してください。



② 「防排煙連動停止」を押してください。
（連動停止の防排煙があるときボタンは赤色です。）

③ 以下のボタンを押し、ボタンが紫色に
　変わった後、「実行」を押してください。

・全ての防排煙の連動を停止させるとき、
「一斉停止」を押してください。
　＞登録がある防排煙機器のボタンが
　　赤色になります。

・全ての防排煙の連動停止を解除させるとき、
「一斉解除」を押してください。
　＞ボタンが赤色→灰色　（定位）になります。

・特定の防排煙の連動を停止させるとき、
設定を行いたい防排煙（灰色）を押してください。
　＞ボタンが灰色→赤色　（連動停止）になります。

・特定の防排煙の連動停止を解除させるとき、
設定を行いたい防排煙（赤色）を押してください。
　＞ボタンが赤色→灰色　（定位）になります。

＜防排煙連動停止について＞

：定位状態（灰色）
　火災等からの連動がかかります。

：停止状態（赤色）
　火災等からの連動は停止されています。

停止状態で連動要因が発生すると点滅表示します。
「防排煙連動停止」灯も同様に点滅表示します。

※火災発生時に、火災断定スイッチを押すと
　防排煙連動停止は一斉に解除されます。

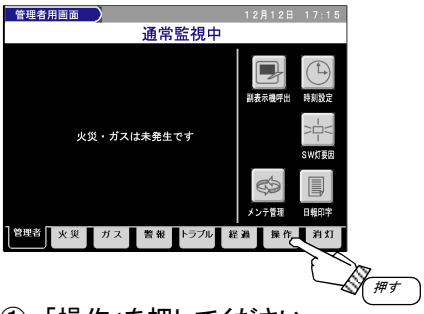
メモ

・防排煙連動停止中の種別であっても、
　個別制御では制御します。

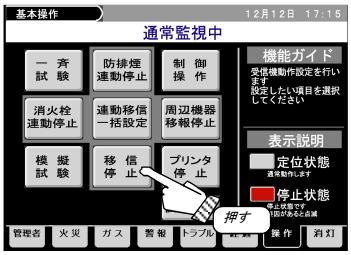
・一旦出力した防排煙への制御は、防排煙連動
　停止操作しても制御出力は停止しません。
　（復旧スイッチを押して制御出力を停止させて
　　ください。）

移信停止
移信の連動を停止、解除設定するとき

・移信出力の種別を最大20グループまで設定し、
　グループ単位での連動設定が行えます。
※受信機の起動時は、すべて停止状態で起動します。



① 「操作」を押してください。



② 「移信停止」を押してください。
（連動停止の移信種別があるときボタンは赤色です。）

③ 以下のボタンを押し、ボタンが紫色に
　変わった後、「実行」を押してください。

・全ての移信の連動を停止させるとき、
「一斉停止」を押してください。
　＞登録がある移信種別のボタンが
　　赤色になります。

・全ての移信の連動停止を解除させるとき、
「一斉解除」を押してください。
　＞ボタンが赤色→灰色　（定位）になります。

・特定の移信種別の連動を停止させるとき、
設定を行いたい移信種別（灰色）を押してください。
　＞ボタンが灰色→赤色　（連動停止）になります。

・特定の移信種別の連動停止を解除させるとき、
設定を行いたい移信種別（赤色）を押してください。
　＞ボタンが赤色→灰色　（定位）になります。

＜移信停止について＞

：定位状態（灰色）
　火災等からの連動がかかります。

：停止状態（赤色）
　火災等からの連動は停止されています。

停止状態で連動要因が発生すると点滅表示します。

※火災発生時に、火災断定スイッチを押すと
　移信停止は一斉に解除されます。

メモ

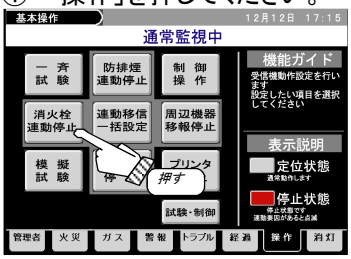
・移信停止中の種別であっても、個別制御では制御します。

・出力中の移信種別に対して移信停止操作を行うと出力が停止し、該当移信停止ボタンが点滅します。
ただし、移信停止操作前に個別制御で制御した出力は移信停止操作では停止しない場合があります。

消火栓連動停止
消火栓の連動を停止、解除設定するとき

・消火栓連動系統を最大13系統まで設定し、
　系統単位での連動設定が行えます。
　（標準：1系統　オプション：最大13系統まで増設可能）
※受信機の起動時は、すべて停止状態で起動します。

① 「操作」を押してください。



② 「消火栓連動停止」を押してください。
（連動停止の消火栓があるときボタンは赤色です。）

③ 以下のボタンを押し、ボタンが紫色に
　変わった後、「実行」を押してください。

・全ての消火栓の連動を停止させるとき、
「一斉停止」を押してください。
　＞登録がある消火栓のボタンが赤色になります。

・全ての消火栓の連動停止を解除させるとき、
「一斉解除」を押してください。
　＞ボタンが赤色→灰色　（定位）になります。

・特定の消火栓系統の連動を停止させるとき、
設定を行いたい系統（灰色）を押してください。
　＞ボタンが灰色→赤色　（連動停止）になります。

・特定の消火栓系統の連動停止を解除させるとき、
設定を行いたい系統（赤色）を押してください。
　＞ボタンが赤色→灰色　（定位）になります。

＜消火栓連動停止について＞

：定位状態（灰色）
　発信機等からの連動がかかります。

：停止状態（赤色）
　発信機等からの連動は停止されています。

停止状態で連動要因が発生すると点滅表示します。

※火災発生時に、火災断定スイッチを押すと
　消火栓連動停止は一斉に解除されます。

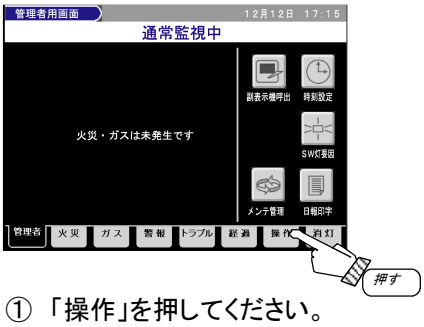
メモ

・消火栓連動停止中であっても、消火栓を
　個別制御により起動できます。

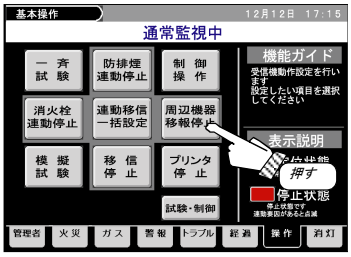
・消火栓が起動した場合は、消火栓灯が
　点滅します。

周辺機器移報停止
副表示機、防災CRT等へ通信移報の停止、解除を行うとき

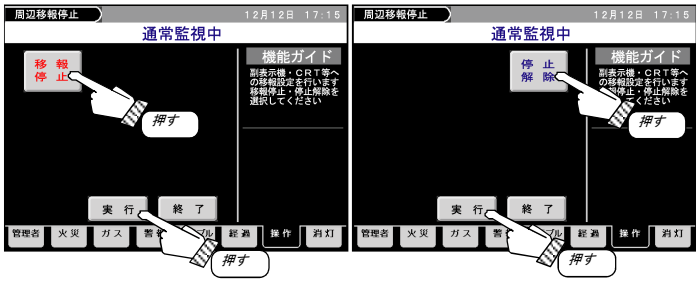
・副表示機、防災CRT等へ火災の発報信号等の移報停止、停止解除を行います。
※受信機の起動時は、すべて停止状態で起動します。



① 「操作」を押してください。



② 「周辺機器移報停止」を押してください。
（移報停止のときボタンは赤色です。）



③ 以下のボタンを押し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

・周辺機器への移報を停止させるとき、「移報停止」を押してください。

・周辺機器への移報停止を解除させるとき、「停止解除」を押してください。

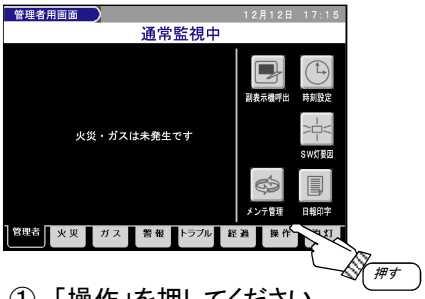
※火災発生時に、火災断定スイッチを押すと移報停止は解除されます。

メモ

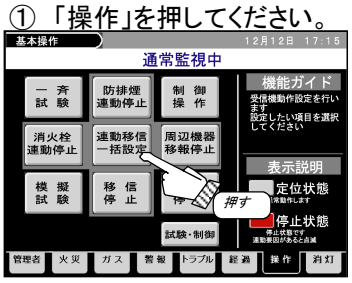
・移報停止中に移報信号が発生しても、ボタンは点滅しません。

連動移信一括設定
防排煙・移信・消火栓・移報の一括停止、一括停止解除を行うとき

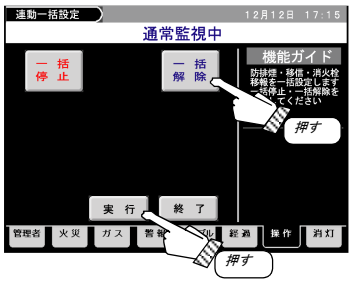
防排煙連動停止・移信停止・消火栓連動停止・周辺機器移報停止を一括して停止、停止解除を行います。
※受信機電源起動時は、一括停止状態で起動します。



① 「操作」を押してください。



② 「連動移信一括設定」を押してください。
（連動移信一括設定が停止のとき、防排煙連動停止・移信停止・消火栓連動停止・周辺機器移報停止ボタンは赤色です。）



③ 以下のボタンを押し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

・防排煙・移信・消火栓への連動および、周辺機器への移報を一斉に停止させるとき、「一括停止」を押してください。

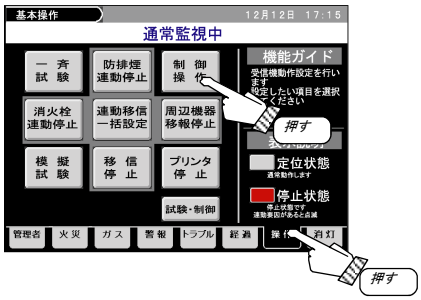
・防排煙・移信・消火栓への連動および、周辺機器への移報を一斉に解除させるとき、「一括解除」を押してください。

メモ

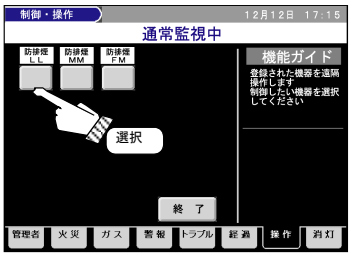
・移報停止中に諸警報等が発生し、移報信号を出力する状態となっても、ボタンは点滅しません。

制御操作
登録した防排煙機器の遠隔制御操作を行うとき

・連動テーブルにて登録された防排煙機器（最大15端末）に対して遠隔制御を行います。



① 「操作」を押してください。
② 「制御操作」を押してください。



③ 遠隔制御操作を行いたい端末を選択すると、ボタンが紫色に変わります。

④ 「作動制御」または「復帰制御」を押してください。防排煙機器へ制御出力します。

メモ

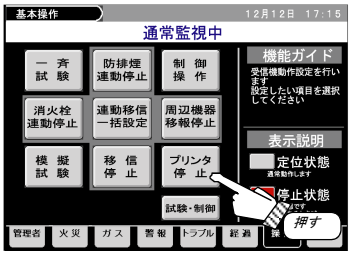
・連動停止中であっても、作動制御・復帰制御します。

・一旦出力した防排煙への制御は、防排煙連動停止操作しても制御出力は停止しません。（復旧スイッチを押して制御出力を停止させてください。）

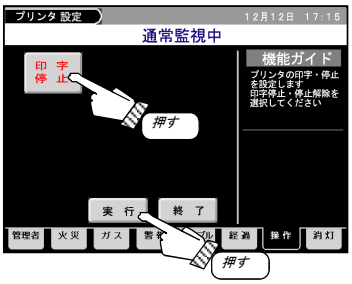
プリンタ停止
プリンタの印字停止、停止解除を行うとき

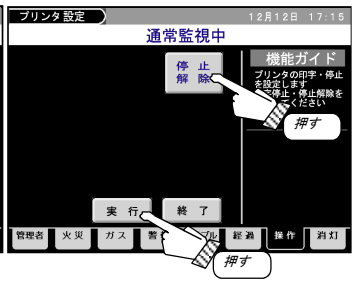
・プリンタ印字の停止、停止解除を行います。

① 「操作」を押してください。



② 「プリンタ停止」を押してください。（印字停止のときボタンは赤色です。）





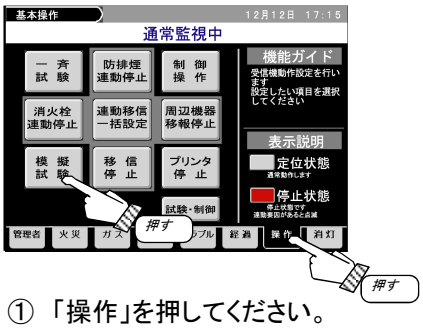
③ 以下のボタンを押し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

・プリンタの印字を停止にさせる場合は、「印字停止」を押してください。

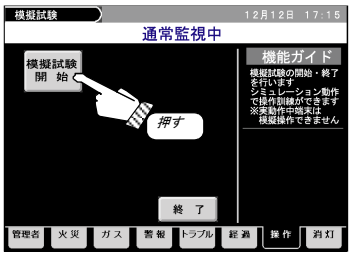
・プリンタの印字停止を解除させる場合は、「停止解除」を押してください。

模擬試験（シミュレーション機能）
受信機の操作訓練を行うとき
模擬試験の開始・終了を行うとき

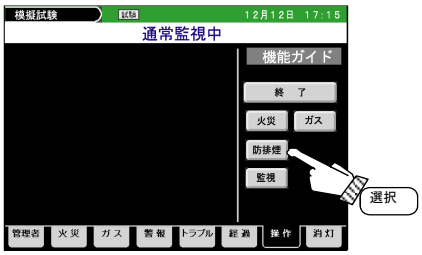
模擬試験（シミュレーション機能）は、火災発生・ガス漏れ警報・防排煙作動・諸警報作動を模擬作動させ、表示や動作、処置の操作訓練ができます。



① 「操作」を押してください。
② 「模擬試験」を押してください。



③ 「模擬試験開始」を押してください。
※模擬試験中は、「模擬試験終了」も表示します。
　模擬試験中は、画面上部が緑色に変化します。



④ 下記ボタンを選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

・模擬火災試験
　「火災」選択→「自火報」選択→「棟・階・地区」入力→模擬発報レベルを選択しください。
・模擬ガス漏れ警報試験
　「ガス」選択→「ガス中継器」選択→「棟・階・地区」入力→模擬発報レベルを選択してください。
・模擬防排煙作動
　「防排煙」選択→対象の種別を選択→「棟・階・地区」入力→模擬動作を選択してください。
・模擬諸警報作動
　「監視」選択→対象の種別を選択→「棟・階・地区」入力→模擬動作を選択してください。

＜模擬試験について＞

・模擬試験（シミュレーション機能）により模擬操作訓練が行えます。
・実際の火災のように、受信機の表示部に火災発生場所を表示し、主音響を鳴動させます。
　また、防排煙機器へ模擬的な制御操作と動作確認も行うことができ、物件ごとの連動テーブルに応じたシミュレーションができます。
・受信機単体での操作訓練の他、防災CRTでも訓練が行えます。

＜模擬試験中の操作について＞

注　模擬試験中でも下記の操作は、実際の操作として動作しますのでご注意ください。

・副表示機呼出	・時刻設定
・メンテ管理	・日報印字
・プリンタ停止	・音響停止
・属性表示	・現状履歴
・感度表示	・期間履歴
・画面印字	・電話
・トラブル内容	・点検スイッチ

注

・地区音響強制停止中、点検時音響停止中、受信機代行処理中は模擬試験を開始できません。

・模擬試験中は、画面消灯できません。

・模擬試験では実端末の連動動作は行われません。

・模擬試験は、平常時の受信機状態になってから実施してください。
（試験中は、分散処理盤およびFRコントローラの接続処理を行いません。
試験終了後に起動および接続を行ってください。）

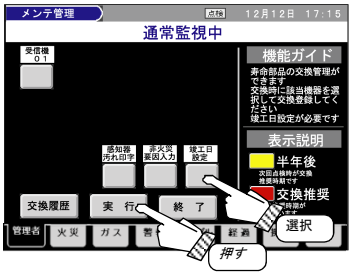
（模擬試験については、「12-5. 模擬試験について」を参照ください。）

点検

竣工日設定を行うとき（引渡し時に設定してください）

施工終了後、引渡し時に日付設定をしてください。
この設定日付により、交換推奨時期の自動計算を始めます。
（設定されていない場合、交換推奨時期は＊＊と表示します。）

① 「管理者」を押してください。
② 「メンテ管理」を押してください。



③ 「竣工日設定」を選択し、
「実行」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、
「竣工日設定」を表示しません。
点検スイッチを『点検』側へ切替えてから
実施してください。）

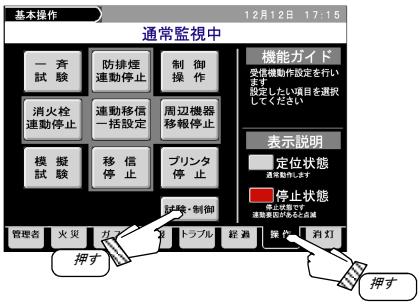
④ 「年→月→日」の順に設定します。
紫枠・赤数字の箇所が変更できます。
サブ表示部の数字ボタンを押し設定を変更します。
「実行」を押すと変更を確定し、次へ順送りします。

・日の設定において「実行」を押すと、
変更が反映されます。
年・月の変更で「終了」した場合、変更は
反映されず③の画面に戻ります。

メモ

・竣工日は、1度設定された後も変更できます。

蓄積解除
火災の蓄積機能を解除するとき



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。

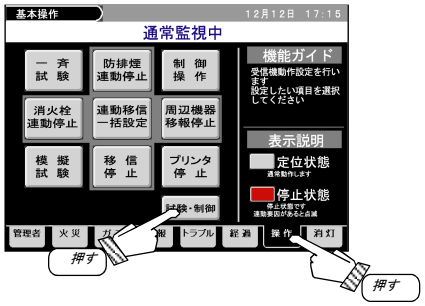
③ 「蓄積解除」を選択し、「実行」を押してください。
蓄積解除に設定されます。

・ボタンが灰色の時：蓄積状態です。

・ボタンが赤色の時：蓄積解除状態です。
・スイッチ注意灯点滅要因です。
・全ての感知器の蓄積設定を解除し、
非蓄積で火災判定します。

※復旧処理中（警戒中灯消灯中）は操作
できません。

遅延解除
ガスの遅延機能を解除するとき



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。

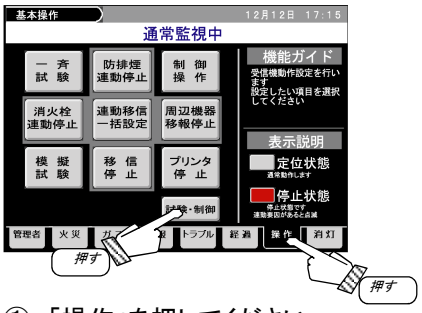
③ 「遅延解除」を選択し、「実行」を押してください。
遅延解除に設定されます。

・ボタンが灰色の時：遅延状態です。

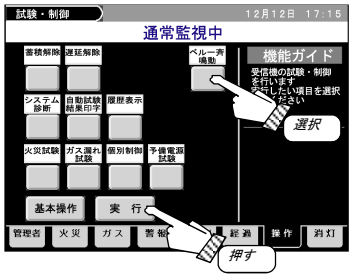
・ボタンが赤色の時：遅延解除状態です。
・スイッチ注意灯点滅要因です。
・全てのガス中継器の遅延設定を解除し、
非遅延でガス漏れ判定します。

※復旧処理中（警戒中灯消灯中）は操作
できません。

ベル（地区音響）一斉鳴動
ベル（地区音響）を一斉に鳴動させるとき



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。



③ 「ベル一斉鳴動」を選択し、
　「実行」を押してください。

・連動テーブルに登録されているベル（地区音響）を
　一斉に鳴動させます。

※ベル（地区音響）一時停止中でも、地区音響は
　一斉鳴動します。
　地区音響強制停止中では鳴動しません。

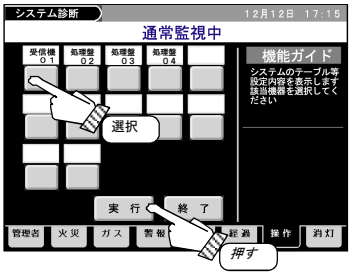
＜一斉鳴動させたベル（地区音響）の停止方法＞

一斉鳴動・個別制御で鳴動したベル（地区音響）は、
以下の操作により鳴動停止します。
・「復旧スイッチ」を押す
・「ベル（地区音響）一時停止スイッチ」を押す
・「地区音響強制停止スイッチ」を押す

システム診断
システムの連動テーブル等設定内容を表示するとき

① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。

③ 「システム診断」を選択し、「実行」を押してください。



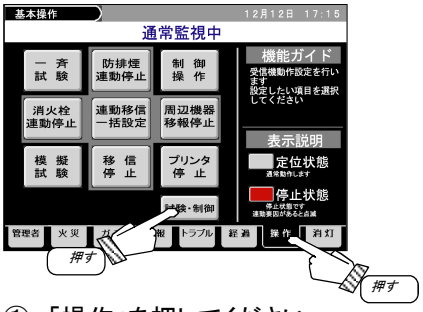
④ 受信機または処理盤を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

・システム診断表示をします。
　・各ユニットに登録されている連動テーブルVer（白色表示）

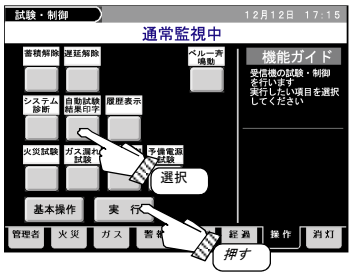
メモ

連動テーブルVerは、件名固有の8文字のコードと連動テーブルの改版番号2文字にて表示されます。
例： F4HCMACC－04

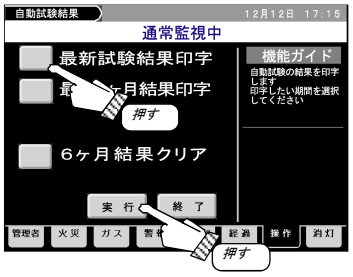
自動試験結果印字
自動試験の結果を印字するとき
6ヶ月結果をクリアするとき



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。



③ 「自動試験結果印字」を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。



④ 結果印字する項目のボタンを押し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

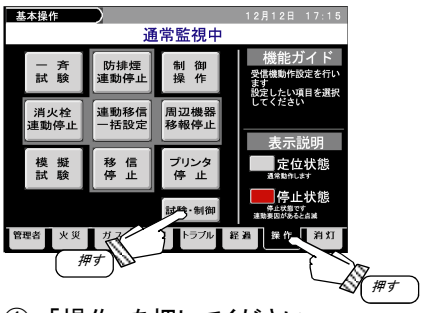
・プリンタ印字が開始します。
・プリンタ印字を中断するとき、「中断」を押してください。
・6ヶ月結果クリアを選択し、「実行」を押すと、結果がクリアされ自動試験結果消去の印字をします。

（自動試験については、「12-6. 自動試験について」を参照ください。）

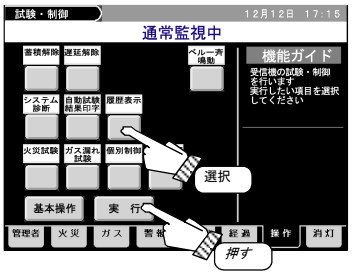
メモ

・プリンタ停止状態では、印字しません。

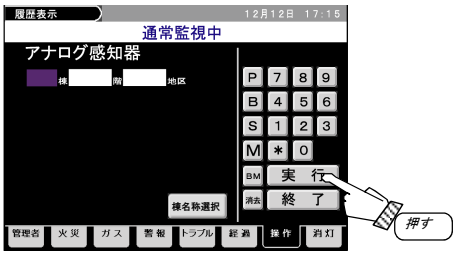
履歴表示
アナログ感知器の履歴データを確認するとき



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。



③ 「履歴表示」を選択し、
「実行」を押してください。

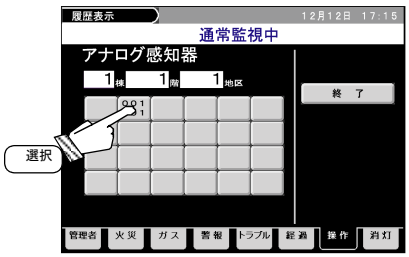


④ 棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。(「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。)

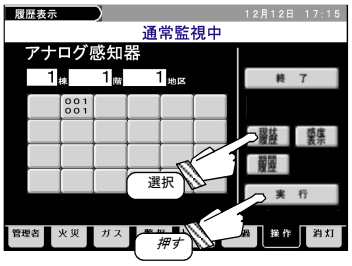
・地区の入力に数字を入力すると、
　設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
・地区の入力に「＊」を入力すると、
　設定した棟・階の端末が表示されます。

メモ

期間履歴は、30日分のアナロググラフを表示します。受信機電源を切ったり、連動テーブルを変更することで過去データを消去します。



⑤ 感知器を選択してください。



⑥ 「現状履歴」、「期間履歴」、「感度表示」の確認する項目を選択し、「実行」を押してください。

(現状履歴、期間履歴、感度表示については、45、46ページの「火災詳細情報の確認」を参照ください。)

※感知器の選択ボタンの内容

001 002	選択された　棟　階　の ←上段:　地区　(例:001地区) ←下段:　番　(例:002番)

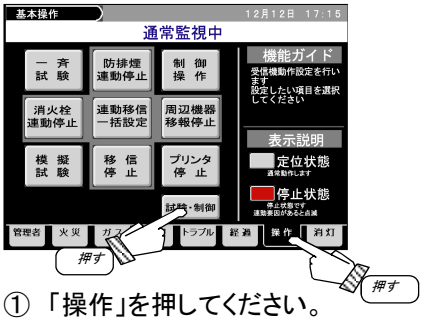
番表示が無い場合下段の表示は000となります。

001 000	選択された　棟　階　の ←上段:　地区　(例:001地区) ←下段:　番　(例:番無し)

火災試験（1／2）
感知器の遠隔発報試験を行うとき

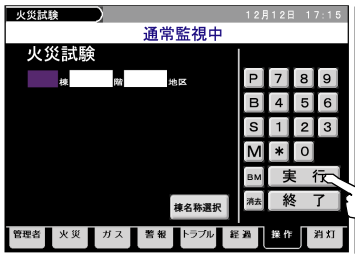
（注）連動テーブルに登録されている機器が連動動作します。

受信機から感知器を選択し、遠隔発報を行い、感知器・中継器状態・配線状態を確認します。



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。

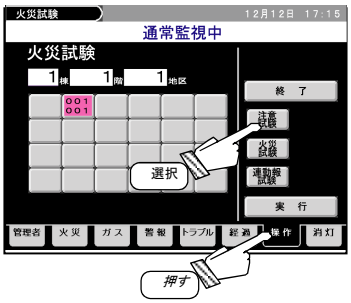
③ 「火災試験」を選択し、「実行」を押してください。



④ 棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。（「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。）

・地区の入力に数字を入力すると、設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
・地区の入力に「＊」を入力すると、設定した棟・階の端末が表示されます。

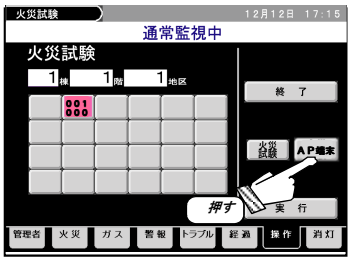
【RX感知器、中継器回線（P型自動試験中継器、アドレスアダプタ、一般R型中継器）の火災試験を行う場合】



⑤ RX感知器または中継器を選択してください。
⑥ 「注意試験（※1）」、「火災試験」、「連動報試験(※2)」の内、試験する項目を選択し、「実行」を押すと試験を開始します。

（※1）：RXアナログ感知器の場合のみ
（※2）：RXアナログ感知器、RX2信号感知器の場合のみ

【PX端末の火災試験を行なう場合】



⑤ 試験するPX端末が接続されているP型自動試験中継器回線の棟・階・地区番号を選択してください。
⑥ 「AP端末」を選択し、「実行」を押してください。

（※「火災試験」を選択し、「実行」を押すと、P型自動試験中継器回線の火災試験を開始します。）

⑦ PX端末を選択してください。
⑧ 「火災試験」を選択し、「実行」を押すと、PX端末の火災試験を開始します。

（注）PX発信機の「火災試験」を行った場合、試験発報しますが、発信機発報にはなりません。（PX発信機からの発信機応答入力がONしません。）

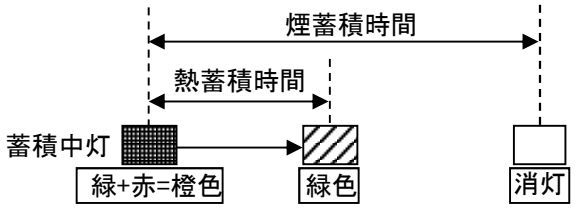
火災試験（2／2）
感知器の遠隔発報試験を行うとき
（注）連動テーブルに登録されている機器が連動動作します。

＜蓄積時間の測定について＞

火災試験は、受信機から、感知器を選択し、遠隔発報を行い、感知器・中継器状態・配線状態を確認します。
蓄積時間の測定は蓄積中灯の点灯時間となります。

・アドレスアダプタ、一般R型中継器、P型自動試験中継器、PX端末の蓄積時間測定では煙感知器蓄積時間を緑色で、熱感知器蓄積時間を赤色で表示します。したがって、煙と熱の両方の蓄積時間を兼ねている蓄積開始後の期間は蓄積中灯が橙色の表示となります。

蓄積時間測定は、以下のタイミングで行ってください。



＜火災試験不可条件＞

以下の状態の場合は、火災試験を開始できません。
・注意表示、火災発報中（蓄積含む）
・ガス漏れ警報、発生中
・模擬試験中
・試験復旧中および試験復旧終了操作後30秒間
・EF連携付き防排煙・監視信号入信中
（連動テーブルによります。）

＜火災試験中断条件＞

以下の状態の場合は、火災試験を中断します。
・注意表示、火災発報（蓄積含む）
・ガス漏れ警報、発生
・EF連携付き防排煙・監視信号入信中
（連動テーブルによります。）
・復旧スイッチを押す。

（注）火災試験は、警戒中灯の点灯と受信機、分散処理盤の起動状態を確認後開始してください。（試験中は、分散処理盤およびRXコントローラの接続処理を行いません。試験中断後に起動および接続を行ってください。）

（火災試験については、「12-3. 火災試験について」を参照ください。）

※感知器の選択ボタンの内容

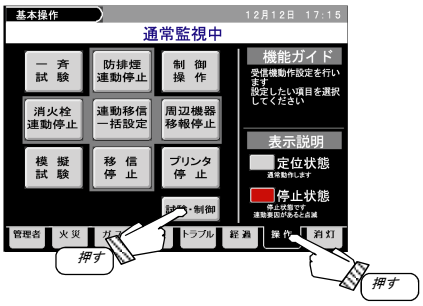
選択された 棟 階 の
←上段: 地区 （例:001地区）
←下段: 番 （例:002番）
番表示が000の場合は番番号無し

メモ

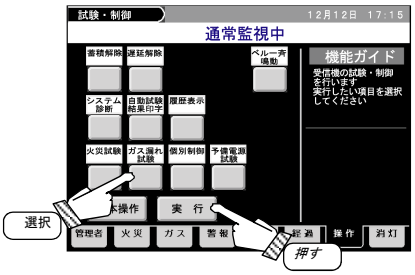
・火災試験で発生した試験発報を復旧させる場合、復旧スイッチを押してください。
（全端末の復旧を行います。）
・試験画面から火災画面等に切替えると、試験モードが終了しますので、試験履歴の確認は、経過画面にて行ってください。
・火災断定スイッチは操作できません。

ガス漏れ試験
ガス漏れ中継器の遠隔試験を行うとき
(注) 連動テーブルに登録されている機器が連動動作します。

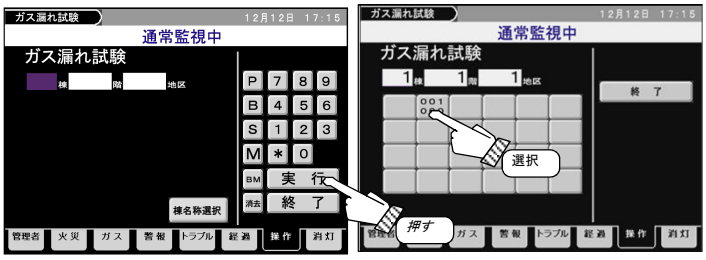
受信機から、ガス漏れ中継器を選択し遠隔発報を行い、中継器状態・配線状態を確認します。
遅延時間が測定できます。



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。

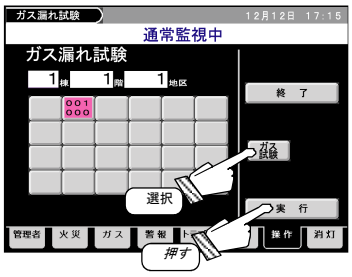


③ 「ガス漏れ試験」を選択し、「実行」を押してください。



④ 棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。(「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。)

・地区の入力に数字を入力すると、設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
・地区の入力に「＊」を入力すると、設定した棟・階の端末が表示されます。

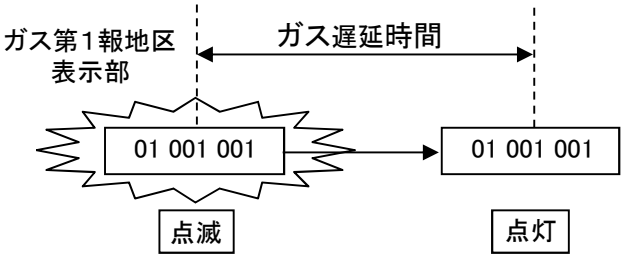


⑤ ガス漏れ回線(地区)を選択してください。

⑥ 「ガス試験」を選択し、「実行」を押すと試験を開始します。

＜遅延時間の測定について＞

遅延時間の測定はガス第1報地区表示部の点滅時間となります。



＜ガス漏れ試験不可条件＞

以下の状態の場合は、ガス漏れ試験を開始できません。
・注意表示、火災発報中(蓄積含む)
・ガス漏れ警報、発生中
・模擬試験中、試験復旧中
・EF連携付き防排煙・監視信号入信中
(連動テーブルによります。)

＜ガス漏れ試験中断条件＞

以下の状態の場合は、ガス漏れ試験を中断します。
・注意表示、火災発報(蓄積含む)
・ガス漏れ警報、発生
・EF連携付き防排煙・監視信号入信中
(連動テーブルによります。)
・復旧スイッチを押す。

(注) ガス漏れ試験は、警戒中灯の点灯と受信機、分散処理盤の起動状態を確認後開始してください。
(試験中は、分散処理盤およびRXコントローラの接続処理を行いません。試験中断後に起動および接続を行ってください。)

(ガス漏れ試験については、「12-4. ガス漏れ試験について」を参照ください。)

※中継器の選択ボタンの内容

001
000

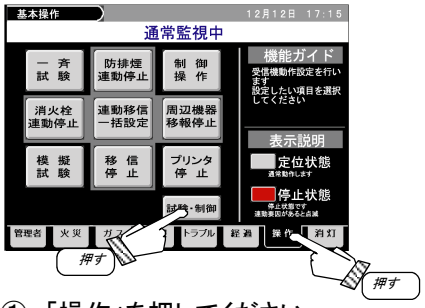
選択された　棟　階　の
←上段:　地区　(例:001地区)
←下段:　番　(例:番号無し)
番表示が000の場合は番番号無し

メモ

ガス漏れ試験は、試験画面を切替えると、試験が終了しますので、試験履歴の確認は、経過画面にて行ってください。

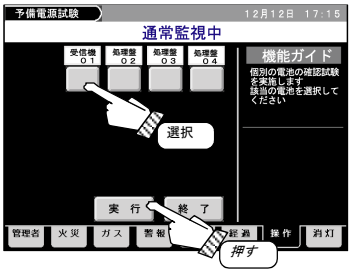
予備電源試験
個々の予備電源の電圧を確認するとき

受信機、分散処理盤に接続されている予備電源を指定して、連続放電試験を実施し、個々の予備電源の電圧を確認します。



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。

③ 「予備電源試験」を選択し、
「実行」を押してください。

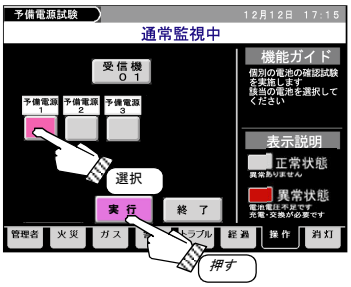


④ 機器を選択し、「実行」を押してください。

メモ

・試験結果は、画面を切替えた時の最新結果を表示します。
・他の試験中は予備電源試験は行えません。
・予備電源試験は5秒以上実施してください。
　正しい結果が得られないことがあります。
・10分間液晶表示部を操作しなかった場合、
　液晶表示部が消灯し試験が終了します。

＜予備電源試験の開始不可条件および中断条件＞
・火災・注意表示（蓄積中も含む）
・ガス漏れ発生　（遅延中も含む）
・交流電源断中
・試験復旧中
・復旧スイッチを押した時
・予備電源異常発生中
・予備電源試験画面を切替えた時
・EF連携付き防排煙・監視信号入信中
（連動テーブルによります。）



⑤ 予備電源を選択し、「実行」を押してください。

・予備電源試験が開始します。
　予備電源試験開始をプリンタ印字します。
　試験中は選択した予備電源ボタンが紫点滅し、
　「試験終了」ボタンが表示されます。
　予備電源試験開始から5秒以上経過後に「試験終了」を押し試験を終了します。
　（※ 「実行」を押しても予備電源試験が開始されない場合は、予備電源試験の開始不可条件が発生していないかを確認してください。）

・試験終了時、液晶表示部のボタンに結果表示とプリンタ印字を行います。

＜予備電源試験について＞
（試験結果）
　液晶表示部のボタンに試験結果表示します。
　試験結果をプリンタ印字します。

・予備電源試験不良
　「予備電源」ボタンが赤色表示　：電圧が異常状態です。
　「受信機01」が赤色表示　：予備電源切替機能が異常です。
・予備電源試験良
　ボタンが灰色表示：予備電源電圧は正常状態です。

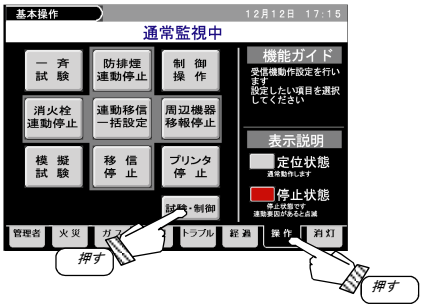
（予備電源試験不良状態から正常復旧後に、
　予備電源試験を実行すると表示は不良（赤色）から
　正常（灰色）に変化します。）

・試験中断
　試験中に中断条件が発生しました。

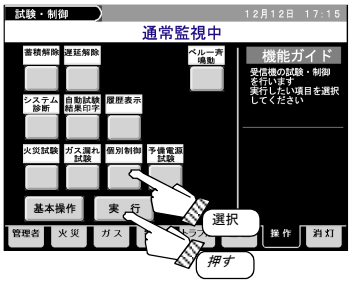
（注） 予備電源試験は、警戒中灯が点灯してから実施してください。
　正しい動作ができない場合があります。

（予備電源試験については、「12-2. 予備電源試験
電源試験について」を参照ください。）

個別制御
機器の遠隔操作を行うとき



① 「操作」を押してください。
② 「試験・制御」を押してください。



③ 「個別制御」を選択し、「実行」を押してください。

④ 種別を選択してください。

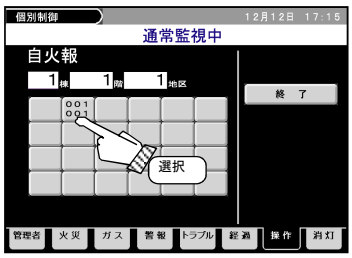
・「火災」のとき
　自火報の連動印字や属性表示の確認ができます。
・「ガス」のとき
　ガス中継器の連動印字や属性表示の確認ができます。
・「防排煙」のとき
　種別選択で対象の種別を選択し、連動印字や
　属性表示の確認と、遠隔制御、復帰ができます。
・「移信」のとき
　種別選択で対象の種別を選択し、移信出力の
　遠隔制御や属性表示の確認ができます。
・「監視」のとき
　種別選択で対象の種別を選択し、連動印字や
　属性表示の確認ができます。
・「ベルその他」のとき
　地区音響の遠隔制御や属性表示の確認ができます。
　消火栓の遠隔制御や属性表示の確認ができます。
　アイソレータの遠隔制御や属性表示の確認ができます。

・下記説明画面は「自火報」アナログ感知器を
　選択時の表示例です。
・サブ表示部に表示される内容は、種別等により
　異なります。

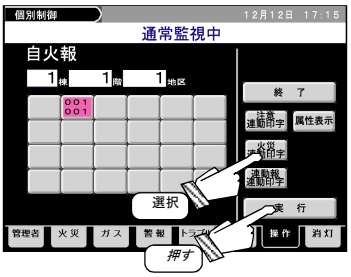
＜例＞

⑤ 棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。（「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。）

・地区の入力に数字を入力すると、
　設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
・地区の入力に「＊」を入力すると、
　設定した棟・階の端末が表示されます。



⑥ 感知器を選択してください。

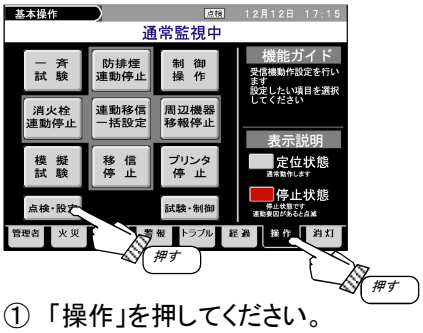


⑦ 「注意連動印字」、「火災連動印字」、
「連動報連動印字」、「属性表示」の
確認する項目を選択し、
「実行」を押してください。

点検時音響停止
点検時音響停止の設定・解除を行うとき

点検

点検時に受信機音響を鳴動させないようにするときに、設定します。



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

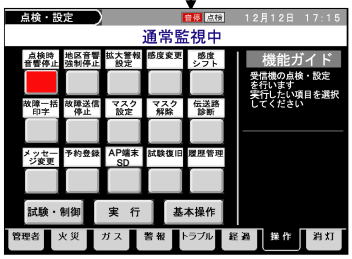
③ 「点検時音響停止」を選択し、「実行」を押してください。

・停止設定と停止解除（平常時の状態）設定が切替わります。

・ボタンが灰色の時：点検時音響停止解除状態です。

・ボタンが赤色の時：点検時音響停止状態です。
・警戒中灯は消灯します。
・火災主音響、注意表示音響、ガス漏れ音響、作動音響、トラブル音響が停止します。

メモ
・点検時音響停止のときは「音停」を表示します。



地区音響強制停止
地区音響強制停止の設定・解除を行うとき

点検

地区音響の鳴動を強制的に鳴動停止状態にするときに、設定します。

① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

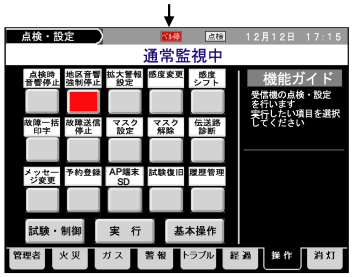
③ 「地区音響強制停止」を選択し、「実行」を押してください。

・強制停止設定と停止解除（平常時の状態）設定が切替わります。

・ボタンが灰色の時：地区音響強制停止解除状態です。

・ボタンが赤色の時：地区音響強制停止状態です。
・地区音響強制停止灯が点滅します。
・警報音が1分毎に鳴動します。
・ベル（地区音響）一時停止スイッチの状態に関係なく、鳴動が停止します。

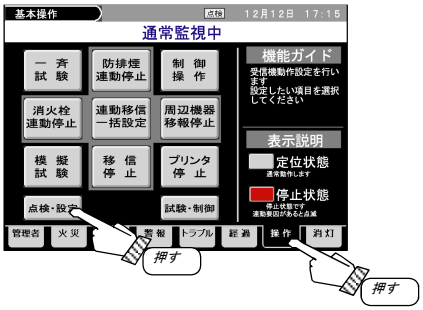
メモ
・地区音響強制停止のときは「ベル停」を表示します。



拡大警報設定
拡大警報の設定時間を変更するとき

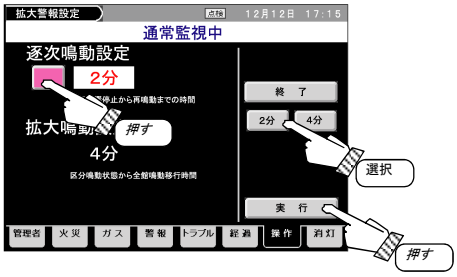
点検

逐次鳴動設定時間を変更するとき
拡大鳴動設定時間を変更するとき



① 「操作」を押してください。
② 「点検･設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検･設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

③ 「拡大警報設定」を選択し、「実行」を押してください。



④ 逐次鳴動設定ボタンまたは、拡大鳴動設定ボタンを押してください。
ボタンが紫色に変わった後、サブ表示部に設定可能な時間ボタンが表示されます。
⑤ サブ表示部の設定時間を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。
・メイン表示部の設定時間に反映されます。

＜拡大警報について＞

地区音響一時停止による地区音響鳴動停止を一定時間後に自動解除する。また、火災発生後一定時間経過後に地区音響を一斉鳴動させる。

・逐次鳴動設定
地区音響一時停止による地区音響鳴動停止を自動解除するまでの時間が設定できます。
「2分」、「4分」、「6分」、「8分」から選択してください。

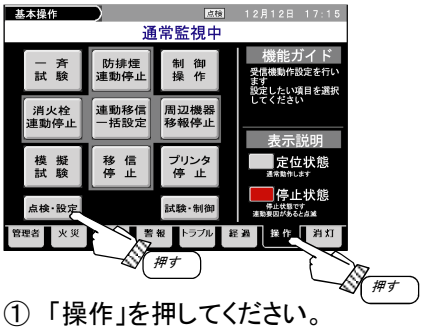
・拡大鳴動設定
地区音響を個別鳴動から一斉鳴動に自動で切替わる時間が設定できます。
「4分」、「6分」、「8分」、「10分」から選択してください。
「OFF」を選択すると一斉鳴動に切り替わらない設定ができます。

注　・逐次鳴動設定時間は拡大鳴動設定時間より長い時間設定はできません。

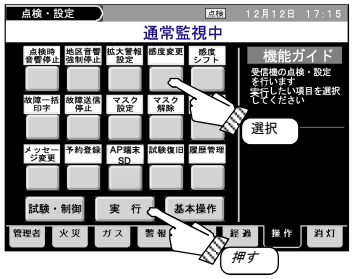
感度変更
アナログ感知器の感度を変更するとき、感度変更を解除するとき

点検

アナログ感知器の感度を高感度、低感度への変更ができます。（感度変更中灯が点滅します。）



① 「操作」を押してください。
② 「点検･設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検･設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）



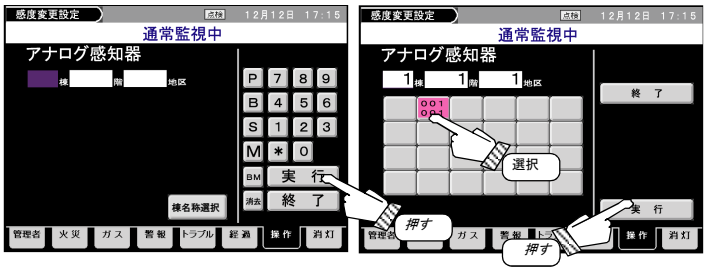
③ 「感度変更」を選択し、「実行」を押してください。

④ 感度変更登録の横にあるボタンまたは、感度変更解除の横にあるボタンを押し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

メモ

- 感度変更、感度変更解除を行えるのは、アナログ感知器のみで全点変更できます。
- 受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源もはずした状態）にしても、変更登録、変更解除の状態を残しておく場合、「登録」後または解除の「実行」後、復旧スイッチを押してください。
- 連動テーブルを入れ替えると、感度変更情報はクリアされます。
- 自動試験実施中には感度変更、感度変更解除を行わないでください。（火災試験不良が発生する場合があります。）

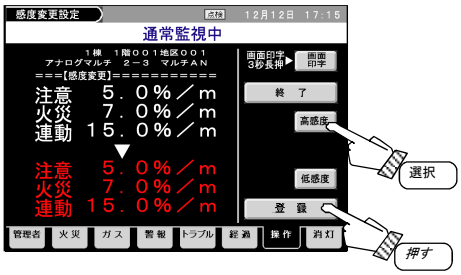
＜感度変更登録のとき＞



⑤ 感度変更する感知器を入力します。
棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。（「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。）

- 地区の入力に数字を入力すると、設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
- 地区の入力に「＊」を入力すると、設定した棟・階の端末が表示されます。

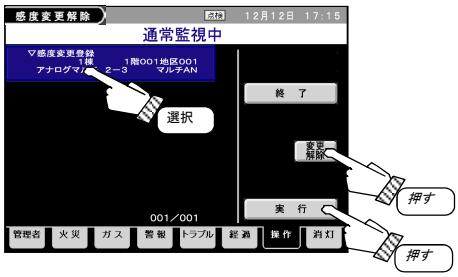
⑥ 感知器を選択し、「実行」を押してください。



⑦ 「高感度」または「低感度」を押すとメイン表示部の赤表示の感度が順次切替わります。感度を選択し、「登録」を押してください。

- 感度変更登録時
  - 感度変更中灯が点滅します。
  - 感度変更登録をプリンタに印字します。

＜感度変更解除のとき＞



⑤感度変更された端末を選択し、サブ表示部の「変更解除」を押します。
その後「実行」を押してください。

- 感度変更解除時
  - 感度変更中灯が消灯します。
  - 感度変更解除をプリンタに印字します。

感度シフト
アナログ感知器の発報感度のシフト入力を有効にするとき

点検

建物内に人がいない時間に火災検知感度を高感度に移行して早期火災検知を行うモードを設定することができます。

① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

③ 「感度シフト」を選択し、「実行」を押してください。
・感度シフト設定と通常感度設定が切替わります。
　・ボタンが灰色の時：感度シフト無効状態です。
　・ボタンが赤色の時：感度シフト有効状態です。

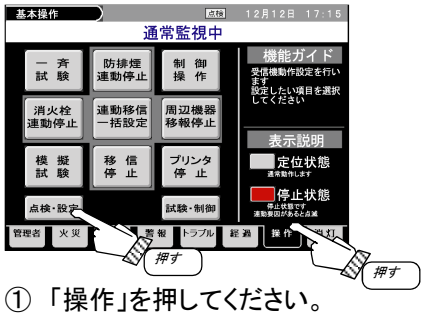
＜感度シフトについて＞
（連動テーブルによる登録が必要です。）
感度設定は、以下の3レベルの設定ができます。
（感度シフトは、アナログ感知器のみ有効です。）
・通常感度　　：非火災報を軽減した感度設定です。
・高感度1 ┐　早期火災検知を優先した感度設定を
・高感度2 ┘　2種類まで登録できます。
感度シフトの開始、終了は他設備からの日付情報や時間情報の監視信号の入力をトリガとして設定できます。
ただし、自動試験実施中の時間帯に感度シフトの開始、終了が行なわれないように設定してください。
（火災試験不良が発生する場合があります。）

メモ
・感度シフトボタンが有効設定の場合には、連動テーブルに登録している監視信号の入力により、該当の感知器の感度が変化し、感度変更中灯が点滅します。
（感度シフトボタンが無効の場合には、監視信号が入力されても感度シフトは行いません。）

伝送路診断
システムの伝送路および受信機、分散処理盤のユニット状態を確認するとき

点検

受信機、分散処理盤内の伝送ユニットと伝送路の状態を確認することができます。



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

③ 「伝送路診断」を選択し、「実行」を押してください。

④ 「伝送路確認」（A側、B側の接続状態確認）を選択し、「実行」を操作してください。
（A側へ切替の場合、「A側切替」を選択してください。）
（B側へ切替の場合、「B側切替」を選択してください。）

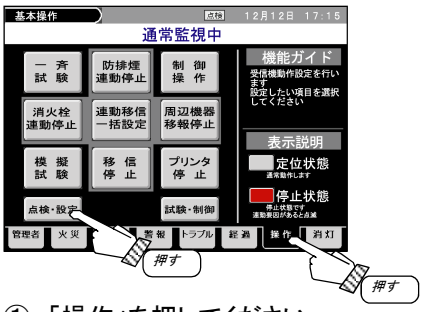
＜状態表示について＞
A側運用中／B側運用中（現状幹線状態を表示）
・正　常：伝送ユニットは正常に動作中です。
・異　常：伝送ユニットが起動していません。
・＊＊＊：伝送ユニットと情報交換中です。
・－－－：伝送ユニットと情報交換未実施状態です。
・分散連停：ON　停止中　／OFF　定位状態

メモ
・受信機、分散処理盤内の伝送ユニットが複数ある場合、情報交換が複数回実施されるため、「＊＊＊」が複数回表示する場合があります。
・切替処理中は、連続操作ができません。
（選択スイッチが消去します。）

故障送信停止
発生中の故障内容のみマスクするとき

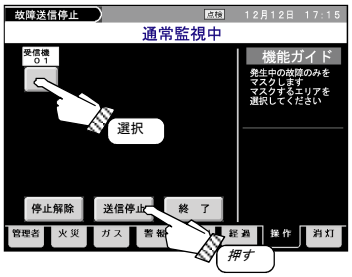
点検

施工中に発生するトラブル表示を一時的に消去し
トラブルの対応をしやすくします。
発生中のトラブルのみ一時的に消去できます。
（スイッチ注意灯が点滅します。）



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」
ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えて
から実施してください。）

③ 「故障送信停止」を選択し、
「実行」を押してください。



④ 故障送信停止する機器を選択してください。
その後「送信停止」または「停止解除」を
押してください。

・ボタンが灰色の時：通常（停止解除）状態です。
・ボタンが赤色の時：故障送信停止状態です。

メモ
・故障送信停止は、受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源もはずした状態）にするとスイッチ状態をクリアします。
・発生表示中のトラブルのみ表示消去します。
（新規発生トラブルは表示します。）
・故障送信停止対象のトラブルは、故障復旧後再度発生しても停止中は表示しません。

（注）故障送信停止状態での運用はしないでください。

＜故障送信停止について＞

マスク設定機能との相違点について
・いずれもトラブルの表示を消去しますが、
故障送信停止の場合、表示を消去している
トラブル内容を故障一括印字にて確認できます。
また、端末からの作動、発報内容の検出は行います。
・マスク設定の場合、マスク端末の故障内容は、
故障一括印字操作でも印字しませんし、
マスク端末からの作動、発報内容も検出しません。

	故障送信停止	マスク設定
作動・発報表示	表示する	表示しない
故障表示	表示しない	表示しない
故障一括印字	印字する	印字しない

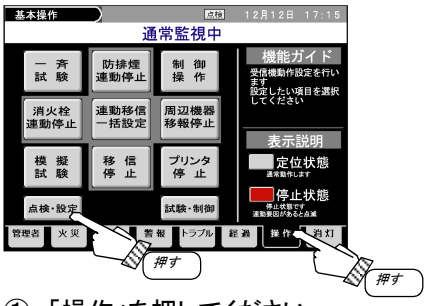
故障送信停止での表示消去対象外トラブル
・プリンタ異常
・交流電源断
・主回路電圧異常
・電源FAN異常
・予備電源異常
・予備電源試験不良
・外部電源異常
・外部電源試験不良
・伝送路A異常
・伝送路B異常
・分散処理盤異常
・処理盤動作不能
・メモリ異常
・伝送不良（予約）
・余分接続（予約）
・諸警報（トラブル設定）
・伝送CPU異常
・PX端末関連トラブル（感知器異常等）

電源等システム全体への影響が懸念されるトラブルは
故障送信停止で表示・消去を行いません。

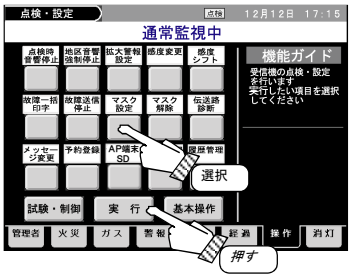
マスク設定
施工時に不要な端末を一時的にマスク（システム対象外）するとき

点検

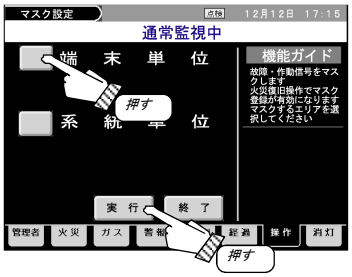
登録端末のトラブルや作動入力がマスクできます。
登録端末は動作しませんのでご注意ください。
（スイッチ注意灯が点滅します。）
（登録完了後、画面右上に□ が表示されます。）



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）



③ 「マスク設定」を選択し、「実行」を押してください。

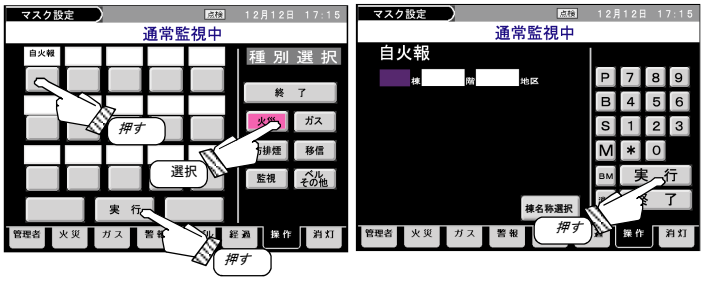


④ 端末単位または、系統単位の横にあるボタンを押してください。
その後、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

メモ
- 受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源もはずした状態）にしても、マスクの状態は保持されます。
- 連動テーブルを入れ替えるとマスク状態はクリアされます。
- 伝送不良（予約）、余分接続（予約）、PX端末関連トラブル（感知器異常等）、伝送CPU異常はマスク対象外です。
- マスクは全点登録できます。
（但し、予約登録種別のRX感知器とPX端末はマスク登録できません。）

（注）マスク状態での運用はしないでください。

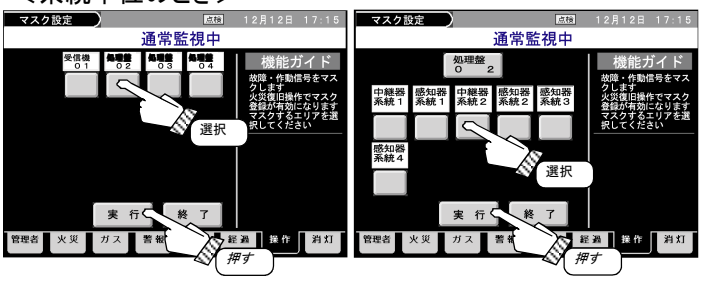
＜端末単位のとき＞



⑤ マスク登録する端末を入力します。
棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。（「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。）
- 地区の入力に数字を入力すると、設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
- 地区の入力に「＊」を入力すると、設定した棟・階の端末が表示されます。

⑥ 端末を選択し、「マスク設定」⇒「実行」の順に押してください。選択された端末が赤色に変色します。
⑦ 復旧スイッチを押してください。
マスク設定を有効にするには最後に必ず復旧スイッチを押してください。
（選択された端末が灰色に変色します。）

＜系統単位のとき＞



⑤ マスク登録する受信機または処理盤を選択し、「実行」を押してください。
⑥ 系統を選択し、「実行」を押してください。
選択された系統が、赤色点滅します。
⑦ 復旧スイッチを押してください。
復旧スイッチを押すとマスクが有効になり赤点灯します。
（処理盤名称のボタンを選択すると、分散処理盤全体のマスクが設定できます。）

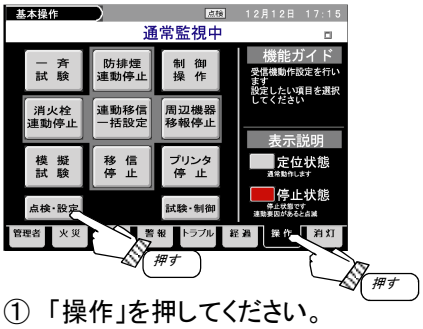
□ボタンが
- 赤色のとき：マスク設定中の状態です。
- 点滅のとき：マスク設定の操作を行い、復旧スイッチが押されていない状態です。
（設定が有効となっていない状態です。）
- 灰色のとき：マスク設定がされていない状態です。

メモ
- 復旧スイッチを押すまでマスク登録は有効になりません。
- 系統単位のマスク登録は、連動テーブル上の系統単位となります。

マスク解除
マスク設定を解除するとき

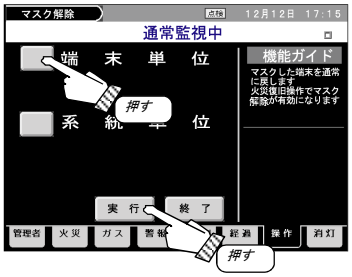
点検

マスク設定により登録した端末をマスク解除できます。



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

③ 「マスク解除」を選択し、「実行」を押してください。



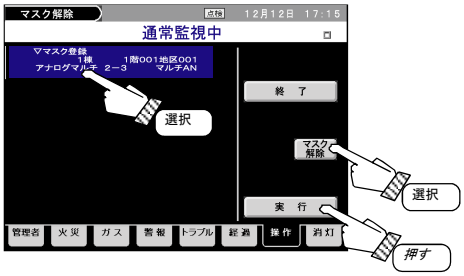
④ 端末単位または、系統単位の横にあるボタンを押してください。
その後、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

メモ

・受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源もはずした状態）にしても、マスクの状態は保持されます。
・連動テーブルを入れ替えるとマスク状態はクリアされます。

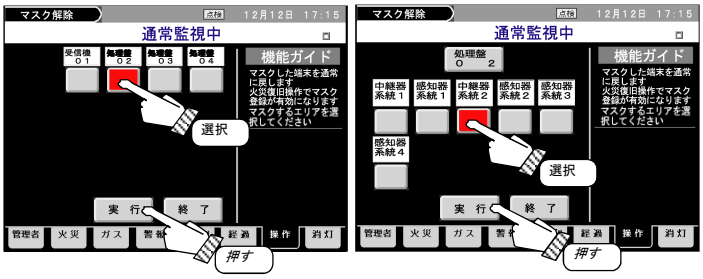
注 マスク状態での運用はしないでください。

＜端末単位の解除のとき＞



⑤ 解除するマスク登録を選択し、サブ表示部の「マスク解除」を選択後、「実行」を押してください。
・▽マスク登録が赤文字にかわります。
⑥ 復旧スイッチを押してください。
メイン表示部から消えマスク解除されます。

＜系統単位の解除のとき＞



⑤ 解除する受信機または処理盤を選択し、「実行」を押してください。
⑥ 解除する系統を選択し、「実行」を押してください。
・ボタンが赤点滅にかわります。
⑦ 復旧スイッチを押してください。
マスク設定が解除されボタンが灰色になります。
（処理盤名称のボタンを選択すると、分散処理盤全体のマスクが解除できます。）

ボタンが

・赤色のとき：マスク設定中の状態です。
・点滅のとき：マスク設定解除の操作を行い、復旧スイッチが押されていない状態です
（解除が有効となっていない状態です。）
・灰色のとき：マスク設定解除が有効となったとき、またはマスク設定がされていない状態です。

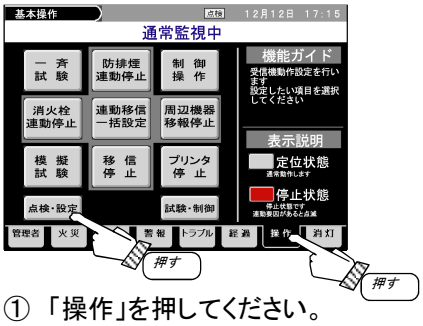
メモ

・復旧スイッチを押すまでマスク解除は有効になりません。

故障一括印字
発生中の故障内容を再印字するとき

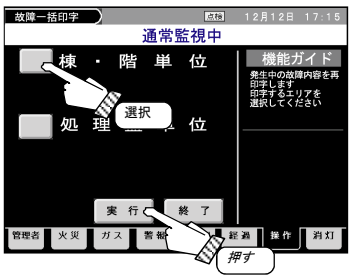
点検

現在発生しているトラブルについて、棟・階単位または処理盤単位で再印字ができます。



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

③ 「故障一括印字」を選択し、「実行」を押してください。



④ 棟・階単位または、処理盤単位の横にあるボタンを選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

メモ

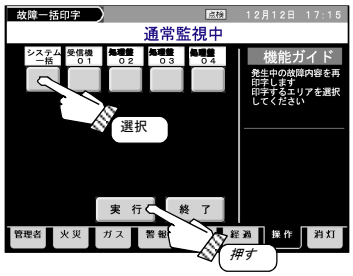
・一括印字中は他の一括印字はしません。
・一括印字は復旧スイッチ操作、プリンタ印字停止、画面遷移で中断できます。
・故障送信停止中のトラブルも印字対象となります。

＜棟・階単位のとき＞

⑤ 棟・階番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。（「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。）

階番号入力が完了した時点で、一括印字が開始します。

＜処理盤単位のとき＞



⑤ 「システム一括」か「受信機01」または「処理盤02」等を選択して「実行」を押してください。
一括印字が開始します。

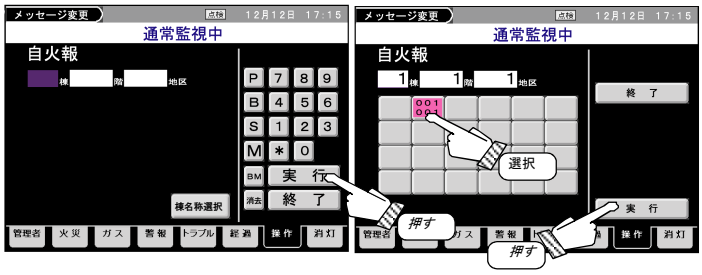
メッセージ変更（1／2）
RX端末のメッセージ内容を変更するとき

点検

連動テーブルで設定したRX端末に登録されている
メッセージ内容を変更できます。
（登録完了後、画面右上に□ が表示されます。）

① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」
ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えて
から実施してください。）

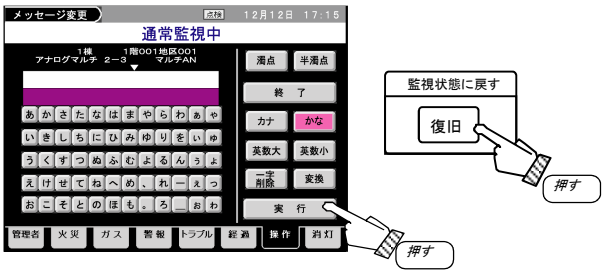
③ 「メッセージ変更」を選択し、
「実行」を押してください。



④ メッセージ変更するRX端末を入力します。
棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」
で入力します。（「棟名称選択」を押すと、棟名称
表示から棟番号を選択することができます。）

・地区の入力に数字を入力すると、
　設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
・地区の入力に「＊」を入力すると、
　設定した棟・階の端末が表示されます。

⑤ 変更するRX端末を選択し、「実行」を押してください。



⑥ 文字を入力し、実行ボタンにより確定します。
確定後は復旧スイッチを押してください。

※感知器の選択ボタンの内容

001
002

選択された　棟　階　の
←上段：　地区　（例：001地区）
←下段：　番　　（例：002番）

番表示が無い場合下段の表示は000と
なります。

001
000

選択された　棟　階　の
←上段：　地区　（例：001地区）
←下段：　番　　（例：番無し）

メモ

・復旧スイッチを押すまで変更内容は有効に
　なりません。
・受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源
　もはずした状態）にしても、変更内容は保持
　されます。
・連動テーブルを入れ替えるとRX端末の
　メッセージの変更内容はクリアされます。
　（連動テーブルに設定したメッセージが有効に
　　なります。）
・全RX端末のメッセージを変更できます。
・全RX端末のメッセージ変更データをSDカード
　に保存できます。
・P型自動試験中継器はRX端末です。
・メッセージ変更履歴は最新600件まで記録
　できます。（PX端末との合計）
・最大入力文字数は12文字です。
・ RX端末のメッセージ変更内容は、副表示機
　（1系統）には自動反映しますが、防災CRT
　のデータは別途変更が必要です。

（注）　受信機からの操作によりRX端末の
メッセージ変更を行った場合、必ず、
連動テーブルを入れ替える前に、RX端末
のメッセージ変更データをSDカードに
保存した後、連動テーブルに対して、
メッセージ変更内容を反映してください。

メッセージ変更（2／2）　点検
PX端末のメッセージ内容を受信機盤面で登録／変更するとき

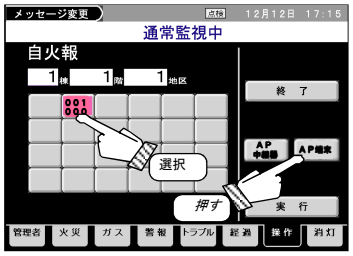
PX端末のメッセージ内容を登録／変更できます。
（PX端末のメッセージ登録／変更時は、連動テーブルの変更が不要であるため、画面右上の ■ は表示しません。）

① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

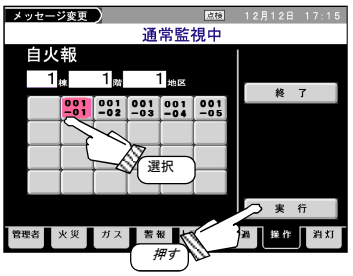
③ 「メッセージ変更」を選択し、「実行」を押してください。

④ メッセージ登録／変更したいPX端末が接続されているP型自動試験中継器の棟・階・地区番号を棟から順に数字ボタンと「実行」で入力します。
（「棟名称選択」を押すと、棟名称表示から棟番号を選択することができます。）

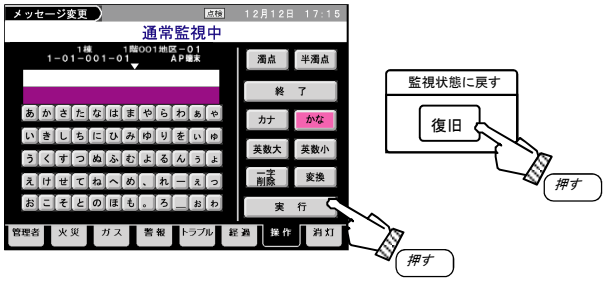
・地区の入力に数字を入力すると、設定した棟・階・地区の端末が表示されます。
・地区の入力に「＊」を入力すると、設定した棟・階の端末が表示されます。



⑤ メッセージ登録／変更したいPX端末が接続されているP型自動試験中継器を選択してください。
⑥ 「AP端末」を選択し、「実行」を押してください。
※ 「AP中継器」を選択し、「実行」を押すと、連動テーブルで設定したP型自動試験中継器に登録されているメッセージ内容を変更できます。



⑦ メッセージ登録／変更したいPX端末を選択し、「実行」を押して ください。



⑧ 文字を入力し、実行ボタンにより確定します。
確定後は復旧スイッチを押してください。

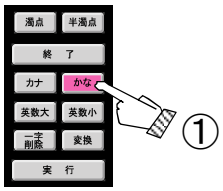
メモ

・復旧スイッチを押すまで登録／変更内容は有効になりません。
・受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源もはずした状態）にしても、登録／変更内容は保持されます。
・連動テーブルを転送しても、PX端末のメッセージは保持されます。（ただし、P型自動試験中継器の登録を削除した連動テーブルを受信機に転送した場合、PX端末のメッセージもクリアされます。）
・全PX端末のメッセージを登録／変更できます。
・変更履歴は最新600件まで記録できます。（RX端末との合計）
・最大入力文字数は12文字です。
・PX端末のメッセージは、副表示機、防災CRTには表示されません。
・PX端末のメッセージ内容の登録／変更はSDカードから実施することも可能です。（施工説明書の3－4、3－5及びSDツール『F4SD』の説明書を参照してください。）

【操作例】
メッセージを「南＿EVホール」に変更する場合

み

① 「かな」を押してください。
② 「み」を押してください。



みな

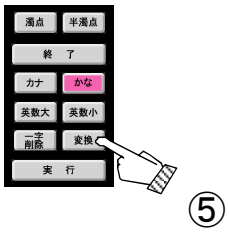
③ 「な」を押してください。

みなみ

④ 「み」を押してください。

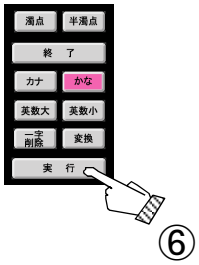
南

⑤ 「変換」を押してください。



南

⑥ 「実行」を押してください。

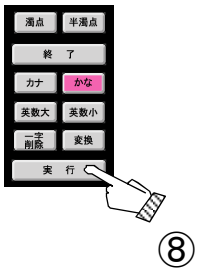


南
＿

⑦ 「＿」を押してください。

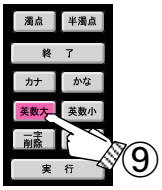
南＿

⑧ 「実行」を押してください。



南＿Ｅ

⑨ 「英数大」を押してください。
⑩ 「Ｅ」を押してください。

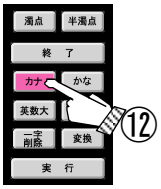


南＿ＥＶ

⑪ 「Ｖ」を押してください。

南＿ＥＶホ

⑫ 「カナ」を押してください。
⑬ 「ホ」を押してください。



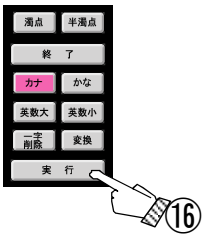
南＿ＥＶホー

⑭ 「ー」を押してください。

南＿ＥＶホール

⑮ 「ル」を押してください。

⑯ 「実行」を押してください。
入力したメッセージが受信機データに登録されます。
※プリンタにメッセージ変更の内容が印字されます。



予約登録（1／2）
RX感知器を予約登録種別として登録したアドレスに接続するとき／削除するとき

点検

あらかじめ連動テーブルに予約登録種別として登録したアドレスにRX感知器を接続し、受信機で予約登録操作を行なうことで、感知器を動作させることができます。

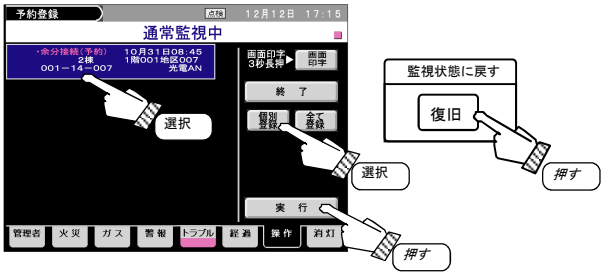
＜予約登録＞

RX感知器を接続し登録を行います。登録されたRX感知器は登録時の種別にて、正式動作します。
（登録完了後、画面右上に □ が表示されます。）

①追加したい感知器を接続してください。
「余分接続（予約）」トラブルが発生します。

② 「操作」を押してください。
③ 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

④ 「予約登録」を選択し 、「実行」を押してください。



⑤ 予約登録する端末を選択すると、サブ表示部に「個別登録」及び「全て登録」が表示されます。
いずれかを選択し、「実行」を押してください。
⑥ 復旧スイッチを押してください。

注
・RX感知器以外を予約登録された場合には、正常動作しません。
その他の種別を登録する場合には連動テーブルに正式登録を行ってください。
・P型自動試験中継器は予約登録できません。
（TG上で“番”番号登録しない種別のため。）

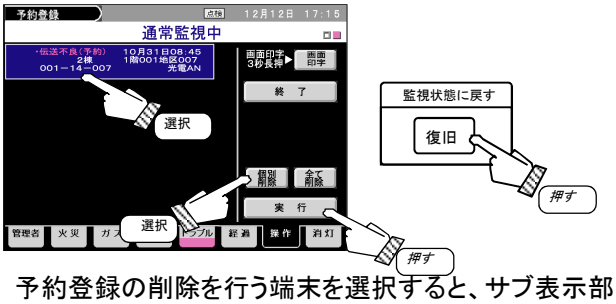
＜予約登録削除＞

予約登録したRX感知器の登録削除を行います。
削除したRX感知器は、伝送不良（予約）を復旧し、連動テーブル内容から削除されます。

①削除したい感知器を取り外してください。
「伝送不良（予約）」トラブルが発生します。

② 「操作」を押してください。
③ 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

④ 「予約登録」を選択し、「実行」を押してください。



⑤ 予約登録の削除を行う端末を選択すると、サブ表示部に「個別削除」及び「全て削除」が表示されます。
いずれかを選択し、「実行」を押してください。
⑥ 復旧スイッチを押してください。

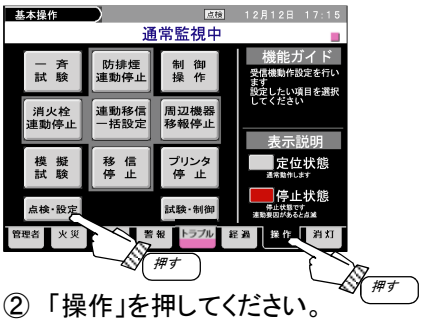
メモ
・復旧スイッチを押した後、受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源もはずした状態）にしても、変更状態は保持されます。
・連動テーブルを入れ替えるとRX感知器の予約登録情報はクリアされます。
・予約登録されているアドレス全点できます。
・予約登録（操作）履歴は最新600件まで記録できます。（PX端末の予約登録操作との合計）
・端末の種別を変更される場合は、一度登録削除を行い、再度登録操作を行ってください。
※防災CRTで個別表示する場合には別途変更が必要です。

予約登録（2／2）　点検
PX端末を接続するとき／削除するとき

＜予約登録＞

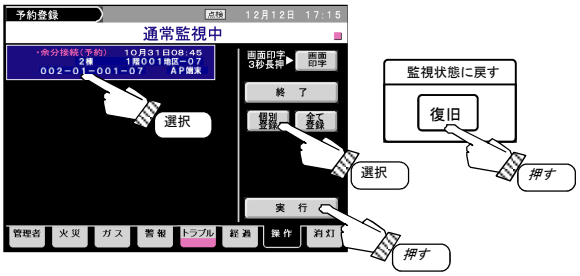
P型自動試験中継器の2次側にPX端末を接続し、受信機にPX端末のアドレス登録を行います。
（PX端末のアドレス登録時は、連動テーブルの変更が不要であるため、画面右上の□は表示しません。）

① 追加したいPX端末を接続してください。
「余分接続（予約）」トラブルが発生します。



② 「操作」を押してください。
③ 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

④ 「予約登録」を選択し、「実行」を押してください。



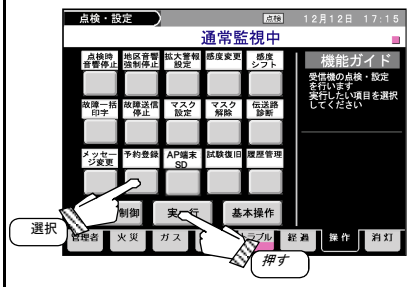
⑤ 登録するPX端末を選択すると、サブ表示部に「個別登録」及び「全て登録」が表示されます。
いずれかを選択し、「実行」を押してください。
⑥ 復旧スイッチを押してください。

＜予約登録削除＞

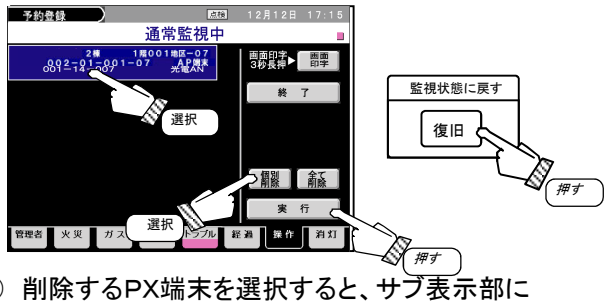
受信機に登録したPX端末のアドレスを削除します。

① 削除したいPX端末を取り外してください。
「伝送不良（予約）」トラブルが発生します。

② 「操作」を押してください。
③ 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）



④ 「予約登録」を選択し、「実行」を押してください。



⑤ 削除するPX端末を選択すると、サブ表示部に「個別削除」及び「全て削除」が表示されます。
いずれかを選択し、「実行」を押してください。
⑥ 復旧スイッチを押してください。

メモ

- 復旧スイッチを押した後、受信機の交流電源スイッチを「切」側（予備電源もはずした状態）にしても、PX端末の登録情報は保持されます。
- 連動テーブルを入れ替えても、PX端末の予約登録情報は保持されます。（ただし、P型自動試験中継器の登録を削除した連動テーブルを受信機に転送した場合、PX端末の登録情報もクリアされます。）
- 予約登録（操作）履歴は最新600件まで記録できます。（RX感知器の予約登録操作との合計）
- PX端末のアドレスは、副表示機、防災CRTには表示されません。

履歴保存SD
各種履歴情報をSDカードに保存する時

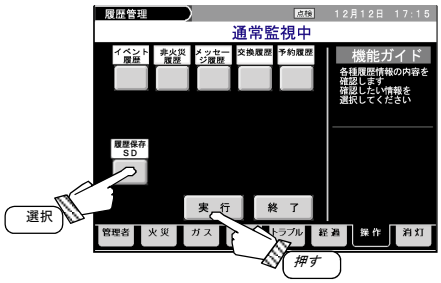
点検

各種の履歴情報のファイルをSDカードに書き込むことができます。

① SDカードを受信機に挿入してください。
（挿入方法は施工説明書（17ページ）参照）

② 「操作」を押してください。
③ 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

④ 「履歴管理」を選択し、
「実行」を押してください。



⑤ 「履歴保存SD」を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

⑥ 書き込みしたい履歴情報（例はイベント履歴）を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。

⑦ 「受信機　→　SD」の横にあるボタンを選択し、「実行」を押してください。
履歴ファイルがSDカードに書き込みされます。
（※書き込み中は進捗率が更新されます。）

⑧ 書き込みが完了したら、「終了」を押してください。

メモ

・履歴ファイルの確認方法
履歴ファイルは、SDツール『F4SD』にて、内容を確認する事ができます。
（別紙『SDツール（F4SD）操作マニュアル』参照）

『履歴情報のファイル名』

①イベント履歴（ MMDDhhmm.4EL ）
最新600件のイベント履歴データファイル
②自動試験結果（MMDDhhmm.4AT）
自動試験の最新6ヶ月データファイル
③R型メッセージ（ F4xxxxxx.4RM ）」
受信機盤面でメッセージ変更したRX端末の最新メッセージと端末情報データファイル
④R型予約登録（ F4xxxxxx.4RR ）」
TGで、「予約登録」種別として登録したRX端末のうち、実際に受信機盤面で予約登録操作したRX端末の情報データファイル

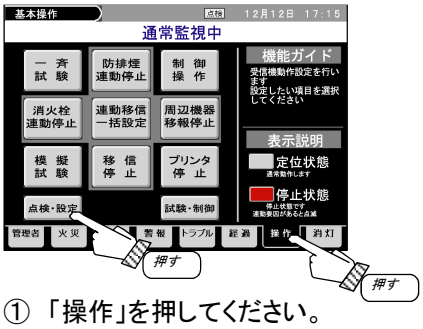
（※MMDDhhmm：操作した時の月日時分）
（※F4xxxxxx：件名のテーブルファイル名）

・SDカードは商品に同梱していません。
別途手配が必要です。
【推奨SDカード】パナソニック製SDカード
（SD／SDHC対応　32GBまで）

履歴管理
各種履歴情報の内容を確認するとき

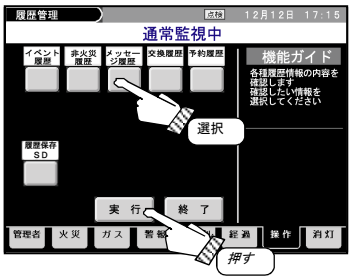
点検

各種の履歴データを確認することができます。



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』側に切替えてから実施してください。）

③ 「履歴管理」を選択し、「実行」を押してください。

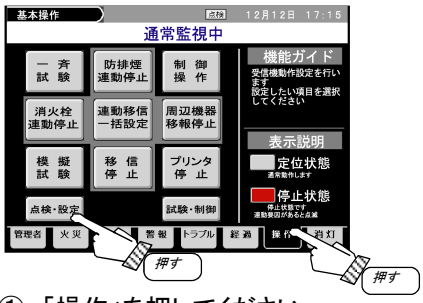


④ 確認する履歴を選択し、ボタンが紫色に変わった後、「実行」を押してください。
履歴表示に切替わります。

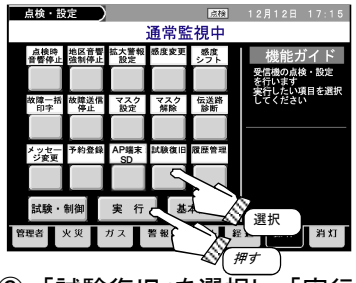
・イベント履歴について
　イベント情報の確認　　：最新600件
・非火災履歴について
　非火災履歴、統計情報　　：最新600件
・メッセージ履歴
　メッセージ変更履歴　　：最新600件
・交換履歴
　交換した部品の履歴　　：最新600件
・予約履歴
　予約登録・解除の履歴　　：最新600件

試験復旧
加熱・加煙試験時の試験復旧モードにするとき

点検



① 「操作」を押してください。
② 「点検・設定」を押してください。
（点検スイッチが『定位』側のときは、「点検・設定」ボタンの表示はしません。『点検』状態に切替えてから実施してください。）

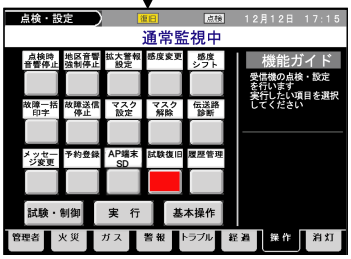


③ 「試験復旧」を選択し、「実行」を押してください。

・試験復旧状態と試験復旧解除状態が切替わります。
　・ボタンが灰色の時：試験復旧解除状態です。
　・ボタンが赤色の時：試験復旧状態です。
　　・警戒中灯は消灯します。
　　・非蓄積で火災発報し、火災報発生から約10秒後、発報感知器を自動的に復旧します。
・復旧処理中は操作できません。
（注）試験復旧中に地区音響の鳴動・表示が継続する場合は復旧を押してください。
・試験復旧終了操作後30秒間は試験復旧開始操作ができません。

（注）試験復旧は、警戒中灯の点灯と受信機、分散処理盤の起動状態を確認後開始してください。
（試験中は、分散処理盤やRXコントローラの接続処理を行いません。
試験中断後に起動および接続を行ってください。）

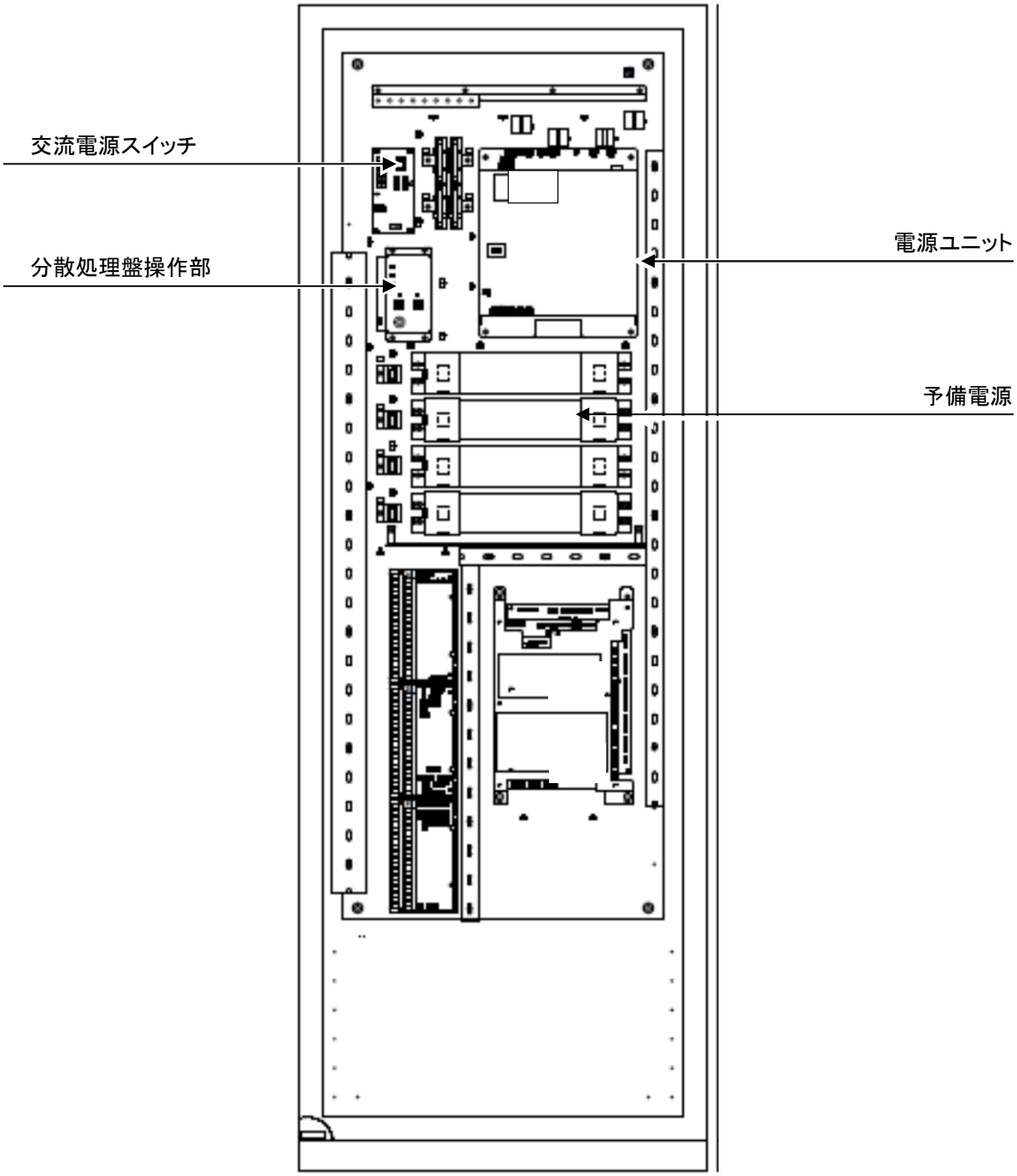
メモ
・試験復旧のときは「復旧」を黄色表示します。



MEMO

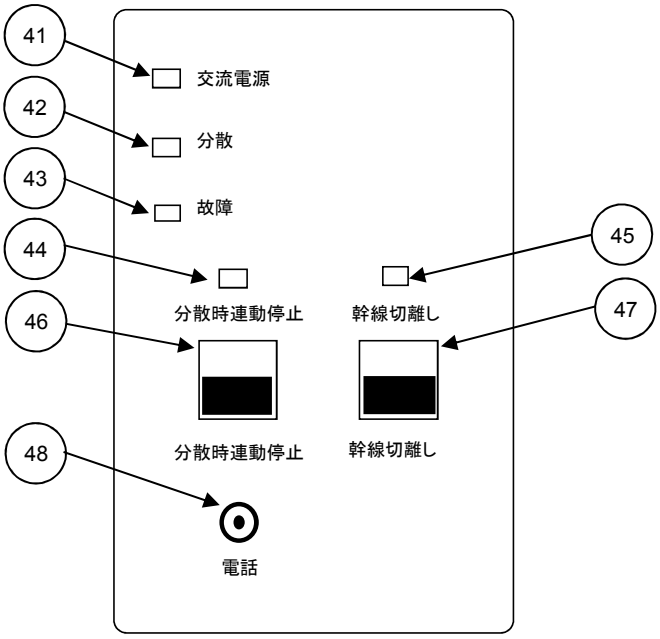
10. 各部の名称とはたらき（分散処理盤）

10-1. 分散処理盤概略姿図（内器）



10. 各部の名称とはたらき（分散処理盤）

10-2. 分散処理盤操作部



番号	名　称	発光色	備　考
41	交流電源灯	緑色　点灯	交流電源通電中に点灯します。
42	分散灯	赤色　点灯	受信機と通信不能になり、分散処理盤が分散動作に移行した時に赤色点灯します。
43	故障灯	赤色　点灯	分散処理盤または配線に異常が発生した時に赤色点灯します。
44	分散時連動停止灯	赤色　点灯	「分散時連動停止スイッチ」が停止状態の時または「分散時連動停止入力」（Cs、CSc）が停止状態（ON入力）の時に赤色点灯します。
45	幹線切離し灯	赤色　点灯	「幹線切離しスイッチ」が切離し状態の時に赤色点灯します。
46	分散時連動停止スイッチ	――――	スイッチを上側に倒すと、「分散時連動停止灯」が赤色点灯し、分散時連動停止状態になります。 分散時連動停止状態になると、分散処理盤が分散動作に移行した時に防排煙、移信、地区音響への連動は強制的に停止します。 （メンテナンス用）
47	幹線切離しスイッチ	――――	スイッチを上側をに倒すと、「幹線切離し灯」が赤色点灯し、分散処理盤を主幹線から切離します。 （受信機とは通信不能になります。）（メンテナンス用）
48	電話ジャック	――――	自火報電話機を接続すると通話できます。

11. 分散処理盤の状態表示について

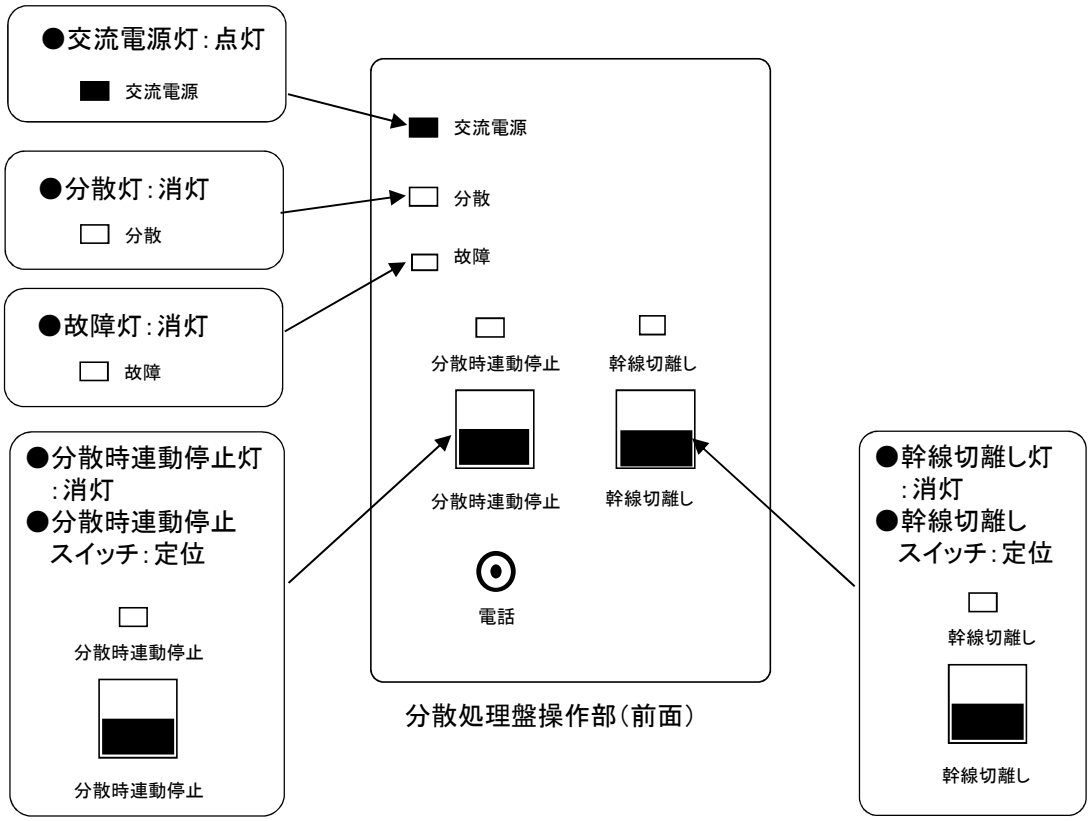
11-1. 平常時の分散処理盤状態

●分散処理盤を起動させるときは、交流電源スイッチを“入”にし、予備電源の接続コネクタを全て接続してください。
（分散処理盤の電源を切るには予備電源の接続コネクタを全て外し、交流電源スイッチを“切”にしてください。）

⚠注意

分散処理盤のスイッチなどが定位の状態であることを確認してください。
工事・保守・点検以外で、交流電源スイッチを切ったり、予備電源の接続コネクタを外したりしないでください。
平常時の状態でないと火災時やガス漏れ時に正しく動作しません。

●火災が発生したとき分散処理盤が正しく動作するよう、平常時は下図の状態であることを確認してください。
平常時において下図のような状態とならない場合は、「6. 異常時の点検・処置」の内容をご確認のうえ、点検契約店に連絡してください。



分散処理盤操作部（前面）

分散処理盤起動時の連動停止設定の状態

・分散処理盤起動時には、受信機と状態合わせを行い、地区音響、防排煙、移信の連動は、受信機の連動停止設定にあわせて動作します。
起動時の不用意な連動出力が心配な場合には、受信機の各連動停止スイッチを停止状態に設定し、連動停止状態で分散処理盤を起動してください。

・分散処理盤起動時に受信機が起動していない場合、分散処理盤は分散動作にて起動します。
分散時連動停止スイッチを停止状態（スイッチを上側に倒す）にしておくと、分散処理盤が分散動作にて起動した時にも地区音響、防排煙、移信は強制的に連動停止状態になります。

MEMO

12. 各種試験・機能

12-1. 一斉試験について

一斉試験は、「予備電源試験」「LED表示試験」「メモリチェック」を自動的に行い、
その結果を表示、プリンタ印字します。
（操作方法については、54ページの「一斉試験」を参照ください。）

① 予備電源試験：受信機の予備電源の電圧確認、交流電源から予備電源への切替試験を行います。
・良　：試験良
・不良：試験不良（詳細は、予備電源試験画面にて確認。）
・不可：試験が実施できない（交流電源断状態等）

② LED表示試験：受信機のLED表示、液晶表示を10秒間全点灯します。目視にて確認願います。
・良　：LED表示が全点灯し、液晶表示が赤→青→緑と変化します。
・不良：LED表示が不点灯や、液晶表示が赤→青→緑の順で点灯しません。

③ メモリチェック　：受信機のメモリ内容を確認します。
・良　：試験良
・不良：試験不良（詳細は、トラブル画面にて確認。）

＜プリンタ印字例＞

□良の場合

```
▽一斉試験開始        2月22日04:08
  000                  受信機

▽一斉試験終了        2月22日04:09
  000                  受信機
```

（注）良　印字は行いません。

□不良の場合（予備電源試験不良）

```
▽一斉試験開始        2月22日04:08
  000                  受信機

・予備電源試験不良   2月22日04:09
  001                  受信機　01

▽一斉試験終了        2月22日04:09
  000                  受信機
```

（注）交流電源断状態で一斉試験を行った時は
画面に「予備電源試験不可」を表示し、
プリンタに「予備電源試験不可」を印字します。

12-2. 予備電源試験について

予備電源試験は、受信機や分散処理盤に接続されている予備電源を指定して、
連続放電試験を実施し、個々の予備電源の電圧を確認します。
（操作方法については、69ページの「予備電源試験」を参照ください。）

＜プリンタ印字例＞

□良の場合

```
▽予備電源試験開始   2月22日04:08
  001                  受信機　01

▽予備電源試験終了   2月22日04:08
  001                  受信機　01
```

（注）良　印字は行いません。

□不良の場合（予備電源試験不良）

```
▽予備電源試験開始   2月22日04:08
  001                  受信機　01

・予備電源試験不良   2月22日04:09
  001                  受信機　01
```

（注）不良の予備電源は画面ボタンが
赤色に変更します。

12. 各種試験・機能

12-3. 火災試験について

① 火災試験
受信機から感知器を選択し、遠隔発報を行い、感知器・中継器状態・配線状態を確認します。
注 実際の連動動作が行われるため、連動テーブルに登録されている機器が連動動作します。
（操作方法については、66、67ページの「火災試験」を参照ください。）

② 蓄積試験
蓄積中灯の点灯時間がその種別の蓄積時間となります。
注 第1報目のみ蓄積中灯が点灯しますので複数感知器を同時に蓄積時間測定できません。
機器、配線の異常時や蓄積時間をオーバーした場合には、火災試験不良と表示します。
（正常の場合には、試験による火災発報を表示します。）

＜プリンタ印字例＞

□良の場合

```
▽火災試験          2月22日04:08
        1棟     1階001地区001
  000   受信機          光電二種

★火災発報          2月22日04:08
        1棟     1階001地区001
  会議室A
                        光電二種
```

□不良の場合（火災試験不良）

```
▽火災試験          2月22日04:08
        1棟     1階001地区001
  000   受信機          光電二種

・火災試験不良      2月22日04:08
        1棟     1階001地区001
  001－12－001        光電二種
```

12-4. ガス漏れ試験について

① ガス漏れ試験
受信機から、ガス漏れ中継器を選択し遠隔発報を行い、中継器状態・配線状態を確認します。
注 実際の連動動作が行われるため、連動テーブルに登録されている機器が連動動作します。
（操作方法については、68ページの「ガス漏れ試験」を参照ください。）

② 遅延試験
ガス第1報地区表示部の点滅時間が遅延時間となります。
注 機器、配線の異常時は、ガス漏れ試験不良と表示します。
（正常の場合には、試験によるガス漏れ発生を表示します。）

＜プリンタ印字例＞

□良の場合

```
▽ガス漏れ試験      2月22日04:08
        1棟     1階001地区
  000   受信機          ガス中継器

★ガス漏れ警報      2月22日04:08
        1棟     1階001地区
  会議室A
                        ガス中継器

★ガス漏れ発生      2月22日04:09
        1棟     1階001地区
  会議室A
                        ガス中継器
```

□不良の場合（ガス漏れ試験不良）

```
▽ガス漏れ試験      2月22日04:08
        1棟     1階001地区
  000   受信機          ガス中継器

・ガス漏れ試験不良  2月22日04:08
        1棟     1階001地区
  001－11－001        ガス中継器
```

12-5. 模擬試験について

（1）模擬試験

・模擬試験(シミュレーション機能）は、総合操作盤評価制度に対応した機能です。

・訓練機能として、受信機の2次側機器に実際の制御信号を出力せず、任意の火災・ガス漏れ・防排煙・諸警報作動および連動動作を模擬的に発生させ、受信機に表示を行い、実際に取り扱い管理者が操作し、非常時の受信機操作を訓練し会得するための機能です。

（操作方法については、60ページの「模擬試験（シミュレーション機能）」を参照ください。）

（2）模擬試験範囲

基本的には、受信機内部の表示部、プリンタ印字部のみ模擬試験可能ですが、設定に応じて外部表示機（グラパネ表示、防災CRT等の周辺表示装置）についても模擬試験表示が設定可能です。

※　2次側機器には実際の制御信号は出力しません。

（3）表示・操作範囲

① 表示印字

受信機の操作画面内の「模擬試験」画面から模擬の作動を発生させると、実際の発生状態と同様の動作、表示を行います。

中断要因でない実作動が発生した場合には、模擬試験を開始したまま、実際の処理を行います。

実作動と模擬作動は、表示、印字においてイベント表示の先頭のシンボルにて区別して表示、印字します。

実際の発生イベントシンボル「■」「□」「・」

模擬の発生イベントシンボル「☆」

② 音響

音響鳴動および音響停止操作は、模擬作動時も実作動時と同じ動作を行います。

③ 連動動作

実作動に対しては、実際の連動を行い、模擬作動に対しては、連動テーブルに登録されている連動内容にあわせて模擬連動を行います。

模擬試験中に発生した実作動に対する処理

実作動	表示	印字	試験	備考
蓄積開始	蓄積中灯	なし	中断	模擬作動はクリアします。
注意表示	注意表示	■注意表示発報	中断	模擬作動はクリアします。
火災	火災表示	■火災発報	中断	模擬作動はクリアします。
遅延開始	ガス漏れ警報表示	■ガス漏れ警報	中断	模擬作動はクリアします。
消火栓起動	消火栓灯点灯	・消火栓起動	中断	模擬作動はクリアします。
監視（自動・EF）	警報表示	・諸警報作動	中断	模擬作動はクリアします。
監視（一般）	警報表示	・諸警報作動	継続	模擬作動と混在表示します。
トラブル	トラブル表示	・プリンタ異常等	継続	トラブルは実表示のみです。

12. 各種試験・機能

12-6. 自動試験について

自動試験は、1日1回自動的に感知器（自動試験機能付）への自動火災試験、予備電源試験、メモリチェックを行い、配線等は常時監視しています。
自動試験中は、液晶表示部の上部に 試験 を表示します。

（1）試験内容
1日1回の試験と常時監視による試験内容は以下になります。

試験項目	試験内容	試験結果
感知器試験	感知器感度、火災検知機能を試験します。	試験良　：－正常（プリンタ印字なし ※1） 試験不良：個別トラブル表示（プリンタ印字あり）
電源等試験	システムの電源および制御機能を試験します。	試験良　：－正常（プリンタ印字なし ※1 ） 試験不良：個別トラブル表示（プリンタ印字あり）
電路試験	電路に断線、短絡その他異常が生じたときに検出します。	試験良　：－正常（プリンタ印字なし ※1 ） 試験不良：個別トラブル表示（プリンタ印字あり）
予備電源試験	予備電源の電圧確認等の試験を行います。	試験良　：－正常（プリンタ印字なし ※1 ） 試験不良：個別トラブル表示（プリンタ印字あり）

※1　自動試験結果印字の時は正常と印字します。

注 試験中に以下の状態になると自動試験を中断し、試験判定ができません。

＜自動試験開始不可および中断条件＞
・火災・注意表示発生（蓄積中含む）
・ガス漏れ発生（遅延中含む）
・試験復旧状態のとき
・復旧スイッチを操作したとき
・他の試験を行っているとき

（2）記録機能について
・自動試験中に試験不良が発生した場合、自動的にその個別トラブルを印字、表示します。
・自動試験結果印字（64ページ参照）では、最新の試験結果（正常または個別トラブル）を印字します。
・最新6ヶ月印字（64ページ参照）では、1週間毎の結果（最大26週分の正常または異常）を印字します。
（自動試験開始不可および中断条件により試験が行えなかった場合には、前回結果を反映します。）

＜プリンタ印字例＞

□自動試験結果印字（最新）
・各試験項目の「正常」「異常」のほか異常内容（異常の種類、発生種別、発生アドレス）も印字します。

□自動試験結果印字（最新6ヶ月）
・1週間ごとの各試験項目の「正常」「異常」を印字します。
・システム起動、結果クリア操作してから1週間以内に印字を行うと「自動試験－未実施」と印字することがありますが、自動試験を開始して1週間以上が経過していないためで自動試験は実施しています。

```
▽自動試験結果印字12月22日  9:24
 000                 受信機

  感知器試験          －正常
  電源等試験          －正常
  電路試験            －正常
  予備電源試験        －異常
・予備電源試験不良
  001                 受信機

・リスト印字終了
  リスト印字が終了しました
```

```
▽自動試験結果印字  3月  4日    9:24
 000                 受信機

・自動試験結果記録  2月5日  10:00
  感知器試験          －正常
  電源等試験          －正常
  電路試験            －正常
  予備電源試験        －異常

・自動試験結果記録  2月13日  10:00
  感知器試験          －正常
  電源等試験          －正常
  電路試験            －正常
  予備電源試験        －異常

・自動試験結果記録  2月20日  10:00
  感知器試験          －正常
  電源等試験          －正常
  電路試験            －正常
  予備電源試験        －正常

・リスト印字終了
  リスト印字が終了しました
```

12-7. 試験開始不可要因について

以下の不可要因が動作状態で他の試験は実行できません。
×：試験不可
○：実行可能

不可要因	試験内容						
	一斉試験	自動試験	予備電源試験	火災試験	ガス試験	模擬試験	試験復旧
火災（蓄積）	×	×	×	×	×	×	×
ガス漏れ（遅延）	×	×	×	×	×	×	○
監視（EF連携）	×	×	×	×	×	×	×
消火栓起動	○	×	○	○	○	×	○
復旧	×	×	×	×	×	×	×
試験復旧	×	×	×	×	×	×	

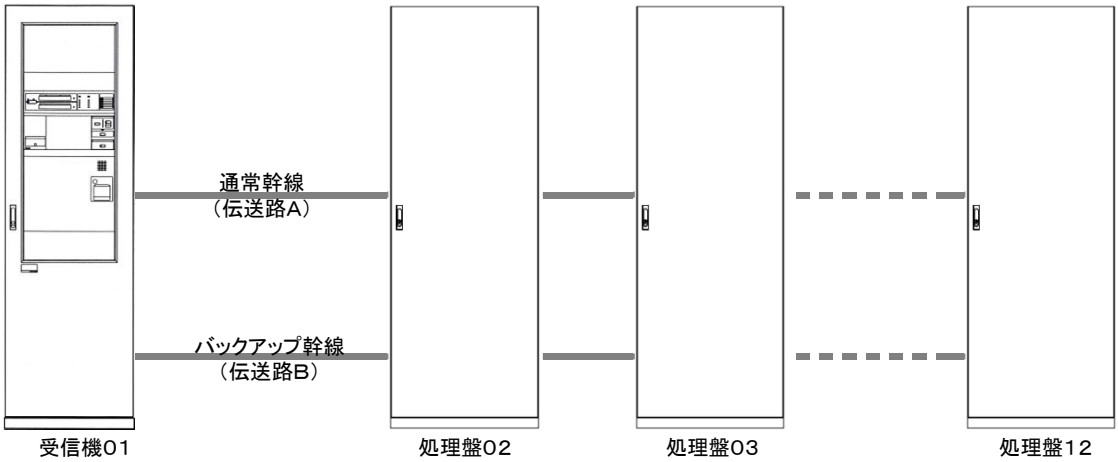
12-8. 試験中断要因について

以下の中断要因が動作すると試験を中断します。
×：試験中断
○：実行可能
●：消灯不可

中断要因	試験内容						
	一斉試験	自動試験	予備電源試験	火災試験	ガス試験	模擬試験	試験復旧
火災（蓄積）	×	×	×	×	×	×	○
ガス漏れ（遅延）	×	×	×	×	×	×	○
監視（EF連携）	×	×	×	×	×	×	○
消火栓起動	○	×	○	○	○	×	○
復旧	×	×	×	×	×	○	×
監視（自動）	○	○	○	○	○	×	○
画面消灯	●	○	×	●	●	●	●
画面切替 経過画面以外	×	○	×	×	×	○	○

12-9. 主幹線の切替動作について

受信機～分散処理盤の主幹線は、通常幹線（伝送路A）とバックアップ幹線（伝送路B）があり、通常幹線（伝送路A）で断線、短絡等のトラブルが発生した場合、自動的にバックアップ幹線（伝送路B）へ切替わり、システムのバックアップを行います。



・自動伝送路確認

通常幹線（伝送路A）にて運用中に伝送路が断線、短絡により分散処理盤の異常が確認された場合自動的にバックアップ幹線（伝送路B）の確認を行い、より通信状態のよい幹線（伝送路）を選択し切替わります。
（1日に1度、自動試験終了時に通常幹線（伝送路A）とバックアップ幹線（伝送路B）の伝送状態を確認し、異常の場合には伝送路A異常や伝送路B異常をトラブル表示します。）

【受信機の自動伝送路確認処理】

分散処理盤（伝送ユニット）の異常を認識すると、一時的にバックアップ幹線への切替えを行い、通常幹線とバックアップ幹線の接続確認を行います。
通信状態のよい幹線側に接続幹線を確定させます。

（1）“90秒間”分散処理盤と通信が不通状態になる。（ユニット異常発生）
（2）自動幹線確認により接続状態のよい幹線側に切替わる。
（3）切替後、分散処理盤との接続処理を行う。（ユニット異常復旧）

【分散処理盤の伝送路切替処理】

（1）通常幹線にて、“90秒間”受信機との通信の不通状態が継続する。（バックアップ幹線へ切替）
（2）バックアップ幹線にて、“90秒間”受信機との通信の不通状態が継続する。（通常幹線へ切替）
（3）通常幹線にて、“10秒間”受信機との通信の不通状態が継続する。（分散動作開始）

・手動伝送路確認

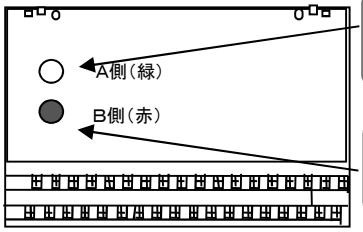
点検スイッチON時に「伝送路診断」画面より、手動による伝送路確認、伝送路切替操作が行えます。
（手動の伝送路切替は、強制的に切替を行う為、伝送路状態の悪い伝送路に切替えられた場合分散処理盤の電源リセットを行わないと受信機と通信できない場合がありますのでご注意ください。）

・運用幹線表示

運用幹線状態は、伝送路診断画面および、主幹線ユニットのLEDにて確認できます。

運用幹線表示

【伝送路診断画面】



通常幹線
（伝送路A）
緑LED点灯

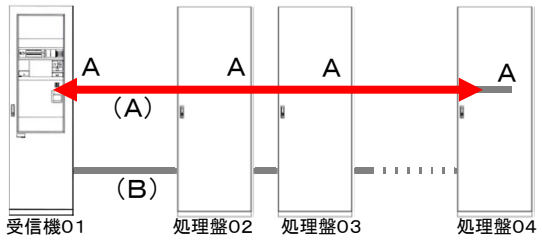
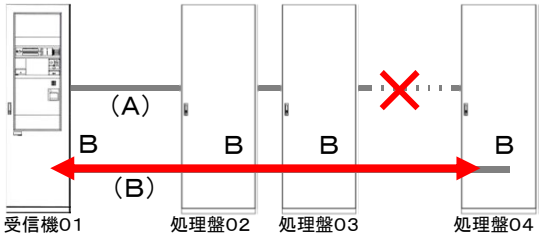
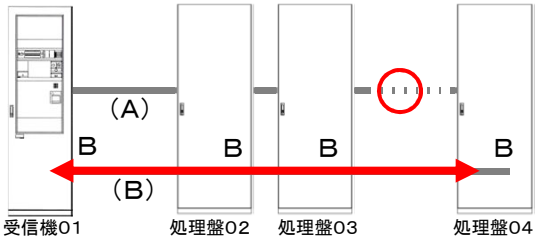
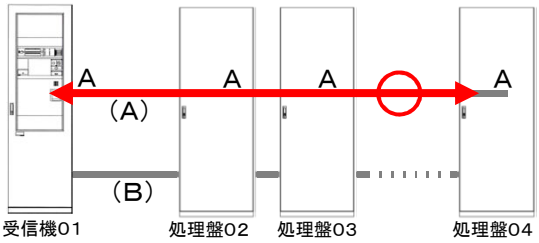
バックアップ幹線
（伝送路B）
赤LED点灯

【主幹線ユニット】

12. 各種試験・機能

主幹線2重伝送路の切替動作（例）

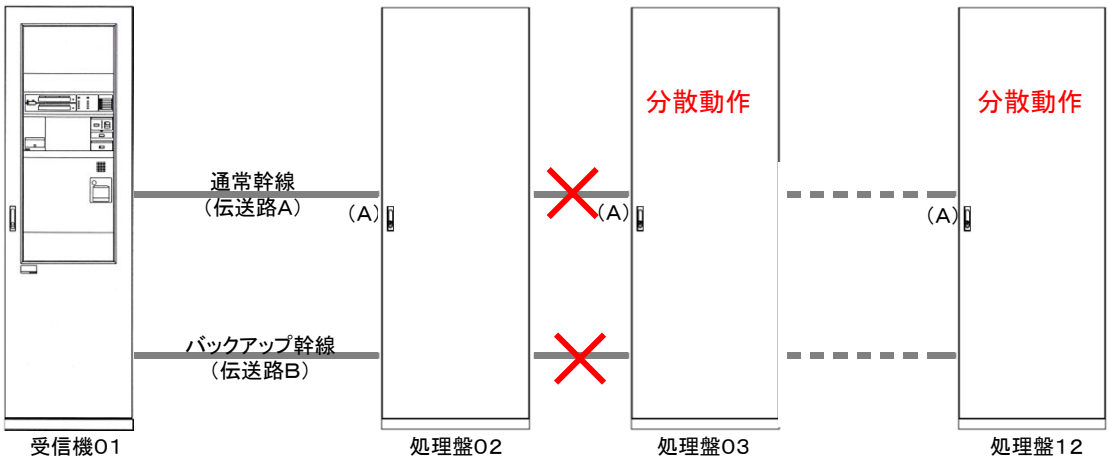
以下の例では、通常幹線の処理盤03と処理盤04間が断線した場合の動作についての説明です。

	システム状態	伝送路診断画面	プリンタ印字
正常状態			
幹線断線		 ※短絡の場合には、 ユニット異常発生箇所は異なります	断線による異常 ・ユニット異常 **月**日**:** 004－10 端11－14 ・ユニット異常 **月**日**:** 004－20 火21－22 ・分散処理盤異常 **月**日**:** 004 処理盤04 ・伝送路A異常 **月**日**:** 000 受信機 B側切替によるユニット異常復旧 ・ユニット異常復旧 **月**日**:** 004－10 端11－14 ・分散処理盤異常復**月**日**:** 004 処理盤04 ・ユニット異常復旧 **月**日**:** 004－20 火21－22
通常幹線復旧		 ※ 復旧のあと幹線確認操作を行う 幹線確認まで伝送路A異常は残ります	幹線確認による伝送路異常復旧 ▽伝送路確認 **月**日**:** 000 受信機 ・伝送路A異常復旧**月**日**:** 000 受信機
A側への手動切替			幹線確認による伝送路異常復旧 ▽伝送路A側切替 **月**日**:** 000 受信機

12-10. 分散動作について

受信機の異常や、主幹線の異常により、受信機との通信の不通状態が、190秒間継続した場合には、
分散処理盤は分散動作に移行し、分散処理盤のみでの動作に移行します。

（1）通常幹線にて、“90秒間”受信機との通信の不通状態が継続する。　（バックアップ幹線へ切替）
（2）バックアップ幹線にて、“90秒間”受信機との通信の不通状態が継続する。（通常幹線へ切替）
（3）通常幹線にて、“10秒間”受信機との通信の不通状態が継続する。　（分散動作開始）



・分散動作への移行
分散動作に移行すると分散処理盤操作部の分散灯が点灯します。
（受信機では、分散処理盤の異常が発生します。）

・分散動作への移行時のスイッチ状態

分散動作移行前のスイッチ状態	分散時連動停止OFF	分散時連動停止ON
防排煙連動停止	解除	停止
移信連動停止	解除	停止
地区音響完全停止	解除	停止
地区音響一時停止	解除	（地区音響完全停止）
蓄積解除	移行前の状態	移行前の状態
遅延解除	移行前の状態	移行前の状態
マスク設定	移行前の状態	移行前の状態
感度変更	移行前の状態	移行前の状態
感度シフト	移行前の状態	移行前の状態
各種試験状態	中断	中断

・分散動作からの復旧
受信機および幹線状態が復旧すると、受信機から分散処理盤に接続処理を行い通常の状態に移行します。

＜防災CRTとRXコントローラによる受信機代行機能＞
受信機の異常が発生しても、防災CRTとRXコントローラを接続していれば、分散処理盤は
分散動作に移行しません。
・防災CRTとRXコントローラにて受信機代行処理を行い、火災や防排煙機器の作動状況確認、
連動制御機能などの表示、操作ができます。
・受信機、RXコントローラの両方とも異常の場合には、分散動作に移行します。
・受信機代行処理中は、模擬試験は実施できません。

12-11. その他

＜アイソレータ2次側配線短絡時の動作について＞

・短絡状態を確認し、トラブル処理を行います。

・短絡したアイソレータの2次側配線の切離し処理を開始します。
切離し処理中の受信機は短絡表示しているアイソレータ2次側の感知器との通信は行いません。
（アイソレータ接続個数が増えると、処理時間も長くなります。）

・アイソレータ2次側配線切離し処理が完了すると、受信機は該当アイソレータのトラブル処理を行い
該当アイソレータは切離され、それ以外のアイソレータ、感知器とは正常に通信が行える様になります。

・アイソレータ2次側切離し状態の復旧方法
短絡箇所を復旧後、以下のいずれかを行ってください。
・予備電源の接続コネクタをはずして、交流電源スイッチを“切”→“入”して、予備電源の
接続コネクタを接続する。
・アイソレータの個別接続制御を行う。（52ページ参照）

13.部品などの交換方法

13−1. 予備電源の交換方法

(注) 予備電源は、当社受信機専用品（受託評価適合品）を使用してください。

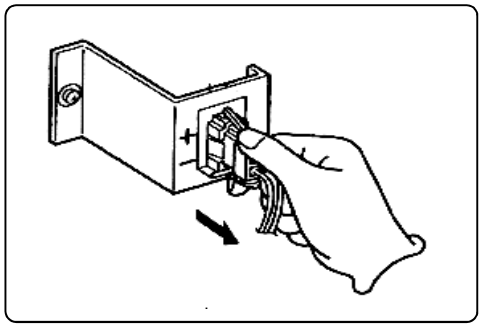
お願い事項

・予備電源に使用しているニッケルカドミウム蓄電池には寿命があります。使用開始日から
5年を目安に交換してください。
交換せず長期使用されますと、停電時に正常に機能しない場合があります。
（同一の電源ユニットに対して新しい蓄電池と古い蓄電池を絶対に混在使用しないでください。）
（同一の電源ユニットに対して容量の異なる蓄電池を絶対に混在使用しないでください。）

・ニッケルカドミウム蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
ご使用済の蓄電池は捨てないで、リサイクルへご協力ください。

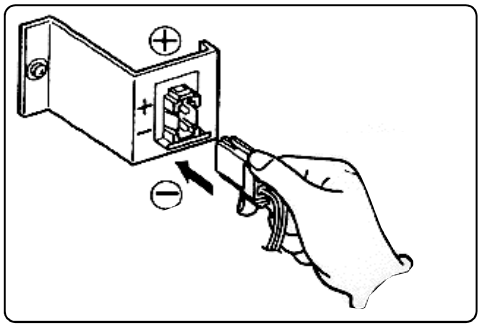
取りはずし方

接続コネクタの両端をつまみながら
はずしてください。
予備電源を固定している固定金具をはずし、
予備電源を取りはずしてください。



取り付け方

新しい予備電源を固定金具で受信機に
取りつけ、接続コネクタを接続してください。



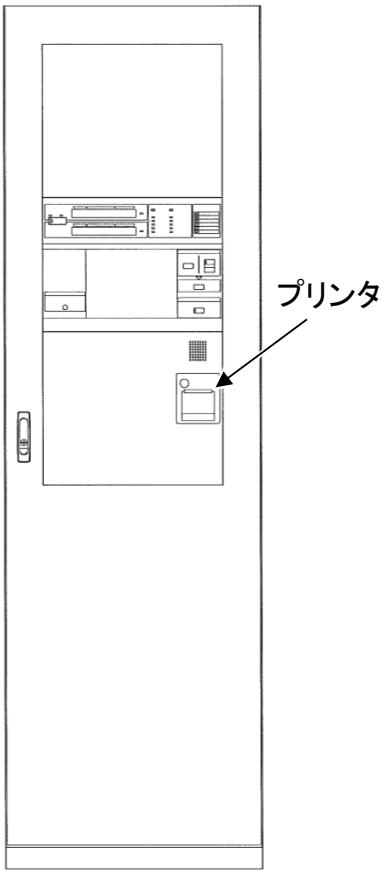
13.部品などの交換方法

13−2. プリンタ用紙の交換方法

⚠注意

●プリンタの刃先で指などを切らないよう注意してください。

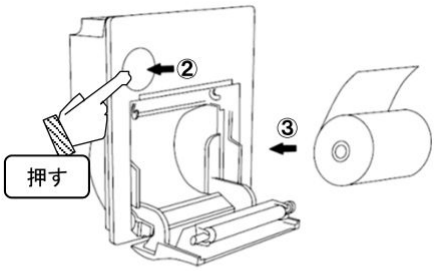
・プリンタ用紙（別売り)については当社へ
お問い合わせください。



交換手順

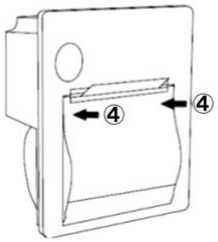
①プリンタが紙切れになると、
液晶表示部にプリンタ異常が
表示されます。

②プリンタ左上ボタンを押すと、
プリンタの扉が開きますので、
プリンタ用紙（ロールの芯）
を取り出してください。



③プリンタ用紙を図の向きに
プリンタ内へセットしてください

④プリンタ用紙の先端が
プリンタの外に出るように
して、扉上面の両端を押し
込んで扉を閉じてください。



⑤プリンタ異常が復旧する
ことを確認してください。

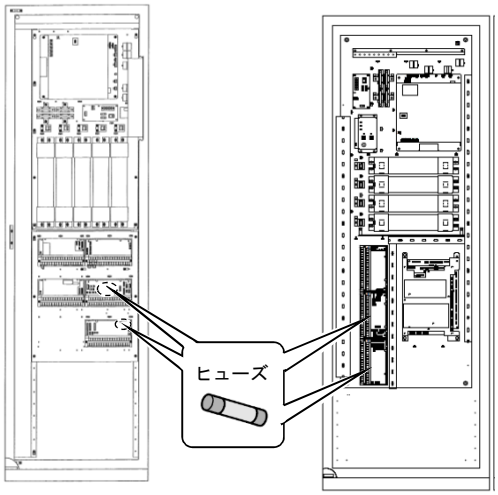
13.部品などの交換方法

13−3.ヒューズの交換方法

⚠ 警告

禁止

・ヒューズ交換は受信機の交流電源スイッチを切り、予備電源の接続コネクタをはずした状態で行ってください。感電の恐れがあります。
・ヒューズは必ず同じものをご使用ください。
それ以外のものを使用した場合、発火・故障の原因になります。

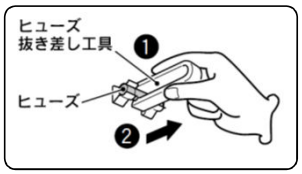


受信機内器部　　分散処理盤内器部

取りはずす場合

❶ヒューズにヒューズ抜き差し工具を挿入する。

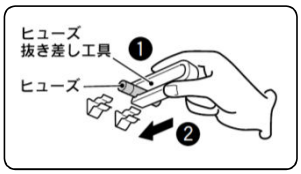
❷ヒューズ抜き差し工具をつまみ引っ張る。



取り付ける場合

❶ ヒューズ抜き差し工具にヒューズを挿入する。

❷ヒューズ抜き差し工具をつまみ、ヒューズ金具に挿入する。



・ヒューズ抜き差し工具は、予備品 保管用 の袋に入っています。

(注) ヒューズ交換時は隣のヒューズ金具と接触させないでください。

13−4. 感知器・表示灯について

■感知器について

⚠ 警告

必ず行う

・感知器を取り付けるときは、確実に止まるまで時計方向にまわしてください。正しく取りつけないと通電不良や落下の恐れがあります。

禁止

・誤って落下や衝撃を加えたり、変形したような感知器は使用しないでください。正常に機能しない場合があります。

分解禁止

・感知器は分解したり、衝撃を与えたりしないでください。
正常に火災感知しなくなる恐れがあります。

■表示灯について

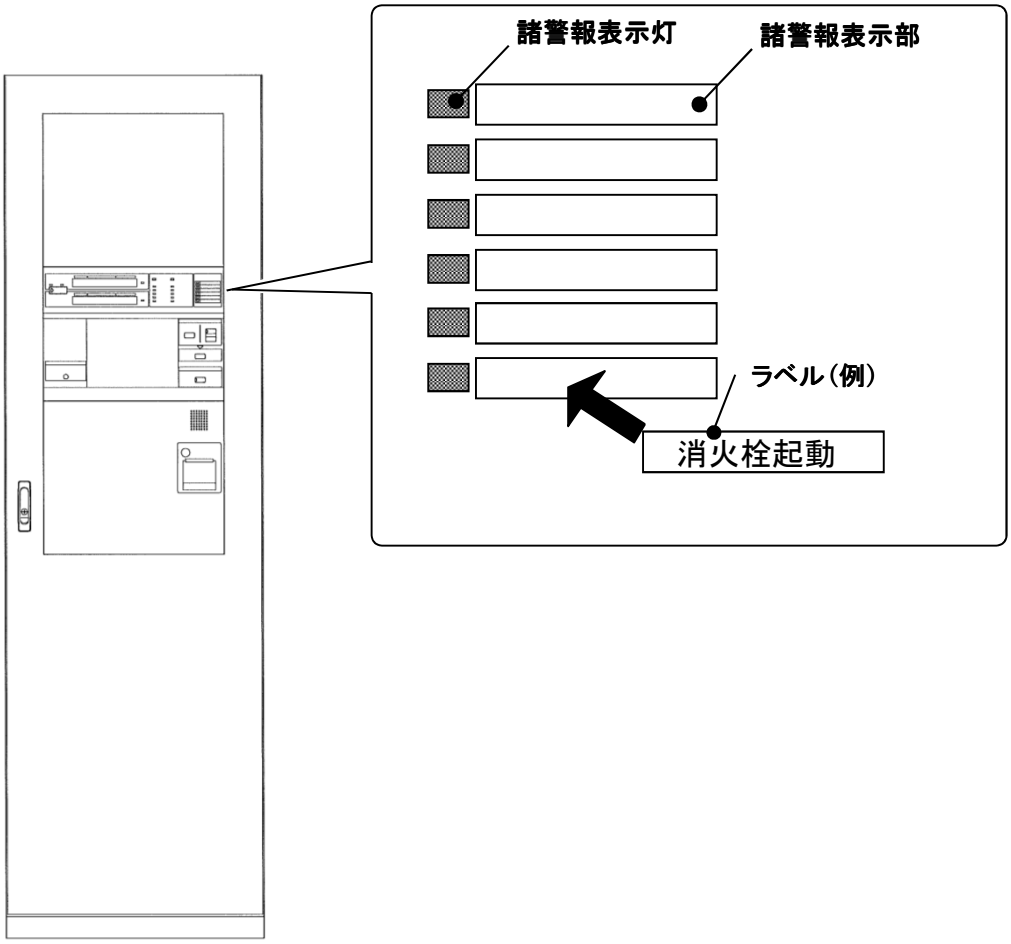
⚠ 警告

禁止

・表示灯の表示ランプは、指定の定格品以外は使用しないでください。
発火・故障の原因となります。

13−5. 諸警報表示部について

※諸警報表示部の枠内に収まるようラベルを作成し貼り付けてください。



14.更新（交換）時期の目安

自動火災報知設備機器の更新について

自動火災報知設備の一部は法改正、型式失効制度、定期点検などによって設備の更新が行われていますが、その機能と性能の信頼性を維持するには経時的な限界があり、設置から一定期間を経過した設備は更新する必要があります。
一般社団法人　日本火災報知機工業会では、約4000件の点検物件から不具合などで交換された機器の調査データに基づき、自動火災報知設備の主要機器の更新期間を下記のように設定しています。

機　器	更新目安
受信機、分散処理盤	15年
発信機	20年
煙式感知器	10年
熱式感知器	15年
熱式感知器（半導体式）	10年
地区音響装置	20年
ガス警報器	5年

※一般社団法人日本火災報知機工業会の
「既設の自動火災報知設備機器の更新について」を引用
（ただし、ガス警報器はガス業界統一基準の有効期限に基づき記載。）

自動火災報知設備機器の適正な維持管理について（定期交換部品のご案内）

本受信機、分散処理盤にはニッケルカドミウム蓄電池、スイッチング電源など、寿命のある部品が使用されています。
これらの電気部品・ユニットは、一般の電気機器と同様に時間経過とともに劣化・磨耗していくため、予防保全の観点から定期的に交換を行うことが必要です。
一般社団法人　日本火災報知機工業会では、部品業界の寿命年数を基に、定期交換推奨年数を下記のように定めています。

電気部品・ユニット	定期交換 推奨年数
スイッチング電源	5年
ニッケルカドミウム蓄電池	5年
LCD（液晶）ディスプレイ	5年
プリンタ	5年

※一般社団法人　日本火災報知機工業会の
自動火災報知設備・総合操作盤の適正な維持管理について「定期交換部品のご案内」を引用

15.定格・仕様

【受信機】受第30～5号の場合

本受信機の種別・型式は、下記の通りです。
種別: GR型受信機（アナログ式、蓄積式及び自動試験機能付）
型式: 交流100V　外部配線抵抗　20Ω
公称蓄積時間　60秒
公称受信温度　50℃～80℃
公称受信濃度（スポット型）　2．5%／m～17．0%／m
公称受信濃度（分離型）　5．0%～80．0%

■システム容量

品種	システム容量		電源定格	函体構造(※2)
RX1400 GR型受信機 （636ｱﾄﾞﾚｽ）	感知器接続数 508ｱﾄﾞﾚｽまで （感知器伝送線系統数　2）	中継器接続数　256回線まで （中継器伝送線系統数　1） 防排煙（監視）中継器　256回線まで 移信中継器　256回線まで 地区音響中継器　80回線まで ガス漏れ中継器　160回線まで 一般R型中継器（※1）　256回線まで	常用電源　AC100V（50/60Hz） 消費電力　警戒時最大　200VA 警報時最大　400VA 予備電源（ﾆｯｹﾙｶﾄﾞﾐｳﾑ蓄電池 受託評価適合品） DC24V　4000mAh×4本（※2）	自立型 （mm） H:2000 W:600 D:450
RX1400 GR型受信機 （1272ｱﾄﾞﾚｽ）	感知器接続数 1016ｱﾄﾞﾚｽまで （感知器伝送線系統数　4）	中継器接続数　512回線まで （中継器伝送線系統数　2） 防排煙（監視）中継器　512回線まで 移信中継器　512回線まで 地区音響中継器　80回線まで ガス漏れ中継器　320回線まで 一般R型中継器（※1）　512回線まで	常用電源　AC100V（50/60Hz） 消費電力　警戒時最大　250VA 警報時最大　450VA 予備電源（ﾆｯｹﾙｶﾄﾞﾐｳﾑ蓄電池 受託評価適合品） DC24V　4000mAh×5本（※2）	自立型 （mm） H:2000 W:600 D:450

【中継器】中第30～12号の場合

本分散処理盤の種別・型式は、下記の通りです。
種別:　中継器（アナログ式、蓄積式及び自動試験機能付）
型式:　交流100V　外部配線抵抗　20Ω
公称蓄積時間　60秒
公称受信温度　50℃～80℃
公称受信濃度（スポット型）　2．5%／m～17．0%／m
公称受信濃度（分離型）　5．0%～80．0%

■システム容量

品種	システム容量		電源定格	函体構造(※2)
RX1400 分散処理盤 （636ｱﾄﾞﾚｽ）	感知器接続数 508ｱﾄﾞﾚｽまで （感知器伝送線系統数　2）	中継器接続数　256回線まで （中継器伝送線系統数　1） 防排煙（監視）中継器　256回線まで 移信中継器　256回線まで 地区音響中継器　80回線まで ガス漏れ中継器　160回線まで 一般R型中継器（※1）　256回線まで	常用電源　AC100V（50/60Hz） 消費電力　警戒時最大　200VA 警報時最大　380VA 予備電源（ﾆｯｹﾙｶﾄﾞﾐｳﾑ蓄電池 受託評価適合品） DC24V　4000mAh×3本（※2）	自立型 （mm） H:2000 W:700 D:300
RX1400 分散処理盤 （1272ｱﾄﾞﾚｽ）	感知器接続数 1016ｱﾄﾞﾚｽまで （感知器伝送線系統数　4）	中継器接続数　512回線まで （中継器伝送線系統数　2） 防排煙（監視）中継器　512回線まで 移信中継器　512回線まで 地区音響中継器　80回線まで ガス漏れ中継器　320回線まで 一般R型中継器（※1）　512回線まで	常用電源　AC100V（50/60Hz） 消費電力　警戒時最大　250VA 警報時最大　430VA 予備電源（ﾆｯｹﾙｶﾄﾞﾐｳﾑ蓄電池 受託評価適合品） DC24V　4000mAh×4本（※2）	自立型 （mm） H:2000 W:700 D:300

（※1）汎用電源（F+、CC(−)）の容量に制限があるため、回線数によっては別電源からの電源供給が必要となります。
（※2）仕様によりは異なる場合があります。

15.定格・仕様

■受信機定格・仕様（RX1400受信機）（1／5）

種　　別		ＧＲ型受信機
品　　番		ＮＢＳ５２７ＢＥ＊＊（＊＊は感知器伝送系統数）
国家検定型式番号		受第３０～５号
自主評定型式承認番号		ＡＲ－１８－３
機　　能		自動試験機能 アナログ機能 火災断定機能 音声警報機能 プリンタ内蔵 カラー液晶表示（ユニバーサルデザインフォント） シミュレーション機能 ガイダンス機能 火災／警報／試験履歴機能 メッセージ変更機能 予約登録機能 メンテ管理機能 非火災要因管理機能 感度シフト機能 感度変更機能 分散型システム（受信機＋分散処理盤） 分散動作機能付（分散処理盤間連動含む） 主幹線バックアップ機能（２重化配線） ＣＲＴバックアップ機能（オプション） （受信機ダウン時にも防災ＣＲＴに火災・ガス表示可能）
システム容量（全体）	主幹線　系統数 （受信機－分散処理盤間）	１系統（２重化配線）
	外部伝送線　系統数 （受信機－RXコントローラ間）	１系統
	分散処理盤　接続台数	最大１２台（受信機内蔵分含む）
	RXコントローラ	接続数　　：１台 シリアル移報： イーサネット　防災ＣＲＴ専用 ※防災ＣＲＴは最大１５台接続可能 ＲＳ２３２Ｃ　４系統 ＲＳ４８５　　１系統

15.定格・仕様

■受信機定格・仕様（RX1400受信機）(2／5)

システム容量（受信機）	RX 感知器、発信機　接続個数 （感知器伝送線１系統あたり）	Ａ　：アドレス付感知器　：２５４個／系統 Ｂ　：アドレス付発信機　：２５４個／系統 Ｃ　：アドレスアダプタ　：１００個／系統 Ｃ’：アドレスアダプタ４回線用　：　２５個／系統（※１） Ｄ　：アイソレータ　：　２５個／系統 Ｅ　：アドレス付熱電対検出器　：　６０個／系統 Ｆ　：アドレス付光電式分離型感知器　：　３０個／系統 Ｇ　：Ｐ型自動試験中継器４回線用　：　２５個／系統（※１） 上記が混在する時は次の６つの式を満足すること。 Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋４Ｃ’＋Ｄ＋Ｅ＋Ｆ＋４Ｇ　≦２５４個（※１） Ａ＋Ｂ＋３Ｃ＋１０Ｃ’＋５Ｄ＋４Ｅ＋５Ｆ＋１０Ｇ　≦３００個（※１） Ｃ＋４Ｃ’＋４Ｇ　≦１００個（※１） Ｄ　≦　２５個 Ｅ　≦　６０個 Ｆ　≦　３０個
	Ｐ型自動試験中継器２次側の ＰＸ端末、一般感知器接続数 （１系統あたりのトータル接続数）	３０００個まで ※外部電源の増設が必要になる場合があります。 ※回線あたりの接続数は、施工説明書をご覧ください。
	アドレスアダプタ２次側の 一般感知器　接続個数 （１系統あたりのトータル接続数）	Ａ：電子式熱感知器　：２０００個まで Ｂ：煙感知器　：　５００個まで Ｃ：光電式分離型感知器　：　２０個まで Ｄ：熱電対検出器　：　１２５個まで Ｅ：炎感知器　：　１００個まで 上記が混在する時は次の式を満足すること。 Ａ＋４Ｂ＋１００Ｃ＋１６Ｄ＋２０Ｅ　≦２０００ ※外部電源の増設が必要になる場合があります。 ※回線あたりの接続数は、施工説明書をご覧ください。
	RX 中継器接続個数 （中継器伝送線１系統あたり）	ａ：監視中継器（８回線）　：２５６回線／系統 ａ：移信中継器（８回線）　：２５６回線／系統 ｂ：防排煙中継器（４回線）　：２５６回線／系統 ｂ：監視中継器（４回線）　：２５６回線／系統 ｂ：移信中継器（４回線）　：２５６回線／系統 ｃ：ガス漏れ中継器（２回線）　：１６０回線／系統 ｄ：防排煙遠隔復帰用中継器（４回線）　：２５６回線／系統 ｅ：地区音響中継器（２回線）　：　８０回線／系統（※２） ｆ：一般Ｒ型中継器（４回線）　：２５６回線／系統（※１） 上記が混在する時は次の式を満足すること。 ８ａ＋４ｂ＋２ｃ＋４ｄ＋２ｅ＋４ｆ　≦２５６回線（※１） ２ｃ　≦１６０回線 ２ｅ　≦　８０回線（※２） ４（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ＋ｅ＋ｆ）　≦４００ ※外部電源の増設が必要になる場合があります。
	ＲＳ４８５伝送線 （副表示機接続用）	系統数：１系統
		接続数：双方向　最大　３１台 片方向　最大１００台

15.定格・仕様

■受信機定格・仕様（RX1400受信機）(3／5)

<table>
<tr><td rowspan="5">定格・仕様</td><td>表示部</td><td>１０．４型ＴＦＴカラーＬＣＤ（タッチパネル付）（表示色１６色）
自火報デジタル表示（７セグＬＥＤ）　　１窓
ガス漏れデジタル表示（７セグＬＥＤ）　　１窓</td></tr>
<tr><td>諸警報表示窓</td><td>６窓（標準装備）</td></tr>
<tr><td>音響装置</td><td>スピーカ
警報音（断続）＋ 音声メッセージ
８５ｄＢ以上（火災警報時、前方１ｍ）
＜音声警報一覧＞
<table>
<tr><th>受信状態</th><th>警報音</th><th>音声メッセージ</th></tr>
<tr><td>火災（第１報）</td><td>ピー ピー</td><td>火災感知器が作動しました。
現場を確認してください。
（女性の声）</td></tr>
<tr><td>火災
（第２報または
発信機発報）</td><td>ピー ピー</td><td>火事です。火事です。
現場を確認してください。
（男性の声）</td></tr>
<tr><td>注意表示音響</td><td>プー プー</td><td></td></tr>
<tr><td>ガス漏れ</td><td>ピー</td><td>ガス漏れです。ガス漏れです。
現場を確認してください。
（男性の声）</td></tr>
<tr><td>トラブル</td><td>ピーー</td><td>トラブルが発生しました。
（女性の声）</td></tr>
<tr><td>機器作動
（防排煙、諸警報）
（※３）</td><td>プープープープー</td><td></td></tr>
<tr><td>蓄積開始
（※３）</td><td>プー プー</td><td></td></tr>
<tr><td>電話呼び出し</td><td>プルルルル</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>公称蓄積時間
（火災）</td><td>６０秒
＊印感知器：ＡＩ判断機能付
<table>
<tr><th></th><th>注意</th><th>火災</th><th>連動</th></tr>
<tr><td>一般熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr>
<tr><td>一般煙感知器</td><td></td><td>６０秒</td><td></td></tr>
<tr><td>ＰＸ熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr>
<tr><td>ＰＸ煙感知器</td><td></td><td>６０秒</td><td></td></tr>
<tr><td>アドレス熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr>
<tr><td>アナログ熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr>
<tr><td>アドレス煙感知器　＊</td><td></td><td>５０秒</td><td>５０秒</td></tr>
<tr><td>アナログ煙感知器　＊</td><td>５０秒</td><td>５０秒</td><td>５０秒</td></tr>
<tr><td>アドレス光電分離感知器</td><td></td><td>２０秒</td><td></td></tr>
<tr><td>アナログ光電分離感知器</td><td>２０秒</td><td>２０秒</td><td>２０秒</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>標準遅延時間
（ガス漏れ）</td><td>５０秒</td></tr>
</table>

15.定格・仕様

■受信機定格・仕様（RX1400受信機）（4／5）

定格・仕様	非常放送連動	連動出力：火災確認信号　　１点（ＥＦ － ＥＣ）（※４） 火災階代表信号　３０点（Ｉ１・・・Ｉ３０ － ＩＣｎ） 無電圧接点　接点容量　ＤＣ３０Ｖ　１Ａ （オプションにて最大１００点まで増設可能） 入力　　：非常放送時地区音響（ベル）一時停止（ＥＢ＋ － ＥＢ－）（※５）
	消火栓始動	連動出力：（Ｈ１－１ － Ｈ２－１） 無電圧接点　接点容量　ＤＣ３０Ｖ　１Ａ 入力：消火栓起動確認（ＨＬ１－１ － ＨＬ２－１） 有電圧入力　ＡＣ２４Ｖ （オプションにて最大１３系統まで増設可能）
	代表移信	火災代表　　：無電圧ａｂ接点　３点（Ｆａ１、Ｆｂ１－Ｆｃ１）（※４） （Ｆａ２、Ｆｂ２－Ｆｃ２）（※４） （Ｆａ３、Ｆｂ３－Ｆｃ３）（※４） ガス漏れ代表　　：無電圧ａ　接点　１点（ＧＦａ－ＧＦｃ）　（※４） 故障代表　　：無電圧ａ　接点　１点（ＴＦａ－ＴＦｃ）　（※４） ガス故障代表　　：無電圧ａ　接点　１点（ＧＴａ－ＧＴｃ）　（※４） 火災断定ＳＷ出力　：無電圧ａｂ接点　１点（ＫＤａ、ＫＤｂ－ＫＤｃ）（※４） 移信停止出力　　：無電圧　ｂ接点　３点（ＩＴｂ１－ＩＴｃ１） （ＩＴｂ２－ＩＴｃ２） （ＩＴｂ３－ＩＴｃ３） 火災復旧出力　　：無電圧ａｂ接点　１点（Ｉｒａ、Ｉｒｂ－Ｉｒｃ）（※４） 無電圧接点　接点容量　ＤＣ３０Ｖ　１Ａ
	地区音響用電源	ＤＣ２７Ｖ　８００ｍＡ（Ｂ＋ － ＢＣ（－））（※６）
	防排煙制御電源	ＤＣ２７Ｖ　２Ａ（ＶＰ１１＋ － ＶＰＣ（－），ＶＰ１２＋ － ＶＰＣ（－）） （全回線同時制御最大　ＤＣ２７Ｖ　２Ａ）
	監視用電源	ＤＣ２７Ｖ　９００ｍＡ（ＤＡ＋ － ＣＣ（－）） （※１）
	外部制御電源 （汎用電源）	ＤＣ２７Ｖ　７００ｍＡ（Ｆ＋ － ＣＣ（－））（※１）
	ガス漏れ表示灯用電源	ＤＣ２７Ｖ　２５０ｍＡ（ＧＳ＋ － ＣＣ（－）） （※１）
	プリンタ	感熱ラインドット方式 ２４×２４ドット／１文字 漢字１６文字／行（ＪＩＳ第１、第２水準） プリンタ用紙：感熱、幅５８ｍｍ
	自火報電話	ジャック方式 電話機２台同梱
	オプション設定 （※７）	地図式表示　　最大　６４ＬＥＤ（Ａ３サイズ横） 最大１２８ＬＥＤ（Ａ２サイズ縦） ※その他オプション設定はご相談ください。
	使用周囲温度	０℃～＋４０℃
	質量	約１５０ｋｇ（※８）

15.定格・仕様

■受信機定格・仕様（RX1400受信機）(5／5)

<table>
<tr><td rowspan="5">配
線</td><td>主幹線
（受信機－
分散処理盤間）
（※９）</td><td>最遠配線長　：　２，０００ｍ
総配線長　：　２，０００ｍ
終端抵抗　：　１００Ω×２
（両端接続）
その他　：　２重化配線
（Ａ側　１Ｐｒ，Ｂ側　１Ｐｒ）</td><td rowspan="2">適合配線　：　高速伝送対応　耐熱ケーブル
（シールド付ツイストペア線）
線径　：　φ１．２
※要求品質　：　ループ抵抗２８Ω以下／ｋｍ
静電容量７２ｎＦ以下／ｋｍ
特性インピーダンス
（７００ｋＨｚ－２０ＭＨｚ）
１００±１５Ω</td></tr>
<tr><td>外部伝送線
（受信機－
RXコントローラ間）</td><td>最遠配線長　：　３０ｍ</td></tr>
<tr><td>感知器伝送線
（ＮＭＡＳＴ）
（※１０）（※１１）</td><td colspan="2">最遠配線長　：　１，５００ｍ
総配線長　：　２，０００ｍ
適合配線　：　幹線　→　耐熱ケーブル（ツイストペア線）
フロア配線　→　耐熱ケーブル
線径　：　配線抵抗２０Ω以下となる線径</td></tr>
<tr><td>中継器伝送線
（ＮＭＡＳＴ）
（※１０）（※１１）</td><td colspan="2">最遠配線長　：　１，５００ｍ
総配線長　：　２，０００ｍ
適合配線　：　耐熱ケーブル（ツイストペア線）
線径　：　配線抵抗２０Ω以下となる線径</td></tr>
<tr><td>ＲＳ４８５伝送線
（副表示機接続用）
（※１２）</td><td colspan="2">双方向通信　：　最遠配線長　５００ｍ
総配線長　１５００ｍ（３分岐まで）
片方向通信　：　機器間配線長　５００ｍ（分岐配線合計５００ｍ）
総配線長　２０００ｍ
適合配線　：　シールド付ツイストペアケーブル
線径　：　φ０．９以上</td></tr>
<tr><td>注
記</td><td colspan="3">（※１）　受信機外部制御電源（汎用電源）の電流制限について
受信機１面体あたりの一般Ｒ型中継器（４回線）及びアドレスアダプタ４回線用、Ｐ型自動試験中継器４回線用の接続個数が下記の式を満足しない場合は、受信機の外部制御電源（Ｆ＋，ＣＣ）の容量が不足するため、別電源からの電源供給が必要となります。
①＋②＋③≦７００（ｍＡ）
①：一般感知器接続時の監視時消費電流（終端抵抗１０ｋΩ時）
＝２２×（一般Ｒ型中継器（４回線）とアドレスアダプタ４回線用の接続数）
＋５８×（Ｐ型自動試験中継器４回線用の接続数）（ｍＡ）
②：一般感知器使用時の５回線発報時消費電流＝２１５　（ｍＡ）
③：一般Ｒ型中継器（４回線）、アドレスアダプタ４回線用、Ｐ型自動試験中継器４回線用以外の機器の総消費電流　（ｍＡ）
（※２）　地区音響中継器は、受信機タイプ（系統数）に関わらずトータル接続個数は受信機１面体あたり最大８０回線以下です。
（※３）　機器作動音響、蓄積開始音響については「鳴動する／しない」の設定をテーブルジェネレータで変更できます。
（※４）　移信停止スイッチで停止しません。
（※５）　非常放送側の端子に終端抵抗器１０ｋΩ（添付品）を接続してください。
（※６）　地区音響中継器の消費電流（１０ｍＡ／個）を含みます。
（※７）　常時点灯には対応しておりません。また、オプション内容により制限されることがあります。
（※８）　仕様により異なる場合があります。
（※９）　主幹線は送り配線としてください。また、送り配線の終端両側共に受信機、分散処理盤の接続端子にて終端抵抗１００Ω　１Ｗ（受信機内に付属）を接続してください。
（※１０）ＮＭＡＳＴ伝送線と以下の配線は別シースの配線としてください。
電話線、ＲＳ４８５伝送線、アドレスアダプタ２次側配線、地区音響線
（※１１）建屋をまたがる場合は、シールド線が必要です。
（※１２）ＲＳ４８５伝送線と電話線は、同一シース可能です。</td></tr>
</table>

15.定格・仕様

■分散処理盤定格・仕様（RX1400分散処理盤）（1／3）

種　　別		中継器
品　　番		ＮＣＨ５７２ＢＥ＊＊（＊＊は感知器伝送系統数）
国家検定型式番号		中第３０～１２号
機能		自動試験機能 アナログ機能 分散型システム（受信機＋分散処理盤） 分散動作機能（分散処理盤間連動含む）
システム容量	主幹線系統数 （受信機－分散処理盤間）	１系統（２重化配線）
	RX 感知器、発信機　接続個数 （感知器伝送線１系統あたり）	Ａ　：アドレス付感知器　：２５４個／系統 Ｂ　：アドレス付発信機　：２５４個／系統 Ｃ　：アドレスアダプタ　：１００個／系統 Ｃ’：アドレスアダプタ４回線用　：　２５個／系統（※１） Ｄ　：アイソレータ　：　２５個／系統 Ｅ　：アドレス付熱電対検出器　：　６０個／系統 Ｆ　：アドレス付光電式分離型感知器　：　３０個／系統 Ｇ　：Ｐ型自動試験中継器４回線用　：　２５個／系統（※１） 上記が混在する時は次の６つの式を満足すること。 Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋４Ｃ’＋Ｄ＋Ｅ＋Ｆ＋４Ｇ　≦２５４個（※１） Ａ＋Ｂ＋３Ｃ＋１０Ｃ’＋５Ｄ＋４Ｅ＋５Ｆ＋１０Ｇ　≦３００個（※１） Ｃ＋４Ｃ’＋４Ｇ　≦１００個（※１） Ｄ　≦　２５個 Ｅ　≦　６０個 Ｆ　≦　３０個
	Ｐ型自動試験中継器２次側の ＰＸ端末、一般感知器接続数 （１系統あたりのトータル接続数）	３０００個まで ※外部電源の増設が必要になる場合があります。 ※回線あたりの接続数は、施工説明書をご覧ください。
	アドレスアダプタ２次側の 一般感知器　接続個数 （１系統あたりのトータル接続数）	Ａ：電子式熱感知器　：２０００個まで Ｂ：煙感知器　：　５００個まで Ｃ：光電式分離型感知器　：　２０個まで Ｄ：熱電対検出器　：　１２５個まで Ｅ：炎感知器　：　１００個まで 上記が混在する時は次の式を満足すること。 Ａ＋４Ｂ＋１００Ｃ＋１６Ｄ＋２０Ｅ　≦２０００ ※外部電源の増設が必要になる場合があります。 ※回線あたりの接続数は、施工説明書をご覧ください。

15.定格・仕様

■分散処理盤定格・仕様（RX1400分散処理盤）(2／3)

<table>
<tr><td rowspan="2">システム容量</td><td>RX
中継器接続個数
（中継器伝送線１系統あたり）</td><td>ａ：監視中継器（８回線）　：２５６回線／系統
ａ：移信中継器（８回線）　：２５６回線／系統
ｂ：防排煙中継器（４回線）　：２５６回線／系統
ｂ：監視中継器（４回線）　：２５６回線／系統
ｂ：移信中継器（４回線）　：２５６回線／系統
ｃ：ガス漏れ中継器（２回線）　：１６０回線／系統
ｄ：防排煙遠隔復帰用中継器（４回線）　：２５６回線／系統
ｅ：地区音響中継器（２回線）　：　８０回線／系統（※２）
ｆ：一般Ｒ型中継器（４回線）　：２５６回線／系統（※１）

上記が混在する時は次の式を満足すること。
８ａ＋４ｂ＋２ｃ＋４ｄ＋２ｅ＋４ｆ　≦２５６回線（※１）
２ｃ　≦１６０回線
２ｅ　≦　８０回線（※２）
４（ａ＋ｂ＋ｃ＋ｄ＋ｅ＋ｆ）　≦４００
※外部電源の増設が必要になる場合があります。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">定格・仕様</td><td>公称蓄積時間
（火災）</td><td>６０秒
＊印感知器：ＡＩ判断機能付
<table><tr><th></th><th>注意</th><th>火災</th><th>連動</th></tr><tr><td>一般熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr><tr><td>一般煙感知器</td><td></td><td>６０秒</td><td></td></tr><tr><td>ＰＸ熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr><tr><td>ＰＸ煙感知器</td><td></td><td>６０秒</td><td></td></tr><tr><td>アドレス熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr><tr><td>アナログ熱感知器</td><td></td><td>１０秒</td><td></td></tr><tr><td>アドレス煙感知器　＊</td><td></td><td>５０秒</td><td>５０秒</td></tr><tr><td>アナログ煙感知器　＊</td><td>５０秒</td><td>５０秒</td><td>５０秒</td></tr><tr><td>アドレス光電分離感知器</td><td></td><td>２０秒</td><td></td></tr><tr><td>アナログ光電分離感知器</td><td>２０秒</td><td>２０秒</td><td>２０秒</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>標準遅延時間（ガス漏れ）</td><td>５０秒</td></tr>
<tr><td>代表移信</td><td>火災代表　：無電圧ａ　接点　１点（Ｆａ－Ｆｃ）　（※３）
ガス漏れ代表　：無電圧ａ　接点　１点（ＧＦａ－ＧＦｃ）　（※３）
故障代表　：無電圧ａ　接点　１点（ＴＦａ－ＴＦｃ）　（※３）
火災復旧出力　：無電圧ａｂ接点　１点（Ｉｒａ、Ｉｒｂ－Ｉｒｃ）（※３）

無電圧接点　接点容量　ＤＣ３０Ｖ　１Ａ</td></tr>
<tr><td>地区音響用電源</td><td>ＤＣ２７Ｖ　８００ｍＡ（Ｂ＋ － ＢＣ（－））（※４）</td></tr>
<tr><td>防排煙制御電源</td><td>ＤＣ２７Ｖ　２Ａ
（ＶＰ１１＋ － ＶＰＣ（－），ＶＰ１２＋ － ＶＰＣ（－））
（全回線同時制御最大　ＤＣ２７Ｖ　２Ａ）</td></tr>
<tr><td>監視用電源</td><td>ＤＣ２７Ｖ　９００ｍＡ（ＤＡ＋ － ＣＣ（－））</td></tr>
<tr><td>外部制御電源（汎用電源）</td><td>ＤＣ２７Ｖ　７００ｍＡ（Ｆ＋ － ＣＣ（－））（※１）</td></tr>
<tr><td>ガス漏れ表示灯用電源</td><td>ＤＣ２７Ｖ　２５０ｍＡ（ＧＳ＋ － ＣＣ（－））</td></tr>
</table>

15.定格・仕様

■分散処理盤定格・仕様（RX1400分散処理盤）(3／3)

定格・仕様	メンテナンス機能	幹線切離しスイッチ　：　１点 分散時連動停止スイッチ　：　１点 分散時連動停止入力　：　１点（ＣＳ－ＣＳｃ） （有電圧入力　ＤＣ２４Ｖ）
	使用周囲温度	－１０℃～＋５０℃
	質量	約１５０ｋｇ　（※５）
配線	主幹線 （受信機－分散処理盤間） （※６）	最遠配線長　：　２，０００ｍ 総配線長　：　２，０００ｍ 適合配線　：　高速伝送対応　耐熱ケーブル（シールド付ツイストペア線） 線径　：　φ１．２ 終端抵抗　：　１００Ω×２（両端接続） その他　：　２重化配線（Ａ側　１Ｐｒ，Ｂ側　１Ｐｒ） ※要求品質　：　ループ抵抗２８Ω以下／ｋｍ 静電容量７２ｎＦ以下／ｋｍ 特性インピーダンス （７００ｋＨｚ－２０ＭＨｚ） １００±１５Ω
	感知器伝送線 （ＮＭＡＳＴ） （※７）（※８）	最遠配線長　：　１，５００ｍ 総配線長　：　２，０００ｍ 適合配線　：　幹線　→　耐熱ケーブル（ツイストペア線） フロア配線　→　耐熱ケーブル 線径　：　配線抵抗２０Ω以下となる線径
	中継器伝送線 （ＮＭＡＳＴ） （※７）（※８）	最遠配線長　：　１，５００ｍ 総配線長　：　２，０００ｍ 適合配線　：　耐熱ケーブル（ツイストペア線） 線径　：　配線抵抗２０Ω以下となる線径

（※１）　分散処理盤外部制御電源（汎用電源）の電流制限について
分散処理盤１面体あたりの一般Ｒ型中継器（４回線）及びアドレスアダプタ４回線用、Ｐ型自動試験中継器４回線用の接続個数が下記の式を満足しない場合は、分散処理盤の外部制御電源（Ｆ＋，ＣＣ）の容量が不足するため、別電源からの電源供給が必要となります。
①＋②＋③≦７００（ｍＡ）
①：一般感知器接続時の監視時消費電流（終端抵抗１０ｋΩ時）
＝２２×（一般Ｒ型中継器（４回線）とアドレスアダプタ４回線用の接続数）
＋５８×（Ｐ型自動試験中継器４回線用の接続数）（ｍＡ）
②：一般感知器使用時の５回線発報時消費電流＝２１５　（ｍＡ）
③：一般Ｒ型中継器（４回線）、アドレスアダプタ４回線用、Ｐ型自動試験中継器４回線用以外の機器の総消費電流　（ｍＡ）

（※２）　地区音響中継器は、分散処理盤の系統数に関わらずトータル接続個数は分散処理盤１台あたり最大８０回線以下です。

（※３）　移信停止スイッチで停止しません。

（※４）　地区音響中継器の消費電流（１０ｍＡ／個）を含みます。

（※５）　仕様により異なる場合があります。

（※６）　主幹線は送り配線としてください。また、送り配線の終端両側共に受信機、分散処理盤の接続端子にて終端抵抗１００Ω　１Ｗ（受信機内に付属）を接続してください。

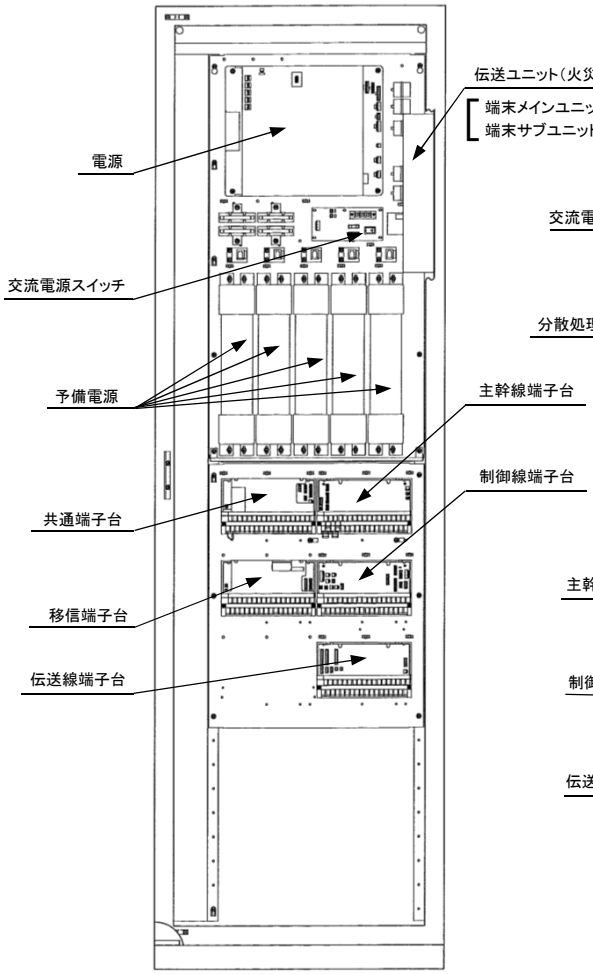
（※７）　ＮＭＡＳＴ伝送線と以下の配線は別シースの配線としてください。
電話線、ＲＳ４８５伝送線、アドレスアダプタ２次側配線、地区音響線

（※８）　建屋をまたがる場合は、シールド線が必要です。

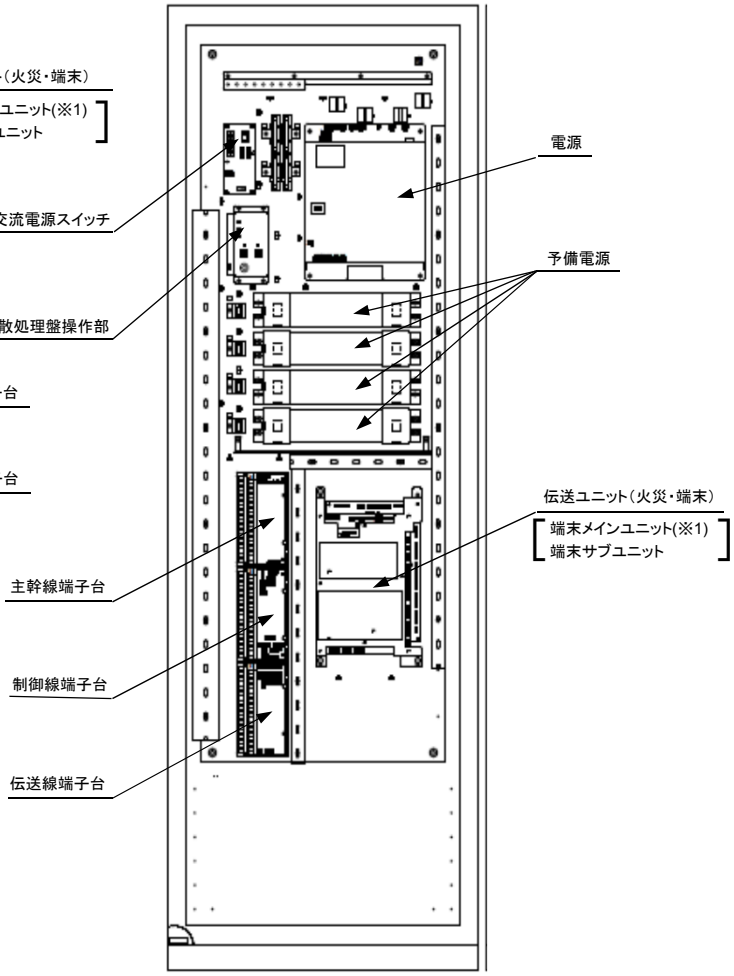
15.定格・仕様

内部構成

RX1400　受信機



RX1400　分散処理盤

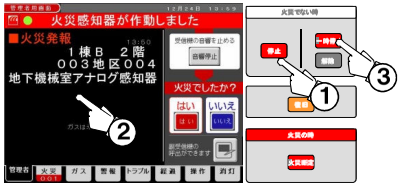


（※1） 品種によっては端末メインユニットを2枚使用します。

付録： 簡易取扱説明書　受信機が作動したときの処置方法

（注：件名仕様により、画面表示内容や操作仕様が異なる場合があります。）

火災発報時の操作



火災音響
：「ピーピー　火災感知器が作動しました。」等

① 受信機音響を停止する。
② 「管理者用画面」で発生場所を確認する。
③ 必要な場合は地区音響を一時停止する。

現場確認
発生場所に行き状況を確認する。

火災の時

火災でない時

⑤「火災断定スイッチ」を3秒以上押し続ける。

⑤「復旧スイッチ」を押す。

連動停止、音響停止が全て解除されます。

平常時の状態に戻ります。

119番に通報し、避難誘導などの適切な処置をしてください。

⑥非火災要因を記録する。
非火災要因記録操作参照

非火災要因記録操作

①非火災要因画面にて火災イベントを選択する。
②非火災要因を選択する。

入力内容を記録する為、復旧スイッチを押してください。

ガス漏れ発生時の操作

ガス漏れ音響
：「ピー　ガス漏れです。ガス漏れです。」

① 受信機音響を停止する。
② 「管理者用画面」で発生場所を確認する。
ガス漏れ発生の可能性があります。

現場確認
発生場所に行き状況を確認する。

ガス栓を締める、ガスを排出する等の適切な処置をしてください。

爆発の危険性があります。
火気は使用しないでください。
電気スイッチに触れないでください。

ガス漏れがなくなると自動的に復旧します。

機器作動時の操作

作動音響
：「ブープー」

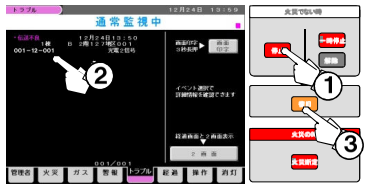
① 受信機音響を停止する。
② 「防排煙・監視画面」で発生場所を確認する。
諸警報・防排煙が作動しています。

現場確認
発生場所に行き状況を確認する。

作動状態確認後、現場復旧等の適切な処置が終了しましたら③復旧スイッチを押してください。

一部の監視信号は現場復旧にて信号復旧しない場合がありますので、処置後は必ず復旧スイッチを押してください。

トラブル発生時の操作



トラブル音響
：「ピー　トラブルが発生しました。」

① 受信機音響を停止する。
② 「トラブル画面」で発生場所を確認する。
なんらかの異常が発生した可能性があります。

現場確認
発生場所に行き状況を確認する。

トラブル詳細は、トラブル項目を選択後「要因表示」で確認できます。

発生トラブルの適切な処置が終了しましたら③復旧スイッチを押してください。

操作画面

① 「管理者」を押し、「管理者用画面」を表示する。
管理者用画面にて以下の操作が可能です。
- スイッチ注意灯要因表示
- 時刻設定
- 日報印字
- メンテ管理
  - 非火災要因入力
  - 自動試験結果
  - 感知器汚れ印字
- 副表示機呼び出し

① 「操作」を押し、「基本操作画面」を表示する。
基本操作画面にて以下の操作が可能です。
- 一斉試験
- 防排煙連動停止
- 移信連動停止
- 消火栓連動停止
- 周辺機器移報停止
- プリンタ停止
- 模擬試験
- 制御操作

電話呼出時

電話音響
：「プルルルル　プルルルル」

① 自火報電話機を電話ジャックに接続してください。

自火報電話機を接続するまで電話音響は停止しません。

この自火報電話機では消防署への通報はできません。
自火報電話機を電話ジャックに接続したままで放置しないでください。

MEMO

MEMO

連絡先一覧表　施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点検契約店	TEL
施　工　店	TEL
設 備 竣 工	年　　月　　日

日本ドライケミカル株式会社

8YE-07026-AP　2版